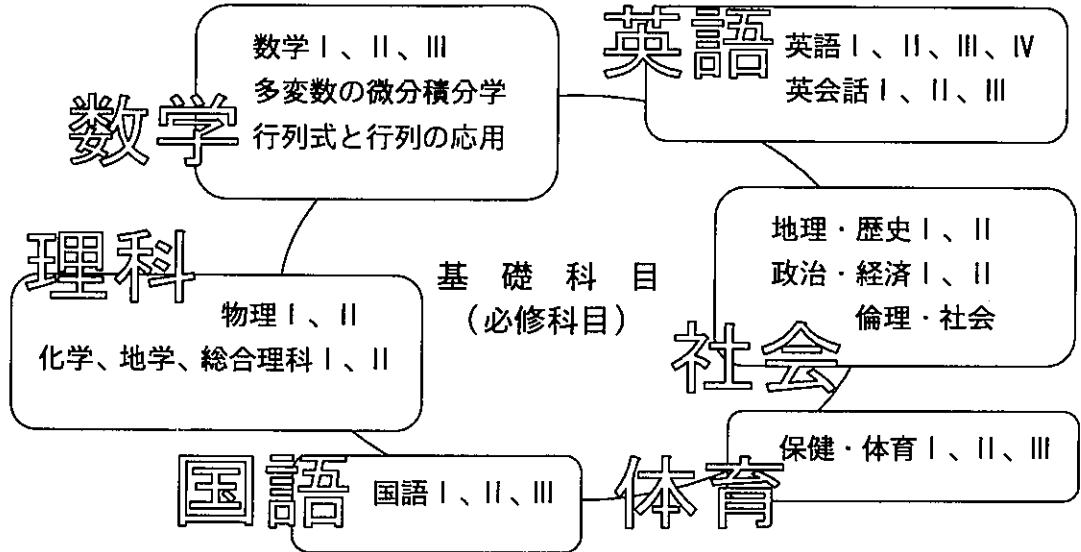
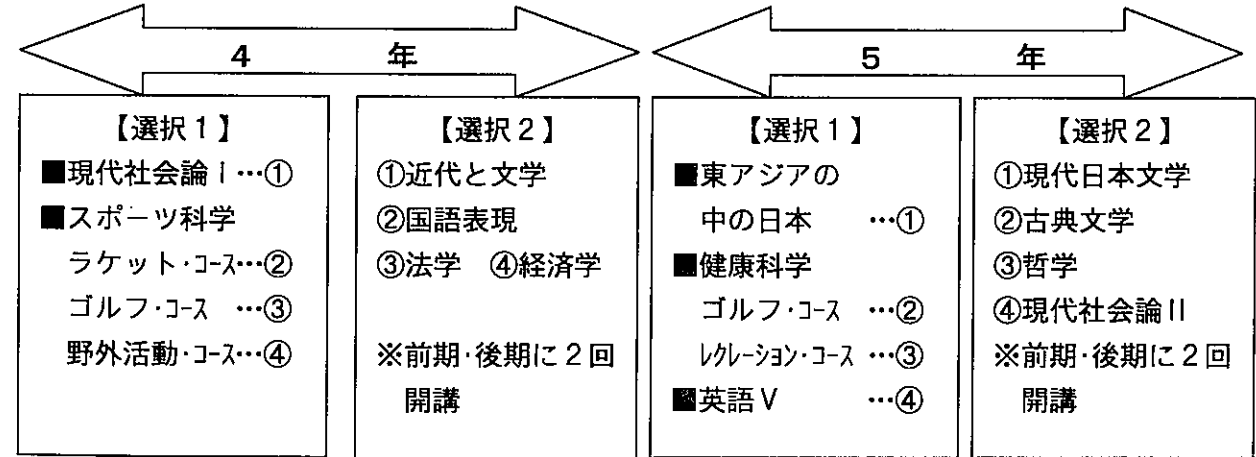


# 一般科目 カリキュラム

## ● 基礎科目



## ● 応用科目



## ● 特別選択科目

科目名	開講学年	開講期間	内容
基礎定着セミナー1	1年	前期	数学Ⅰ演習
基礎定着セミナー2	1年	後期	数学Ⅰ演習
基礎定着セミナー3	1～2年	前期	英語基礎演習
基礎定着セミナー4	1～2年	後期	パソコン基礎
応用力養成セミナー1	2～4年	前期	英語Ⅰ・Ⅱ演習/資格試験問題演習
応用力養成セミナー2	2～4年	後期	数学Ⅰ・Ⅱ演習/資格試験問題演習
進路支援セミナー1	4～5年	前期	実践的数学力/入社試験問題等演習
進路支援セミナー2	4～5年	後期	実践的英語力/資格試験問題演習
進路支援セミナー3	4～5年	後期	小論文演習
一般科セミナー			資格・外部試験の単位認定 「漢字能力技能検定」「日本語力測定試験」 「実用英語技能検定」「実用数学技能検定」

一般科目 系統図

☆基礎科目は、一般科の基本方針の一つである「自立した実践的技術者育成のため、専門的な知識と技術の基礎力を養成する」ことを目標とし、基礎的・基本的事項を重視した教科をバランスよく設置する。また、数理的な能力、社会および自然に対する理解力、論理的な表現力、国際的に通用するコミュニケーション力等の専門教育の基礎的な学力の育成を図る。

☆応用科目は一般科の基本方針の一つである「知徳体の調和した豊かな人間性を養い、幅広い知識と教養をそなえた技術者の素地を培う」ことを目標とし、4、5年の選択科目受講の機会が増えるように科目を設置する。前期、後期に1単位の同一科目を実施することで、人文、社会、芸術の中から多くの科目を選択できるようにする。また、通年の選択として、社会、自然、外国語を開講する。

☆特別選択科目は専門教育の基礎的な学力の充実を図ることと学生の積極的な学習の支援を行なうことを目標とし、「学生自らが学び、自ら考える」ような科目として設置する。実際には、専門の基礎科目の学力定着を目指すもの、技術者の基本的ツールであるパソコンを使いこなす基礎力の養成を目指すもの、視聴覚教材を通して現代社会の諸相と歴史の理解を目指すもの等を開講する。また、「一般特別セミナー」を開講し、学年にこだわらず外部単位の認定を行なう。

	1年	2年	3年	4年	5年
基礎科目	英会話Ⅰ(1)	英会話Ⅱ(1)	英会話Ⅲ(1)	英語Ⅳ(2)	【選択:通年(2)】 英語Ⅴ
	英語Ⅰ(5)	英語Ⅱ(4)	英語Ⅲ(4)		
	保健・体育Ⅰ(3)	保健・体育Ⅱ(2)	保健・体育Ⅲ(2)	【選択:通年(2)】 健康科学	
	地理・歴史Ⅰ(1)	地理・歴史Ⅱ(2)	倫理・社会(2)		
	国語Ⅰ(2)	国語Ⅱ(2)	国語Ⅲ(2)	【選択:通年(2)】 東アジアの中の日本	
	総合理科Ⅰ(1)	総合理科Ⅱ(1)	政治・経済Ⅱ(1)		
	化学(3)	物理Ⅰ(3)	物理Ⅱ or 地学(2)	【選択:半期(1)】 哲学	
	数学Ⅰ(6)	数学Ⅱ(6)	数学Ⅲ(4)		
				【選択:半期(1)】 日本現代文学	
			多変数の微分積分学(1)		
			行列式と行列の応用(1)		
特別選択科目	【選択:半期(1)】 ※ ( ) 内は単位数				
	基礎定着セミナー1・2	応用力養成セミナー1		進路支援セミナー1	
	基礎定着セミナー3	応用力養成セミナー2		進路支援セミナー2	
	基礎定着セミナー4			進路支援セミナー3	
	一般特別セミナー(学年に関係なく最大4単位)				

平成17年度 一般科目 授業科目と担当教官

区分1	区分2(科目)	授業科目	単位数	1年	2年	3年	4年	5年	科目担当
必修	国語	国語Ⅰ	2	2					村田勇
		国語Ⅱ	2		2				村田由(非)
		国語Ⅲ	2			2			道園
	社会	地理・歴史Ⅰ	1	1					佐藤、時松
		地理・歴史Ⅱ	2		2				佐藤
		政治・経済Ⅰ	1		1				時松
		政治・経済Ⅱ	1			1			時松
		倫理・社会	2			2			小林
	数学	数学Ⅰ	6	6					小原・五十川・小鉢・濱田
		数学Ⅱ	6		6				小原・五十川・小鉢・濱田
数学Ⅲ		4			4			宮坂(非)・吉田(非)・野入(非)	
多変数の微分積分学 行列式と行列の応用		1 1				1 1		元田・小原・五十川・濱田 元田・五十川・濱田	
理科	化学	3	3					上土井・境(非)	
	物理Ⅰ	3		3				北辻・山下(M)・吉沖(E)	
	物理Ⅱ	2			2			北辻・古閑(M)・吉沖(E)	
	地学	2			2			久保田(C)	
総合理科	総合理科Ⅰ	1	1					上土井・境(非)	
	総合理科Ⅱ	1		1				北辻・山下(M)・吉沖(E)	
体育	保健・体育Ⅰ	3	3					宅島・四宮・坂川(非)・福江(非)	
	保健・体育Ⅱ	2		2				宅島・四宮・坂川(非)・福江(非)	
	保健・体育Ⅲ	2			2			宅島・四宮・坂川(非)・笹本(非)	
外国語	英語Ⅰ	5	5					宇ノ木・関・長嶺・小山(非)	
	英語Ⅱ	4		4				関・長嶺・小山(非)・福井・前山(非)	
	英語Ⅲ	4			4			宇ノ木・関・長嶺・福井・ゲイル	
	英語Ⅳ	2				2		前山(非)	
	英会話Ⅰ 英会話Ⅱ 英会話Ⅲ	1 1 1	1		1			ゲイル ゲイル ゲイル	
	開設単位	68	22	22	20	4			
	履修可能単位	66	22	22	18	4			
選択	人文	近代と文学	1				1		道園
		国語表現	1				1		村田勇
		日本現代文学	1				1		道園
		古典文学	1				1		村田勇
	社会	法学	1				1		小林
		経済学	1				1		時松
		哲学	1				1		小林
		現代社会論Ⅰ 現代社会論Ⅱ 東アジアの中の日本	2 1 2				2		小林 佐藤 佐藤・時松・今西(非)
	自然	スポーツ科学	2				2		宅島・四宮・笹本(非)
		健康科学	2				2		宅島・四宮
外国語	英語Ⅴ	2					2	長嶺	
	開設単位	18				8	10		
	履修可能単位	8				4	4		
特別選択科目	情報基礎定着セミナー	1	1						村田勇ほか
	数学基礎定着セミナーa	1	1						数学科
	数学基礎定着セミナーb	1	1						数学科
	英語基礎定着セミナー	1	1						英語科
	数学応用力養成セミナー	1			1				数学科
	英語応用力養成セミナー	1			1				英語科
	進路支援セミナーa	1				1			数学科
	進路支援セミナーb	1				1			英語科
	進路支援セミナーc	1				1			村田勇ほか
	一般特別セミナー	4							村田勇ほか
	開設単位	9	3	2	2	2			
	履修可能単位	8	2	2	2	2			
	開設単位	27	3	2	2	10	10		
	履修可能単位	16	2	2	2	6	4		
	開設単位	95	25	24	22	14	10		
	基礎履修可能単位数	74	22	22	18	8	4		
	履修可能単位	82	24	24	20	10	4		

【授業科目名】国語Ⅰ Japanese

【対象クラス】1年全学科

【科目区分】基礎科目・必修

(教育目標との対応：A1, F1)

【授業形式・単位数】講義・2単位

【開講期間・時間数】通年・100分

【担当教員】村田秀明(一般科)

(研究室) 一般棟 3F 村田教員室

E-mail: murata@as.yatsushiro-nct.ac.jp

【科目概要】

日本語を的確に理解し、適切に表現する基礎基本を身につける。文章読解の基礎的な方法を習得する。

古典の基礎また読解の過程を通して論理的な思考力や文学的な感受性を育てる。

【授業方針】

読むこと・書くこと・話すこと・聞くことの4分野にわたる日本語運用能力について、各自の弱点を把握して貰いその補強に努め、しっかりとした基礎力を身につける。

教科書以外にも、可能な限り各種の古今の広い分野の文章を読解することを通して、文章読解の基礎的な方法を身につけ、社会や人間に対して関心を持ち、論理的な思考や文学的な感受性を育てる。現代文は、特に論理的な文章に焦点を当てる教材を補充する。古典は、導入を丁寧に扱い、興味を高めるため、古文では話のおもしろさを味わう随筆『徒然草』から教材を補充する。漢文では、親しみやすい「格言・故事成句」の教材を補充する。

【達成目標】

1. 日本語運用能力(読むこと・書くこと・話すこと・聞くこと)について、各自の弱点を把握する。
2. 論理的な文章の読解の基礎として要点をとらえることができる。
3. 古文学習の基礎、仮名遣いを理解でき、正しく音読できる。
4. 古語や文法に慣れ適切な現代語訳ができる。
5. 漢文とはどのようなものかの基礎的知識を持つことができる。
6. 訓読の仕方と訓点の働きを理解でき現代語訳ができる。

【教科書等】

教科書:『新編国語総合』(明治書院)

参考書:『国語表現活動マニュアル』(明治書院)

『常用漢字の学習レッドコース』(桐原書店)

【授業スケジュール】

1. 日本語運用能力テスト
2. 日本語運用能力診断
3. 随想「言葉」
4. 随想「言葉」
5. 随想「子供の問い」
6. 随想「子供の問い」
7. コラム
8. 〔中間試験〕
9. 古文の基礎(児とかいもちひ)
10. 「徒然草」(雪のおもしろう降りたりし朝)
11. 「徒然草」(亀山殿の御池に)
12. 「徒然草」(奥山に猫またといふものありて)
13. 「徒然草」(丹波に出雲といふ所あり)
14. 「徒然草」(園の別当入道は)  
〔前期末試験〕
15. 漢文の基礎
16. 「故事成句」(守株)
17. 「故事成句」(断腸)
18. 「故事成句」(借虎威)
19. 「故事成句」(蛇足)
20. 「故事成句」(苛政猛於虎也)
21. 「故事成句」(五十歩百歩)
22. 〔中間試験〕
23. 評論(「そのままの自分を活かす心理学」)
24. 評論(「自己表現」)
25. 評論(「日本語の個性」)
26. 評論(「ことばと文化」)
27. 評論(「ドラえもんの大切なメッセージ」)
28. 評論(「エコロジック的思考のすすめ」)
29. 評論(「『欲望』と資本主義」)  
〔後期学年末試験〕
30. まとめ

【関連科目】

「国語Ⅱ」(2年必修)

「国語Ⅲ」(3年必修)

「近代と文学」(4年選択)

「日本現代文学」(5年選択)

「古典文学」(5年選択)

【成績の評価方法と評価基準】

\*1から6の目標項目については定期試験で確認する。なお、1の「書くこと」については、小テスト、作文で確認する。

\*成績の算出方法は、定期試験を80%、小テスト、作文を20%とし、成績が60点以上で合格とする。

【学生へのメッセージ】

論理的思考力を養い、人生を積極的に生きるという観点から教材を選定した。文章を通して、様々な価値観に触れ、論理的な思考力を育成し「言葉」に対する自覚を高めよう。古典教材は基礎的、基本的なものとした。基礎をしっかりと身につけよう。

**【授業科目名】地理・歴史 I**

Geography・History I

**【対象クラス】**1年全学科**【科目区分】**基礎科目・必修

(教育目標との対応:A-2)

**【授業形式・単位数】**講義・1単位**【開講期間・時間数】**前期・後期・100分**【担当教官】**佐藤伸二、時松雅史(一般科)

(研究室)一般棟 1F 佐藤、時松研究室

E-mail:sato@as.yatsushiro-nct.ac.jp

E-mail:tokimatu@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**【科目概要】**

自然を克服することによって生まれ、自然環境の違いを超えて伝播する文明と、自然環境と深く関わり地域の生活に根ざした文化との関係を理解させる。このことを通して文化の価値に気づかせる。西ヨーロッパ・東ヨーロッパ・イスラムの世界の基礎となっている古代オリエント文明・ギリシャ文明・ローマ文明について理解させる。そして近代ヨーロッパ世界の形成と膨張の課程を理解させる。

**【授業方針】**

教科書を読ませ、内容について質問し、理解しているかを確認する。理解していない部分については説明する。必要に応じて、関連の資料を配り、その内容を説明する。

なお、前期、後期ともに佐藤と時松の二人が交代で担当する。

**【達成目標】**

1. 世界の農耕の成立とその特色について理解できる。
2. オリエント世界の成立過程を理解し、その中で生まれたアルファベット(表音文字)や一神教がその後の世界に与えた影響について理解できる。
3. 地中海世界がどのように形成されたか、その中で発展した文化がその後の世界に与えた影響について理解できる。
4. 15世紀頃のヨーロッパ内部の交易やアジアとの貿易について学ぶ。
5. 大航海時代の到来によりヨーロッパと世界がどのように変わっていくのかを理解できる。
6. 資本主義の発達過程を理解するために、イギリスの産業革命や19世紀のアメリカの経済発展について学ぶ。そして経済が発展するために必要な人々の行動や思想について理解できる。

**【教科書等】**

教科書:『世界史 B』尾形勇ほか 東京書籍

参考書:『ヨーロッパ中世』鯖田豊之 河出書房新社

**【授業スケジュール】**

1. 世界史の舞台
2. 人類以前の人類
3. 文明の誕生と文明圏(世界)
4. オリент世界
5. ギリシャ世界とヘレニズム世界
6. ローマの発展と地中海世界の成立
7. 地中海世界の解体と新しい世界の誕生
8. (中間試験)
9. ヨーロッパ世界の成立
10. ロビンソン・クルーソーの世界
11. カトリック教とカルヴァン主義
12. 大航海時代の到来
13. イギリスの産業革命
14. 機械の発明と綿工業及び資本主義の発展(前期末試験、学年末試験)
15. 試験返却及びまとめ

**【関連科目】**

地理・歴史 II

**【成績評価】**

1~5の項目について、定期試験(2回)を基に評価する。成績は2回のテストの平均とする。

**【学生へのメッセージ】**

教科書をよく読み、歴史地図をよく見て、国名、地域名、都市名を正確に知ること。そして話をよく聞いてノートにメモしていくこと。

本校の社会科を学んでいくための最初のステップになるので中学校の時とは違った学習方法を身に付けてほしい。

質問は随時受け付けます。スケジュールを確認して来室して下さい。

**【授業科目名】数学 I Mathematics I****【対象クラス】**1年全学科**【科目区分】**基礎科目・必修

(教育目標との対応:B-1)

**【授業形式・単位数】**講義・6単位**【開講期間・時間数】**通年・300分**【担当教官】**

小原康博(一般科)・五十川読(一般科)

小鉢暢夫(一般科)・濱田さやか(一般科)

(研究室)一般棟 2F 小原教員室

E-mail:ohara@as.yatsushiro-nct.ac.jp

(研究室)一般棟 2F 五十川教員室

E-mail:isagawa@as.yatsushiro-nct.ac.jp

(研究室)一般棟 2F 小鉢教員室

E-mail:kohachi@as.yatsushiro-nct.ac.jp

(研究室)一般棟 2F 濱田教員室

E-mail:hamada@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**【科目概要】**

本科目では、基本的な式の計算、方程式、不等式、簡単な関数のグラフ、三角形・直線・線分等の平面図形及び命題等の基本的な性質を取り扱う。また中学までに学んだ数や式の計算、初歩的な平面図形やグラフ等に関する知識を基礎としている。

本科目は、数学IIさらには数学IIIを学ぶための基礎となる科目である。

**【授業方針】**

本講義は教科書を中心に進め、下記の目標項目に関する解説と演習を行う。また、適宜授業内容を確認するための試験を実施する。関数や平面図形に関する基本的な知識の修得と、簡単な式の計算ができるようになることを目標とする。

**【達成目標】**

1. 次の各項目に関する簡単な計算ができる。  
式の展開・因数分解、複素数の四則、絶対値を含んだ式、分数式、無理式、指数・対数・三角関数
2. 次の各項目に関する簡単な方程式が解ける。  
1次・2次方程式等、分数方程式、無理方程式、指数・対数・三角関数の方程式
3. 次の各項目に関する簡単な不等式が解ける。  
1次・2次不等式等、指数・対数・三角関数の不等式
4. 関数の基本的な性質を理解し、次の各項目に関する簡単な関数のグラフをかくことができる。  
1次・2次関数、べき関数、分数関数、無理関数、指数・対数・三角関数
5. 三角形・直線・線分等の平面図形および等式・不等式・命題等の基本的な性質を取り扱うことができる。

**【教科書等】**

教科書:新編 高専の数学1(第2版)

田代嘉宏・難波完爾編 森北出版

参考書:新編 高専の数学1問題集(第2版)

田代嘉宏編 森北出版

**【授業スケジュール】**

1. 整式の加法・減法・整式の乗法
2. 因数分解・整式の除法
3. 整式の約数・倍数・有理式
4. 実数・実数の大小・平方根を含む式の計算
5. 2次関数のグラフ・2次関数の最大・最小
6. 複素数
7. (中間試験)
8. 答案返却
9. 2次方程式の解の公式・2次方程式の解・判別式・解と係数の関係
10. 解と係数の関係・不等式
11. 2次不等式
12. 集合・命題
13. 恒等式・因数定理・3次方程式・4次の方程式
14. 高次の不等式・等式・不等式の証明(前期末試験)
15. 答案返却
16. 関数・平行移動・対称移動・べき関数・分数関数
17. 無理関数・逆関数
18. 累乗と累乗根・指数の拡張
19. 指数関数・対数
20. 対数関数
21. 鋭角の三角関数・一般角と弧度法
22. (中間試験)
23. 答案返却
24. 三角関数の関係・三角関数のグラフ
25. 加法定理・いろいろな公式
26. 三角関数の方程式・不等式の解
27. 三角関数の面積と正弦定理・余弦定理
28. 直線上の点の座標・平面上の点の座標
29. 直線の方程式・2直線の関係(学年末試験)
30. 答案返却

**【関連科目】**

本科1年 一般科目基礎セミナー(数学a、b)

本科2年 数学II 本科3年 数学III

**【成績の評価方法と評価基準】**

4回の定期試験の成績(80%)と、適宜実施する確認のための試験またはレポートの成績(20%)によって目標項目の達成度を評価する。

算出された最終成績が60点以上を合格とする。

**【学生へのメッセージ】**

・やさしい基本的な問題を何回も正確に解くことが数学上達の早道です。

・講義や演習に関する質問は、放課後を利用して教員室まで訪ねてきてください。尚、担当の者だけでなく数学科全員で対応しておりますので気軽に声をかけてください。

**【授業科目名】化学 Chemistry**

【対象クラス】1年全学科

【科目区分】基礎科目・必修  
(教育目標との対応: B-1)

【授業形式・単位数】講義・3単位

【開講期間・時間数】通年・150分

**【担当教官】**上土井幸喜(一般科)・境雅子(非常勤)  
(研究室) 一般棟1F 上土井教員室

E-mail: jyodoi@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**【科目概要】**

専門基礎としての化学の位置づけを考慮に入れ、観察・実験・探求活動などを行い、基本的な概念や探求方法を学習させる。まず、原子・イオン・分子などの粒子の構造とこれらの粒子の質量と物質の質量との関係について学習させる。次に、物理変化や化学変化を観察・実験を通して物質に含まれるエネルギーと関連づけて考察し、具体的な化学反応の例として酸・塩基の性質と中和反応、酸化・還元反応と電子の授受などを中心に考えさせる。さらに、単体や無機化合物の性質、有機化合物の構造と性質との関係などについても理解を深めさせる。

**【授業方針】**

教科書を中心に授業を進め、必要に応じて実験、演示実験を行い資料等を配布する。化学を勉強することにより、つくり出されたさまざまな物質についての理解を深め、普段見慣れている物質や現象についてどうなっているのか、化学的なものの見方ができることを目標とする。

**【達成目標】**

1. 原子・分子・イオンなどの粒子の構造を理解できる
2. 物質の質量と原子・分子・イオンの質量との関係を理解できる。
3. 物理変化や化学変化を物質に含まれているエネルギーと関連づけて考察できる。
4. 化学反応の例として、酸・塩基の性質と中和反応、酸化・還元反応と電子の授受を考察することができる。
5. 有機化合物の構造と性質の関係やわれわれの日常生活とのかかわりについて考えることができる。

**【教科書等】**

教科書:「高等学校化学I」野村祐次郎著 数研出版  
問題集:「化学I学習ノート」数研出版  
参考書:「フォトサイエンス化学図録」数研出版

**【授業スケジュール】**

1. 物質とその成分
2. 純物質と混合物
3. 原子
4. イオン
5. 元素の周期律
6. 分子や原子からできている物質
7. 原子量・分子量・式量
8. (前期中間試験)
9. 前期中間試験の返却と解答
10. 化学反応式と物質量
11. 化学反応
12. 化学反応と熱の出入り
13. 酸と塩基
14. 水の電離と水溶液のpH  
(前期末試験)
15. 前期期末試験の返却と解答
16. 中和反応と塩
17. 酸化と還元
18. 酸化・還元と酸化数
19. 酸化剤・還元剤
20. 金属のイオン化と電子の授受
21. 金属のイオン化傾向と単体金属の性質
22. 電池・電気分解
23. (後期中間試験)
24. 後期中間試験の返却と解答
25. 有機化合物の分類と分析
26. 脂肪族炭化水素
27. 不飽和炭化水素
28. 不飽和炭化水素
29. アルコールと関連化合物  
(学年末試験)
30. 後期期末試験の返却と解答

**【関連科目】**

生物工学科全般の基礎科目として特に関連が深い。  
また、その他の学科の基礎としても関連がある。

**【成績評価】**

4回の定期試験、夏季共通試験、県下一斉テスト、冬季共通試験の結果を80%程度とし、その他実験レポート、小テストの評価を20%程度加える。

**【学生へのメッセージ】**

授業中の理解を確実にするために、予習を・復習を必ず行い、問題意識をもって授業にのぞんで欲しい。教科書や、問題集の問題を自分で解き、事項の整理や理解を一層深める。疑問を生じたらそのまま放置しないで、自分で調べたり質問して欲しい。

質問は随時受け付けます。スケジュールを確認して来室して下さい。

**【授業科目名】総合理科I**

Synthetic Science I

【対象クラス】1年全学科

【科目区分】基礎科目・必修  
(教育目標との対応: B-1, E-1)

【授業形式・単位数】講義、実験・1単位

【開講期間・時間数】通年・50分

**【担当教官】**上土井幸喜(一般科)・境雅子(非常勤)  
(研究室) 一般棟1F 上土井教員室

E-mail: jyodoi@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**【科目概要】**

総合理科Iは化学的な学習項目を中心に実施する。また、総合理科Iでは探求的な学習をより一層重視し、自然を探究する能力を育成するとともに豊かな化学的素養を身に付けさせる。そのため、実験を中心にした授業を行い、合わせて座学での内容説明、実験後のまとめ、考察・探求を行う。数テーマについて身近なところから実験題材を選び、実験観察による体験学習を通して化学の基本的なことから、本質的に重要な事柄についてしっかりと理解させる。

**【授業方針】**

「自ら学び、自ら考える力」や「課題探求能力」の向上と、バランス感覚のある実践的な幅広い視野を身に付けることを学習目標にしている。そのために観察・実験による活動や探求活動を中心にした授業を行う。

**【達成目標】**

1. 蒸留について理解できる。
2. 金属の結晶格子(体心立方格子や面心立方格子)について理解できる。
3. 物質の精製法の一つ、再結晶の原理が理解できる。
4. 高級脂肪酸のステアリン酸分子の単分子膜を利用してアボガドロ定数を求めることができる。
5. 化学反応の量的関係が理解できる。
6. 市販の酢酸の濃度を中和滴定により測定できる。
7. 一遺伝子雑種について、分離の法則が理解できる。
8. 細胞の作りや遺伝の方法が理解でき、社会的な話題となっている(ヒトゲノム計画、遺伝子組み換え作物、クローン羊など)について理解できる。
9. 電池の反応が理解できる。
10. けん化反応が理解できる。

**【教科書等】**

参考書:「フォトサイエンス化学図録」数研出版

**【授業スケジュール】**

1. 物質の分離(海水の蒸留、ペーパークロマトグラフィ) (実験)
2. 物質の分離(海水の蒸留、ペーパークロマトグラフィ) (実験)
3. 金属の結晶格子の模型の製作(工作)
4. 金属の結晶格子の模型の製作(工作)
5. 再結晶(実験)
6. 再結晶(実験)
7. アボガドロ定数の測定(実験)
8. (前期中間試験)
9. 前期中間試験の返却と解答
10. アボガドロ定数の測定(実験)
11. 化学反応の量的関係(実験)
12. 化学反応の量的関係(実験)
13. 中和滴定(実験)
14. 中和滴定(実験)  
(前期末試験)
15. 前期期末試験の返却と解答
16. 生命の単位・細胞(講義)
17. 生命の単位・細胞(講義)
18. 生物の変遷(講義)
19. 生物の変遷(講義)
20. 遺伝子の実体とその働き(講義)
21. 遺伝子の実体とその働き(講義)
22. 分離の法則の検証(実験)
23. (後期中間試験)
24. 後期中間試験の返却と解答
25. 電池の製作(実験)
26. 電池の製作(実験)
27. 環境問題等の調べ学習
28. セッケンの合成(実験)
29. セッケンの合成(実験)  
(学年末試験)
30. 学年末試験の返却と解答

**【関連科目】**

生物工学科全般の基礎科目として特に関連が深い。  
また、その他の学科の基礎としても関連がある。

**【成績評価】**

各実験テーマ毎にレポートを提出してもらう。また、その内容について定期テストを行う。レポートの評価を30%、定期テストの評価を70%として、その合計で成績を評価する。

**【学生へのメッセージ】**

実験・講義等を通して、化学に対する興味を持ってもらい、自ら考える力や課題探求能力を磨いて欲しい。  
質問は随時受け付けます。スケジュールを確認して来室して下さい。

【授業科目名】保健体育Ⅰ（剣道・保健体育概論）  
Physical Education I

【対象クラス】1年全学科

【科目区分】基礎科目・必修

（教育目標との対応：G-2）

【授業形式・単位数】実技及び講義・1単位

【開講期間・時間数】前期・後期・100分

【担当教官】四宮 一郎（一般科）

（研究室）一般棟1F四宮教員室

E-mail: sinomiya@as.yatsushiro-nct.ac.jp

#### 【科目概要】

【剣道】日本古来より伝わる剣道を通して、基本技術はもちろん、「礼に始まり礼に終わる」といった武道の精神についても学ぶ。

【保健体育概論】生涯にわたり健康な生活を送ることは、人々の理想であり願望である。健康な生活を送るためには、健康に関する知識が不可欠であることは言うまでもない。ここでは、生涯にわたり健康な生活を送るための知識を深めることに重点を置いて授業を展開する。

#### 【授業方針】

本授業は、100分の内前半に保健体育概論、後半に剣道の実技を第1体育館にて行う。

【剣道】

我が国古来の武術である剣道を通して、伝統文化の伝承と「礼」を学ぶとともに、剣道の特性を理解して、基本動作を正しく身につけ、対人的技能に習熟する。また、相互に相手を尊重し、闘争的雰囲気の中でも理性を失わず、冷静にして公正な態度を維持し、自己の修養に努める。

【保健体育概論】

1) 生涯にわたって健康な生活を送るために、私たちの健康を阻害している要因について理解を深めさせ、日常生活で実践できる態度を育成する。

2) 精神の健康について知らせ、欲求の拡大する青年期こそが自分を見つめなおす絶好の機会であることを学ばせる。

3) 心配蘇生法を学ぶことによって命の大切さを認識させ、非常時の応急手当を身につけさせる。

#### 【達成目標】

- 1, 技能の向上と基本技の応用ができる。
- 2, 社会的態度（規則を守る・責任感・協調性・安全性）を身につける。
- 3, わが国の健康問題について理解し、知識を深めることができる。
- 4, 精神の健康について理解を深めることができる。
- 5, 救急法について学び、実践することができる。

#### 【教科書等】

適宜資料を配布する。

#### 【授業スケジュール】

【剣道】

1. ガイダンス、立礼、座礼
2. 構えと体さばき、足さばき
3. 防具の脱着法と収納法、試合作法
4. 面打ちと受け方
- 5~6. 繰り返し
7. 小手打ちと受け方、胴打ちと受け方
8. 二段技（面→面、小手→面、）
9. 三段技（小手→面→胴）
10. 払い技
11. ひき技（ひき胴、ひき面）
12. 二段技（面ひき面、面ひき胴）
- 13~14. 前回までの技の復習、掛かり稽古
15. 評価

【保健体育概論】

1. ガイダンス
2. 私たちの健康のすがた
3. 健康の考え方
4. 食事と健康
5. 運動と健康
6. 休養と健康
7. 脳と精神機能
8. (中間試験)
9. 中間試験の返却と解説
10. 心身相関
11. 欲求と欲求不満
12. 適応機制
13. 感染症の予防
14. エイズとその予防
15. 応急処置の手順及び心配蘇生法の実際  
(期末試験)

#### 【関連科目】

4年 スポーツ科学

5年 健康科学

#### 【成績評価】

保健体育特論の2回の定期試験（50%）と剣道の実技の結果（50%）を総合して評価とする。

#### 【学生へのメッセージ】

剣道の基本技の習得はもちろん、剣道を通して日本の文化も学んでほしい。保健体育概論では、健康や命の大切さを再認識し、授業で学んだことを日常生活で実践できるようになってほしい。

質問は時間割を確認の上入室すること。また、メールでの質問も随時受け付ける。

【授業科目名】保健体育Ⅰ（バレーボールⅠ、水泳）  
Physical Education I

【対象クラス】1年全学科

【科目区分】基礎科目・必修

（教育目標との対応：G-2）

【授業形式・単位数】講義及び実技・2単位

【開講期間・時間数】通期/4・100分

【担当教官】宅島 章（一般科）

（研究室）一般棟1F宅島教員室

E-mail: takusima@as.yatsushiro-nct.ac.jp

#### 【科目概要】

バレーボールⅠでは、上手パス、組み手パス、レシーブ、サーブ、アタック等の基本的技術を重点に行う。また、柔軟性・敏捷性等の体力の養成も行う。水泳は、クロール、平泳ぎ、背泳の泳法と救助法を学ぶ。

#### 【授業方針・学習目標】

○社会的態度の育成：規則を守る・責任感・協調性・安全性。

○基礎技術：バレーボールでは、上手パス・組み手パスを個人で30秒間連続できること。

水泳は、クロール、平泳ぎ、背泳のいずれかの種目で50mを60秒以内で泳げること。

#### 【達成目標】

1. 技能を向上させ、各種大会の計画立案と運営をすることができる。
2. 社会的態度（規則を守る・責任感・協調性・安全性）を身につける。

#### 【教科書等】

適宜、必要に応じて紹介するが、自らもインターネット等を活用し、その競技のルールや歴史、練習方法を自学・自習すること。

#### 【授業スケジュール】

1. ガイダンスと基本技の説明
2. 個人技（上手パス、組み手パス）
3. 個人技及びチーム連携技
4. トス・アタックとサーブ
5. トス・アタックとサーブと簡易ゲーム
6. 簡易ゲームと基本技のスキルテスト
7. 水泳6月第4週
8. 水泳7月第1週
9. 水泳7月第2週

#### 【関連科目】

4年 スポーツ科学

5年 健康科学

#### 【成績評価】

評価は、出席状況 50%、筆記試験及びレポート 20%  
実技試験 30%とする。

#### 【学生へのメッセージ】

- 身体活動には身体接触や転倒が生じる。安全な指定の体育服・靴を着用すること。また、危険性の伴う指輪、ネックレス、ピアス等の装身具は身につけないこと。授業の前日は睡眠を充分確保しておくこと。
- 始業時間を厳守すること。
- 質問等においては、授業は勿論、他の時間帯でも受けるので、積極的に参加して欲しい。

【授業科目名】保健体育Ⅰ（トレーニング実践Ⅰ）

Physical Education I

【対象クラス】1年生全学科

【科目区分】基礎科目・必修

（教育目標との対応：G-2）

【授業形式・単位数】講義及び実技・2単位

【開講期間・時間数】通期/4・100分

【担当教官】四宮一郎（一般科）

（研究室）一般棟1F 四宮教員室

E-mail: sinomiya@as.yatsushiro-nct.ac.jp

【科目概要】

運動が健康の保持・増進にとって不可欠なものであることを認識し、健康と運動の関わりについて学ぶ。また、個人の体力レベルにあったトレーニングを毎週実施し、トレーニングの効果を確認するために、第1週と最終授業に測定を行う。

また、水泳ではクロール、平泳ぎ、背泳の泳法を練習し、最終授業でタイムトライアルを行う。

【授業方針】

トレーニング実践Ⅰ：健康の維持・増進にとっての運動の必要性を知り、トレーニングの基本を学び、自分に応じたトレーニングを日常生活で実践する能力と態度を育てる。また、本授業では柔軟性に重点を置き、柔軟性のテスト（10種目）も行う。

水泳：水と関わりの深い生活環境（島国）の中で生きていることを再認識させ、安全性を習得させる。また、50mをクロール、平泳ぎ、背泳のいずれかの泳法を用い60秒以内で泳ぐことのできる泳力を身につける。なお水泳の実施時期については、6月下旬から7月中旬とする。

【達成目標】

1. 自分の体力、身体組成を確認することができる。
2. ストレッチングのやり方やトレーニングにおける負荷のかけ方を理解することができる。
3. 日常生活における運動の重要性を知り、食事のとり方や休養の取り方について理解することができる。
4. 社会的態度（規則を守る・責任感・協調性・安全性）を身につける。

【教科書等】

適宜トレーニングに関する資料を配布する。

【授業スケジュール】

1. 授業方針、評価法の説明、トレーニングの内容と負荷のかけ方、食生活を含めた運動処方、ストレッチングのやり方、トレーニング前測定、スポーツマッサージ法
2. ストレッチング、鉄アレー、チューブを用いたサーキットトレーニング、スポーツマッサージ
3. ストレッチング、鉄アレー、チューブを用いたサーキットトレーニング、スポーツマッサージ
4. ストレッチング、鉄アレー、チューブを用いたサーキットトレーニング、スポーツマッサージ
5. ストレッチング、鉄アレー、チューブを用いたサーキットトレーニング、スポーツマッサージ
6. トレーニング後測定
7. 水泳（オリエンテーション、泳力チェック）
8. 各泳法の練習
9. 評価（タイムトライアル）

【関連科目】

4年スポーツ科学、5年健康科学

【成績評価】

トレーニング実践Ⅰ：トレーニング効果を確かめるため、トレーニング前後に測定を行い、トレーニング期間中の生活のあり方と測定値の変化との関係を明らかにしたレポートと出席状況を総合して評価する。水泳：50mのタイムトライアルにて評価する。また、出席状況も評価に加味する。

なお、トレーニング実践の成績を50%、水泳の成績を50%とし、平均して成績を算出する。

【学生へのメッセージ】

授業には体調を十分に整えて参加すること。授業期間の体力、身体組成の変化をみるので、日常生活における運動、栄養、休養に気を配り、規則正しい生活に心がけ、授業で得た知識や技術を今後の日常生活に生かせるよう心がけること。

安全に授業を展開するために、指輪、ネックレス等の装身具は身につけないこと。また、指定された体育服を着用し授業に参加すること。

質問は時間割を確認の上入室すること。また、メールでの質問も随時受け付ける。

【授業科目名】保健体育Ⅰ（サッカー）

Physical Education I

【対象クラス】1年生全学科

【科目区分】基礎科目・必修

（教育目標との対応：G-2）

【授業形式・単位数】講義及び実技・2単位

【開講期間・時間数】通期/4・100分

【担当教官】坂川正信（一般科非常勤講師）

【科目概要】

サッカーの歴史は長く、世界で最も人気があり親しまれている競技である。11人の競技者で構成される相対する2チームが、長方形のコートを自由に動き回り、日ごろ使い慣れた手の使用を封印して、主として足でボールを扱う。

豊富な運動量とともに、競技者の息の合ったチームプレーが要求され、攻防の作戦もチーム内で工夫しながらゴールを競い合い、発育期の学生の心身鍛錬には適したスポーツである。

【授業方針】

6～7名のグループで活動し、基本的な個人技能及びオーバー・ナンバーでの攻撃技能を高め、3年時でのサッカーの授業へつなげる。狭いコートで、しかも少人数でゲームを行うので自分たちでルールを考え、作戦の立て方、審判法、ゲーム運営等を経験し、サッカーの楽しさを体験する。

サッカーの競技は、運動量が多く、しかもかなり激しい身体接触を伴うので、授業中の安全対策への配慮が必要である。事前のウォーミングアップをきちんと行い、事故がおこらないよう気をつける。

水泳：水と関わりの深い生活環境（島国）の中で生きていることを再認識させ、安全性を習得させる。また、50mをクロール、平泳ぎ、背泳のいずれかの泳法を用い60秒以内で泳ぐことのできる泳力を身につける。なお水泳の実施時期については、6月下旬から7月中旬とする。

【達成目標】

1. ボールコントロールや1対1などの基本技術を習得する。
2. 動きながらパス、シュートができるようになる。
3. ゲームを楽しむために、トラップ→ドリブル→パス（シュート）など一連の動きがスムーズにできるようになる。
4. 自分たちで考えたルールで審判ができゲームを楽しめるようになる。
5. 激しい身体接触を伴うこともあるので、事故が起き

ないように安全に配慮することができる。

【教科書等】

適宜サッカーに関する資料を配布する。

【授業スケジュール】

1. オリエンテーション（授業の進め方、チーム編成、学習内容等の説明）
2. ジグザグ・ドリブル→シュート、1対1練習、各チームとの試しのゲーム
3. ジグザグ・ドリブル→シュート、2対1、3対2でのパス練習、簡易ゲーム
4. トラップ→ジグザグ・ドリブル→シュート、3対1からシュート練習、各チームとの対抗戦
5. 各チームとの対抗戦（空いているスペースを使ったり、作ったスペースを使うことを意識して行う。）
6. 評価
7. 水泳
8. 水泳
9. 水泳

【関連科目】

4年スポーツ科学、5年健康科学

【成績評価】

1. 自主的・積極的に活動し、お互いに協力しながら目標達成のために努力できたか。
2. 実技（ジグザグ・ドリブル→シュート）の修得状況はどうか。
3. 水泳については50mのタイムにて評価する。最終的にはサッカーを50%、水泳を50%として平均して成績を算出する。

【学生へのメッセージ】

目標が何かを認識し実行することが授業です。そこで「考え」「気づき」そして「実行」できる体育の授業にしよう。

質問については、来校日（水曜日、金曜日）に随時受け付ける。

【授業科目名】保健体育Ⅰ（陸上競技）  
Physical Education I

【対象クラス】1年生全学科

【科目区分】基礎科目・必修  
（教育目標との対応：G-2）

【授業形式・単位数】講義及び実技・2単位

【開講期間・時間数】通期/4・100分

【担当教官】福江勝紀（一般科非常勤講師）

#### 【科目概要】

陸上競技は、走る・跳ぶ・投げるなどの運動からなり、人間の生存にとって、又各種スポーツにとっても欠かせない基本的な能力である。数多くあるスポーツの中でも、一番手軽でそして誰でも簡単に組み組めるジョギングは、競技あるいはその前後の調子を整えたり、疲労回復のために行われたりしています。

#### 【授業方針】

1. 健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、計画的に運動する習慣を育てるとともに、健康の増進と体力の向上を図り、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を育てる。
2. 各種目の特性及び技術について理論的に学び、実技を通して走、跳、投の各種目を学ぶことによって、それぞれの個性に合った種目の選択ができるようにし、生涯体育につながるようにする。
3. 水と関わりの深い生活環境（島国）の中で生きていることを再認識させ、安全性を習得させる。また、50mをクロール、平泳ぎ、背泳のいずれかの泳法を用い60秒以内で泳ぐことのできる泳力を身につける。なお水泳の実施時期については、6月下旬から7月中旬とする。

#### 【達成目標】

1. 技能の向上と各種大会の計画立案と運営ができる能力を養う（生涯スポーツにつながるよう）。
2. 審判法を習得することができる。
3. 社会的態度の育成（規則を守る・責任感・協調性・安全性）を身につける。

#### 【教科書等】

特になし

#### 【授業スケジュール】

1. 理論、実技（W-u pの方法。走の基本）
2. スタート・中間走・フィニッシュ・ハードル
3. スタート・ハードル・リレー・走り幅跳び
4. ハードル・リレー・走り幅跳び・三段跳び
5. 評価・三段跳び・砲丸投げ・ハンドボール投げ
6. 評価・砲丸投げ・ハンドボール投げ
7. 水泳
8. 水泳
9. 水泳

※雨や用具、場所の関係で変更することがある。

#### 【関連科目】

- 4年スポーツ科学
- 5年健康科学

#### 【成績評価】

各種目の記録及び技術、理解度と出席状況を総合して評価する。  
実技を90%、出席状況を10%として成績を算出する。

#### 【学生へのメッセージ】

陸上競技を通して走・跳・投のスポーツの基本を学び、体力の向上と走る楽しさを見つけ、生涯続けられるスポーツを見つけて欲しい。

質問については、来校日（金曜日）に受け付ける。

【授業科目名】英語Ⅰ English I

【対象クラス】1年生全学科

【科目区分】基礎科目・必修  
（教育目標との対応：A-2, F-2, F-3）

【授業形式・単位数】講義・5単位

【開講期間・時間数】通期・250分

【担当教員】長嶺 寿宣（一般科）  
宇ノ木 寛文（一般科）  
関 文雄（一般科）  
小山 賢吉（非常勤）

（研究室）一般棟3F 長嶺教員室  
E-mail: nagamine@as.yatsushiro-nct.ac.jp

（研究室）一般棟2F 宇ノ木教員室  
E-mail: unoki@as.yatsushiro-nct.ac.jp

（研究室）一般棟3F 関教員室  
E-mail: seki@as.yatsushiro-nct.ac.jp

#### 【科目概要】

英語Ⅰは、本校における今後5年間（あるいは7年間）の英語学習、更に本科卒業（専攻科修了）後に必要とされる英語力の習得に向けた英語の知識と4技能の総合的な基礎固めの科目である。

#### 【授業方針】

授業は、教科書を用いた講義形式を進めていく。講義に加えて、音読練習・ディクテーション等のトレーニングを行う。従って、授業への積極的な参加が求められる。また、基礎的な語彙力強化を狙った週1回の単語テストを実施し、重要文法事項についての週末課題を課す。長期休暇には課題を与え、課題への取り組みを確認する試験を課す。自発的な学習方法・習慣の確立を目指した指導も行う。

#### 【達成目標】

1. 簡単な英文を読み、辞書を用いながら内容を理解することができる。
2. 内容を理解した英文についての英語の質問に、簡単な英語で答えることができる。
3. 内容を理解した英文を、適切な発音、イントネーションで音読することができる。
4. 簡単な英語を聞いて、大意を理解し、また書き取ることができる。
5. 2年進級時までに英検3級の資格を取得するために必要な自学の方法・習慣を確立する。

#### 【教科書等】

教科書：『World Trek English Course I』（桐原書店）  
副教材：『World Trek English Course I: Workbook Basic』（桐原書店）  
『高校英語の整理と演習ノート』（文英堂）

『VITAL 3000 英単語・熟語』（文英堂）

『Mike's Lucky Day』（Penguin Longman）

参考書：

『Harvest 高校総合英語』（桐原書店）

#### 【授業スケジュール】

- |           |                                    |
|-----------|------------------------------------|
| 第1週：      | ガイダンス<br>Lesson 1                  |
| 第2週～8週：   | Lesson 1～3<br>[前期中間試験]             |
| 第9週～14週：  | 試験返却・解説<br>Lesson 4～6<br>[前期末試験]   |
| 第15週～23週： | 試験返却・解説<br>Lesson 7～9<br>[後期中間試験]  |
| 第24週～29週： | 試験返却・解説<br>Lesson 10～11<br>[学年末試験] |
| 第30週：     | 試験返却・解説<br>講義総括                    |

\*教科書以外の教材については別途指示する。

#### 【関連科目】

英語Ⅰは、英語Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴへと発展していく英語の基礎科目であり、口語中心の英会話Ⅰ、Ⅱ、Ⅲにおける実践的な英語学習にも関連している。

#### 【成績の評価と評価基準】

- \*目標項目1, 2, 4は定期試験で確認する。
- \*目標項目3は授業中の言語活動を通して確認する。
- \*目標項目5は実際の受検結果・評価で確認する。
- \*最終成績は定期試験を70%、各課題や単語テスト等を含む小テスト、及び授業ノートの評価を30%として算出し60点以上を合格とする。

#### 【学生へのメッセージ】

- ・国際社会では、英語で読み書きができるだけでは通用しません。授業での音を介した言語活動に積極的に取り組み、運用能力の基盤を作ってください。
- ・講義への質問や要望はメールでも随時受け付けるので活用すること。来室の場合は、授業や会議のスケジュールを通知するので、確認すること。
- ・高専での最初の英語科目です。授業の予習・復習を徹底し、高学年の英語科目で更に発展させていけるような基礎・基本の定着を目指しましょう。
- ・英語が苦手？勉強の仕方が分からない？大丈夫です！いつからでもやり直せるのが語学学習です。学習法についても、ぜひ相談してください。



【授業科目名】英会話 I English Conversation I

【対象クラス】1年生全学科

【科目区分】基礎科目・必修

(教育目標との対応: A-1, F-2, F-3)

【授業形式・単位数】講義・1単位

【開講期間・時間数】通期・50分

【担当教官】

Gail Braybrooks (一般科 一般棟 2F)

E-mail: gail@as.yatsushiro-nct.ac.jp

【科目概要】

Speaking and listening practicing

【授業方針】

The students will practice conversation skills in the classroom.

【目標項目】

1. Listening and speaking needed in everyday, real-world situations.
2. Also, I hope it will give them the confidence to talk with English-speaking people.

【教科書等】

Textbook: 1.

1. *Gateways 1 -- Student's Book* (Victoria Kimbrough and Irene Frankel, Oxford University Press)

2. Teacher's hand-outs

【授業スケジュール】

1. Essential English Introductions
  2. Introducing yourself and others
  3. Common objects
  4. Alphabet and numbers
  5. Common occupations
  6. Asking about ownership
  7. Countries and Cities
  8. 中間試験
  9. Times of the day
  10. Articles of clothing
  11. Talking about clothing, colors and prices
  - 12.
  13. Talking about the weather
  14. "What's my job?" game
- 前期末試験
15. Review
  16. Breakfast foods
  17. Snack foods

18. Common daily activities

19. Likes and dislikes

20. Personal habits

21. Kinds of restaurants

22. Common stores and services

23. 中間試験

24. Parts of the body

25. Family members

26. People's employment

27. Common menu items

28. Talking about dates

29. Department store shopping

学年末試験

30. Review

【関連科目】

The other English classes

【成績評価】

Four tests and class participation

【学生へのメッセージ】

If you put a little energy into this class, you will get a lot out of it. Why don't you try and see? There is a wide, wide world waiting for you outside Japanese!

【授業科目名】国語 II Japanese II

【対象クラス】2年生全学科

【科目区分】基礎科目・必修

(教育目標との対応: A1, F1)

【授業形式・単位数】講義・2単位

【開講期間・時間数】通期・100分

【担当教員】村田由美 (非常勤)

【科目概要】

日本語を的確に理解し、適切に表現する基礎基本を身につける。文章読解の基礎的な方法を習得する。また読解の過程を通して論理的な思考力や文学的な感受性を育てる。

【授業方針】

教科書以外にも、さまざまな文章を読解することを通して、文章読解の基礎的な方法を身につけ、社会や人間に対して関心を持ち、論理的な思考や文学的な感受性を育てる。現代文では特に語彙の習得に力を入れると共に、適宜漢字テストを行い、漢字力アップにつとめる。

【達成目標】

1. 文章を正確に読み取る力をつける。
2. 的確な文章を書く力をつける。
3. さまざまな文章に触れることで、社会や人間に対して関心を広げる。

【教科書等】

教科書: 『新編国語総合』(三省堂)

参考書: 『常用漢字の学習レッドコース』(桐原書店)

【授業スケジュール】

1. 「もう一つの時間」(星野道夫)
2. 「ナボレターノ」(塩野七生)
3. 「羅生門」(芥川龍之介)
4. 「羅生門」(芥川龍之介)
5. 「羅生門」(芥川龍之介)
6. 「草之丞の話」(江國香織)
7. 「草之丞の話」(江國香織)
8. [中間試験]
9. 古文「伊勢物語」
10. 古文「伊勢物語」
11. 古文「平家物語」

12. 古文「宇治拾遺物語」

13. 古文「宇治拾遺物語」

14. 古文「百人一首」

[前期末試験]

15. 漢文「搜神記」

16. 漢文「搜神記」

17. 漢文「史記」

18. 漢文「史記」

19. 漢文「論語」

20. 漢文「論語」

21. 漢文「論語」

22. 「水の東西」(山崎正和)

23. 「ユージーンへの旅」(青海恵子)

24. [後期中間試験]

25. 「猿ヶ島」(太宰治)

26. 「屋根の上のサワン」(井伏鱒二)

27. 「屋根の上のサワン」(井伏鱒二)

28. 「言語は色眼鏡である」(野元菊雄)

29. 「言語は色眼鏡である」(野元菊雄)

[学年末試験]

30. まとめ

【関連科目】

「国語 I」(1年必修)

「国語 III」(3年必修)

「近代と文学」(4年選択)

「日本現代文学」(5年選択)

「古典文学」(5年選択)

【成績の評価方法と評価基準】

4回の定期試験の平均点(80%)と平常の小テスト、レポート等(20%)で評価する。

上記の方法で算出した成績が60点以上で合格とする。

【学生へのメッセージ】

どんな教材にもさまざまな人の思いや考えが込められている。それを謙虚な気持ちで的確に知る努力をしてほしい。

適宜行う漢字のテストでは、自分自身の語彙力も同時に高める意識で取り組んでほしい。各自が意識して積み重ねていくか、否かで成果はかなり違ってくる。実りある時間にしてほしい。

**【授業科目名】地理・歴史II**

Geography・HistoryII

**【対象クラス】**2年全学科**【科目区分】**基礎科目・必修

(教育目標との対応:A-1)

**【授業形式・単位数】**講義・2単位**【開講期間・時間数】**通期・100分**【担当教官】**佐藤伸二(一般科)

(研究室)一般棟1F 佐藤研究室

E-mail:sato@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**【科目概要】**

日本人(日本民族)の起源・日本国の成立と発展・琉球王国や蝦夷地と日本国との関係を東アジア世界の歴史の中に正しく位置付けさせる。これらを踏まえて近代日本(大日本帝国)の動き(脱亜入欧)について考えさせる。

**【授業方針】**

教科書を読ませ、内容について質問し、理解しているか確かめる。理解していない部分について説明する。必要に応じて関連の資料を配り、その内容を説明する。

**【達成目標】**

1. 日本民族の起源について東アジア的な視点で考えることができる。
2. 中華帝国を中心とした東アジアの国際関係(冊封体制)を理解することができる。
3. 日本国成立の時期における東アジアの国際関係を理解することができる。
4. 中世(鎌倉・室町時代)の日本と東アジアの国々との関係を理解することができる。
5. 近世(江戸時代)の日本とヨーロッパの国々との関係を、東アジアの国々のそれと対比しながら理解することができる。
6. 福沢諭吉が脱亜論を発表したころの東アジア情勢を理解することができる。

**【教科書等】**

教科書:『新日本史』大津透ほか 山川出版

参考書:『世界史B』尾形勇ほか 東京書籍

**【授業スケジュール】**

1. 日本列島と日本人
2. 秦漢帝国と日本列島の弥生文化
3. 騎馬遊牧民の活動と朝鮮半島の三国時代
4. 古墳文化とヤマト政権
5. 冊封体制と倭の五王の朝貢
6. 隋唐帝国と朝鮮半島の統一

7. 日本国の成立と蝦夷・倭人

8. (中間試験)

9. 宗王朝と東アジア交易圏

10. 平氏政権と日宋貿易

11. モンゴル帝国と東西の交流

12. 3つの海域世界と明帝国

13. 明帝国と東アジアの国々

14. 琉球王国と勘合貿易

15. ヨーロッパ人のアジア進出

(前期末試験)

16. 秀吉の対外政策と東アジア世界

17. 江戸時代初期の対外関係

18. オランダの時代

19. 江戸幕府の貿易統制と外交秩序

20. 中国におけるイエズス会の活動と典礼問題

21. ビューリタン革命と英蘭戦争

22. ヨーロッパに輸出された日本製磁器

23. (中間試験)

24. 産業革命と新しい世界の秩序

25. 幕政の改革と貿易政策の転換

26. 欧米列強の接近

27. 洋学の発達及び開国と幕末の政局

28. 琉球処分と日本の領土の確定

29. 福沢諭吉の脱亜論と日清戦争

(学年末試験)

30. 試験返却及びまとめ

**【関連科目】**

地理・歴史I

**【成績評価】**

1~6の項目について、定期試験(4回)を基に評価する。成績は4回のテストの平均とする。

**【学生へのメッセージ】**

教科書をよく読んでくること。歴史地図をよく見ること。私語をせずに話をよく聞くこと。  
質問は随時受け付けます。スケジュールを確認して来室して下さい。

**【授業科目名】政治・経済I Politics・Economy I****【対象クラス】**2年全学科**【科目区分】**基礎科目・必修

(教育目標との対応:A-1)

**【授業形式・単位数】**講義・1単位**【開講期間・時間数】**前期・100分**【担当教官】**時松雅史(一般科)

(研究室)一般棟1F 時松研究室

E-mail:tokimatu@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**【科目概要】**

政治経済Iでは、市場原理を柱とする現代経済の仕組みについて学習する。そして各国で行なわれている**財政・金融政策**について学び、更に日本経済の変化や仕組みについて統計や新聞記事を通して理解する。他に貿易摩擦の問題を扱うことで**国際経済**について学ぶ。

**【授業方針】**

テキストや授業内容に即したプリントを使用しながら解説していく。テキストも含めて出来るだけ学生に経済に関連する文章を読ませていきたい。機会があればビデオなどの視聴覚教材も使用する予定である。

**【達成目標】**

1. 市場の役割について、利点や欠点を含めて正しく理解できる。
2. 株式市場について、株の発行、売買、配当金の支払いなどの基本的な仕組みを理解する。更に所有と経営が分離する現象も理解できる。
3. 金融機関のはたらきと中央銀行の役割について理解する。更に金融政策の方法や効果などについても理解できる。
4. 財政政策の機能や方法について、国債発行の問題や公共事業をめぐる議論を踏まえながら考えることができる。
5. 各国間にある貿易摩擦の問題や、外国為替市場における為替レートの変動による輸出入の影響について理解できる。

**【教科書等】**

教科書:『政治・経済新訂版』都留重人ほか 実教出版

参考書:『経済を見る眼』都留重人 岩波新書  
経済の動きに関するプリント資料配布**【授業スケジュール】**

1. 私たちの暮らしと経済
2. 市場の役割
3. 寡占市場

4. 市場の限界

5. 企業の種類

6. 株式会社と資本市場

7. 金融市場と金融機関

8. (中間試験)

9. 中央銀行の働き

10. 金融政策の機能

11. 財政政策の機能

12. 国民所得とGDP

13. 景気変動とその原因

14. 為替レートの仕組み及び国際分業と貿易

(期末試験)

15. 試験返却及びまとめ

**【関連科目】**

政治・経済II、経済学

**【成績評価】**

1~5の項目について、定期試験(2回)を基に評価する。成績は2回のテストの平均とする。

**【学生へのメッセージ】**

経済はわれわれの生活とは切り離せないものである。したがってよく解説を聞いて、用語を暗記するのではなく理解して、自分の頭で経済現象について考えてほしいと思う。

授業の内容について毎回整理しておくこと試験の時に勉強しやすくなるので実行してほしい。

質問は随時受け付けます。スケジュールを確認して来室して下さい。

**【授業科目名】数学II (微積分)**

Mathematics II

**【対象クラス】** 2年全学科**【科目区分】** 基礎科目・必修

(教育目標との対応: B-1)

**【授業形式・単位数】** 講義・6単位 (4単位)**【開講期間・時間数】** 通年・300分 (200分)**【担当教官】**

小原康博 (一般科)・五十川 誠 (一般科)

小鉢 暢夫 (一般科)・濱田 さやか (一般科)

(研究室) 一般棟 2F 小原 教員室

E-mail: ohara@as.yatsushiro-nct.ac.jp

(研究室) 一般棟 2F 五十川 教員室

E-mail: isagawa@as.yatsushiro-nct.ac.jp

(研究室) 一般棟 2F 小鉢 教員室

E-mail: kohachi@as.yatsushiro-nct.ac.jp

(研究室) 一般棟 2F 濱田 教員室

E-mail: hamada@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**【科目概要】**

本科目 (微積分) では、数列、極限、1変数の基本的な微分・積分および場合の数を扱う。

また数学 I で学んだ知識全般を基礎としている。

本科目は、数学 III さらには多変数の微分積分学を学ぶための基礎となる科目である。

**【授業方針】**

本講義は教科書を中心に進め、下記の目標項目に関する解説と演習を行う。また、適宜授業内容を確認するための試験を実施する。

数列および極限を導入とし、微分・積分に関する基本的な知識の修得と、簡単な計算ができるようになることを目標とする。また、場合の数についても学ぶ。

**【達成目標】**

1. 等差数列、等比数列といった基本的な数列や級数に関する計算ができる。

2. 数列や関数の極限について簡単な計算ができる。

3. 次の各項目に関する簡単な計算ができる。

多項式・べき・指数・対数・三角関数の微分、積・商の微分、合成関数の微分、多項式・冪・指数・対数・三角関数の積分、置換積分、部分積分

4. 基本的な関数について、増減表を作成し、極値を求め、グラフをかき、接線の方程式を求めることができる。

5. 場合の数について簡単な計算ができる。

**【教科書等】**

教科書: 新編 高専の数学 2 (第 2 版)

田代嘉宏・難波完爾編 森北出版

参考書: 新編 高専の数学 2 問題集 (第 2 版)

田代嘉宏編 森北出版

**【授業スケジュール】**

1. 場合の数、順列
2. 組み合わせ、二項定理

3. 数列・等差数列

4. 等差数列・等比数列

5. 等比数列・いろいろな数列

6. いろいろな数列・数学的帰納法

7. (中間試験)

8. 答案返却、数学的帰納法・無限数列の極限

9. 無限数列の極限

10. 無限級数とその和

11. 関数の極限值・微分係数・導関数

12. 微分係数・導関数・導関数の計算

13. 接線・関数の増加減少

14. 関数の増加減少・関数の極大極小

(前期末試験)

15. 答案返却、関数の最大値最小値・関数の極限

16. 関数の極限・関数の連続

17. 関数の連続性・積と商の導関数

18. 合成関数とその導関数

19. 対数関数・指数関数の導関数

20. 三角関数の導関数・関数の極限と極大極小

21. 関数の極限と極大極小・方程式不等式への応用

22. 接線・法線・不定積分

23. (中間試験)

24. 答案返却、不定積分・置換積分法

25. 置換積分法・部分積分法

26. いろいろな関数の不定積分

27. 定積分

28. 定積分・置換積分法

29. 置換積分法・部分積分法

(学年末試験)

30. 答案返却

**【関連科目】**

本科 1 年 数学 I

本科 2 年 一般科目基礎セミナー

(公務員試験支援・数学検定支援)

本科 3 年 数学 III

本科 4 年 多変数の微分積分学

**【成績の評価方法と評価基準】**

4 回の定期試験の成績 (80%) と、適宜実施する確認のための試験またはレポートの成績 (20%) によって目標項目の達成度を評価する。

算出された最終成績が 60 点以上を合格とする。

**【学生へのメッセージ】**

・やさしい基本的な問題を何回も正確に解くことが数学上達の早道です。

・講義や演習に関する質問は、放課後を利用して教員室まで訪ねてきてください。尚、担当の者だけでなく数学科全員で対応しておりますので気軽に声をかけてください。

**【授業科目名】数学II (ベクトル)**

Mathematics II

**【対象クラス】** 2年全学科**【科目区分】** 基礎科目・必修

(教育目標との対応: B-1)

**【授業形式・単位数】** 講義・6単位 (2単位)**【開講期間・時間数】** 通年・300分 (100分)**【担当教官】**

五十川 誠 (一般科)・吉田 幸一 (非常勤)

野入 隆 (非常勤)・宮坂 義治 (非常勤)

(研究室) 一般棟 2F 五十川 教員室

E-mail: isagawa@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**【科目概要】**

本科目 (ベクトル) では前半は 2 次曲線、不等式の表す領域、図形の性質について取り扱い、後半は平面および空間のベクトルについて取り扱う。

また、数学 I で学んだ知識を基礎としている。

本科目は、数学 III で学ぶ行列と 1 次変換の基礎となる部分や、多変数の微分積分学で学ぶ重積分の計算の基礎となる部分を含む科目である。

**【授業方針】**

本講義は教科書を中心に進め、下記の目標項目に関する解説と演習を行う。また、適宜授業内容を確認するための試験を実施する場合がある。

2 次曲線、不等式の表す領域、図形の性質、平面および空間のベクトルに関する基本的な知識の修得と、簡単な計算ができるようになることを目標とする。

**【達成目標】**

1. 円、楕円、双曲線、放物線に関する簡単なグラフをかくことができる。

2. 簡単な不等式の表す領域を図示することができる。

3. 相似比、円周角、三角形の重心・外心・内心・垂心といった初歩的な図形の概念を理解することができる。

4. 平面のベクトルについて基本的な知識を修得し、次の各項目に関する簡単な計算ができる。

和・差・定数倍、内積、内分点・外分点・重心の位置ベクトル表示、成分表示、方向ベクトルと直線のベクトル方程式、法線ベクトルと直線のベクトル方程式、点と直線の距離、円のベクトル方程式

5. 空間のベクトルについて基本的な知識を修得し、次の各項目に関する簡単な計算ができる。

和・差・定数倍、内積、内分点・外分点・重心の位置ベクトル表示、成分表示、方向ベクトルと直線のベクトル方程式、法線ベクトルと平面のベクトル方程式、点と直線の距離、球のベクトル方程式

**【教科書等】**

教科書: 新編 高専の数学 2 (第 2 版)

田代嘉宏・難波完爾編 森北出版

参考書: 新編 高専の数学 2 問題集 (第 2 版)

田代嘉宏編 森北出版

**【授業スケジュール】**

1. 円 / 2. 円と直線

3. 2 次曲線 (楕円) / 4. 2 次曲線 (双曲線)

5. 2 次曲線 (放物線)

6. 演習

7. (中間試験) / 8. 答案返却

9. 不等式の表す領域

10. 領域における最大・最小

11. 演習

12. 図形の性質 (三角形と比)

13. 図形の性質 (円と角)

14. 図形の性質 (重心・外心・内心・垂心)

(前期末試験)

15. 答案返却

16. ベクトル

17. ベクトルの演算

18. ベクトルの内積

19. ベクトルの成分

20. 直線とベクトル

21. 円とベクトル

22. 演習

23. (中間試験) / 24. 空間の座標

25. 空間の成分ベクトル

26. 内積

27. 直線の方程式

28. 平面の方程式

29. 球の方程式

(学年末試験)

30. 答案返却

**【関連科目】**

本科 1 年 数学 I

本科 2 年 一般科目基礎セミナー

(公務員試験支援・数学検定支援)

本科 3 年 数学 III (行列と 1 次変換)

本科 4 年 多変数の微分積分学 (重積分)

**【成績の評価方法と評価基準】**

4 回の定期試験の成績 (80%) と、適宜実施する確認のための試験またはレポートの成績 (20%) によって目標項目の達成度を評価する。

算出された最終成績が 60 点以上を合格とする。

**【学生へのメッセージ】**

・やさしい基本的な問題を何回も正確に解くことが数学上達の早道です。

・講義や演習に関する質問は、放課後を利用して教員室または一般談話室まで訪ねてきてください。尚、担当の者だけでなく数学科全員で対応しておりますので気軽に声をかけてください。

**【授業科目名】物理 I Physics I****【対象クラス】**2年全学科**【科目区分】**基礎科目・必修

(教育目標との対応：B-1)

**【授業形式・単位数】**講義・3単位**【開講期間・時間数】**通期・150分**【担当教員】**北辻安次(一般科)

(研究室) 一般棟 3F 教員室

E-mail: kitatuji@as.yatsushiro-nct.ac.jp

山下 徹(機械電気工学科)

(研究室) 専門 A 棟 2F 東側 教員室

E-mail: yamasita@as.yatsushiro-nct.ac.jp

吉沖周三(情報電子工学科)

(研究室) 専門 A 棟 3F 生物物理研究室

E-mail: yoshioki@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**【科目概要】**

物理は自然現象を観察して、その中から、物体のもつ色々な物理量の間になり立つ関係をしらべる学問である。工学の基礎科目のその基礎となる重要な科目である。各種の物理量について正しく理解して、その間に成り立つ関係や法則を的確に応用できる力を身につけさせる

**【授業方針】**

授業スケジュールに従って、物理現象に対する観察や実験を取り入れながら、基本的な事項について理解を深めさせて、物理的な思考方法と表現方法を習得させる。演習や課題を適宜課すことで、一層理解を深めさせることをはかる。

**【達成目標】**

1. 運動の基礎の速度と加速度について明確な概念をもち、等加速度運動について取りあつかうことができる。
2. 静力学的な力の概念と力のつり合いについて、正しく取りあつかうことができる。
3. ニュートンの運動の法則を理解し、物体の運動に対して、この法則を的確に応用できる。
4. 仕事とエネルギーについて明確な概念を持ち、力学的エネルギー保存の法則を運動する物体に適用できる。
5. 波動について正しく理解し、波の色々な性質(反射、屈折、回折、干渉)を波動現象に対して正しく適用できる。
6. 音波についての色々な現象を波動の性質を利用して理解できる。
7. 熱とエネルギーの概念について簡単な取りあつかいができる。

**【教科書等】**

教科書：物理 I 国友正和他 数研出版

参考書：トライアルノート物理 I 数研出版

**【授業スケジュール】**

1. 速度と加速度
2. 等加速度運動
3. 落下運動と放物運動
4. いろいろな力
5. 力の合成・分解・つり合い
6. 慣性の法則・作用反作用の法則
7. 運動の法則・運動方程式
8. [中間試験]
9. 摩擦の法則と運動方程式の応用
10. 剛体に働く力のつり合い
11. 偶力・物体の重心
12. 仕事と仕事率
13. 仕事の原理
14. 運動エネルギー・エネルギー原理  
〔前期末試験〕
15. 重力の位置エネルギー
16. 弾性の位置エネルギー
17. 力学的エネルギー保存法則
18. 摩擦力と力学的エネルギーの変化
19. 熱と温度、比熱
20. 熱と仕事
21. [中間試験]
22. 単振動と正弦波
23. 横波と縦波
24. 重ね合わせの原理と干渉
25. 反射の法則と屈折の法則
26. 音波の伝わり方と音速
27. うなりと共鳴
28. 弦と気柱の固有振動
29. ドップラー効果  
〔後期学年末試験〕
30. 1年間のまとめ

**【関連科目】**

3年の物理IIや専門科目の応用物理。その他にほとんどの専門基礎科目と深い関連がある。また、数学や応用数学とは互いに強い関連がある。

**【成績の評価方法と評価基準】**

4回の定期試験の結果を80%とし、県下一斉テストの評価を20%加える。

**【学生へのメッセージ】**

物理は積み上げ型の理解が要求される科目です。自分で予習及び復習を欠かさず行ってください。

質問は随時受け付けます。スケジュールを確認して来室して下さい。

教科書や問題集の中の問題を自分で解き、疑問点はお互いに確認しあうことが理解につながります。

また、それでもはっきりわからないところは教員に質問することが必要です。

つまみ食いの学習ではなく、最初のところからきちんと理解していくことが重要です。

**【授業科目名】総合理科II**

General Science II

**【対象クラス】**2年全学科**【科目区分】**基礎科目・必修

(教育目標との対応：B-1)

**【授業形式・単位数】**講義、実験・1単位**【開講期間・時間数】**通期・100分**【担当教員】**北辻安次(一般科)

(研究室) 一般棟 3F 教員室

E-mail: kitatuji@as.yatsushiro-nct.ac.jp

山下 徹(機械電気工学科)

(研究室) 専門 A 棟 2F 東側 教員室

E-mail: yamasita@as.yatsushiro-nct.ac.jp

吉沖周三(情報電子工学科)

(研究室) 専門 A 棟 3F 生物物理研究室

E-mail: yoshioki@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**【科目概要】**

総合理科IIは、物理的な学習項目を中心に実施する。また、この科目では物理的な実験やものづくりを主にしたテーマについて実施する。これらのテーマの学習、実験器の製作、実験、観察を通してこれらのテーマについて工夫する力、観察する力、まとめる力、考える力、探求する力を養い、そのテーマの理解を深める。

**【授業方針】**

授業スケジュールに従って、それぞれのテーマについての実験や製作を行う。それぞれのテーマの終了後、レポートや課題作品を提出させる。

これらの作業を通して、みずから自然現象について物理的にアプローチできるようになることを目指す。

**【達成目標】**

1. 等加速度運動を観察しその運動を調べて加速度を求める方法を理解できる。
2. 色々な落下実験を行なって、落下の法則を理解し、落下の加速度について求められる。
3. 物体に働く力と質量と物体の加速度の関係を運動の解析により調べて、運動の法則が成り立つことを理解できる。
4. 科学書を読んでその読書感想文を書くことで、科学的な思考法や探求方法を学ぶ。
5. ばねに関する実験によりフックの法則を理解する。
6. 最大摩擦力を測定して摩擦に関するクーロンの法則が成り立つことを理解できる。
7. 波動実験器を観察し、波動の現象の色々な性質について理解できる。
8. 簡易分光器を製作し、これを用いている色々な光のスペクトルを観察し、光の性質について理解できる。

**【教科書等】**

教科書：物理 I 国友正和他 数研出版

自作プリント「理工学実験教室」

**【授業スケジュール】**

1. 等加速度運動(導入、解説)
2. 等加速度運動(実験)
3. 等加速度運動(まとめ、考察)
4. 落下の法則(導入、解説)
5. 落下の法則(実験)
6. 落下の法則(まとめ)
7. 落下の法則(考察、探求)
8. [中間試験]
9. 運動の法則(導入、解説)
10. 運動の法則(実験)
11. 運動の法則(まとめ)
12. 運動の法則(考察、探求)
13. 科学書の紹介と読書指導
14. 感想文用科学書の選定  
〔前期末試験〕
15. フックの法則(導入、解説)
16. フックの法則(実験)
17. フックの法則(まとめ、考察)
18. 摩擦の法則(導入、解説)
19. 摩擦の法則(実験)
20. 摩擦の法則(まとめ)
21. 摩擦の法則(考察、探求)
22. [中間試験]
23. 波動の実験(導入、解説)
24. 波動実験器(実験)
25. 波動実験器(まとめ)
26. 波動の実験(考察、探求)
27. 分光器と光のスペクトル(導入、解説)
28. 簡易分光器による光のスペクトル観察
29. 分光器と光のスペクトル(考察、探求)  
〔後期学年末試験〕
30. 1年間のまとめ

**【関連科目】**

1年の総合理科I、2年の物理I、3年の物理II、専門科目の応用物理

**【成績の評価方法と評価基準】**

学期ごとの定期試験	40%
-----------	-----

提出したレポートおよび課題の評価	60%
------------------	-----

以上の基準により評価を行なう。

**【学生へのメッセージ】**

科学や物理に興味を持てるように実験やものづくりをとり入れた内容となっているので、学生は積極的に参加し、協力して授業にとり組むことが重要です。

また、やったことをやりっぱなしにせず、そのあとで自分でまとめることが各自の力を高める結果につながります。

質問は随時受け付けます。スケジュールを確認して来室して下さい。

【授業科目名】保健体育Ⅱ（バレーボールⅡ、水泳）  
Physical Education Ⅱ

【対象クラス】2年生全学科

【科目区分】基礎科目・必修

（教育目標との対応：G-2）

【授業形式・単位数】講義及び実技・2単位

【開講期間・時間数】通期/4・100分

【担当教官】宅島 章（一般科）

（研究室）一般棟1F

E-mail: takusima@as.yatsushiro-nct.ac.jp

#### 【科目概要】

バレーボールⅡでは、1年次に学習した基本技を基に  
応用技術、ゲームと展開する。

水泳は、クロール、平泳ぎ、背泳の泳法と救助法を  
学ぶ。

#### 【授業方針・学習目標】

○社会的態度の育成：規則を守る・責任感・協調性・  
安全性。

○応用技術：トス、アタック、レシーブをチームプレ  
ーへと発展させ、チームの勝利に貢献する。

水泳は、クロール、平泳ぎ、背泳のいずれかの種目  
で50mを60秒以内で泳げること。

#### （達成目標）

○社会的態度（規則を守る・責任感・協調性・安全性）  
を養成することができる。

○課題の基礎技術をマスターすることができる。

#### 【教科書等】

適宜、必要に応じて紹介するが、自らもインターネ  
ット等を活用し、その競技のルールや歴史、練習方法  
を自学・自習すること。

#### 【授業スケジュール】

1. ガイダンス・歴史とルール、基本技
2. 基本・応用（チーム練習）
3. 基本・応用、簡易ゲーム
4. チーム対抗リーグ戦
5. チーム対抗リーグ戦
6. チーム対抗リーグ戦、評価
7. 水泳6月第4週
8. 水泳7月第1週
9. 水泳7月第2週

#### 【関連科目】

4年 スポーツ科学

5年 健康科学

#### 【成績評価】

評価は、出席状況50%、筆記試験及びレポート20%  
実技試験30%とする。

#### 【学生へのメッセージ】

- 身体活動には身体接触や転倒が生じる。安全な指定  
の体育服・靴を着用すること。また、危険性の伴う  
指輪、ネックレス、ピアス等の装身具は身につけな  
いこと。授業の前日は睡眠を充分確保しておくこと。
- 始業時間の厳守すること。
- 質問等においては、授業は勿論、他の時間帯でも受  
けるので、積極的に参加して欲しい。

【授業科目名】保健体育Ⅱ（トレーニング実践Ⅱ）  
Physical Education Ⅱ

【対象クラス】2年生全学科

【科目区分】基礎科目・必修

（教育目標との対応：G-2）

【授業形式・単位数】講義及び実技・2単位

【開講期間・時間数】通期/4・100分

【担当教官】四宮一郎（一般科）

（研究室）一般棟1F 四宮教員室

E-mail: sinomiya@as.yatsushiro-nct.ac.jp

#### 【科目概要】

トレーニング実践Ⅱでは、トレーニング実践Ⅰ同様、  
個人の体力レベルにあったトレーニングを毎週実施  
し、さらなる筋力、柔軟性の向上を図る。また、トレ  
ーニングの効果を確認するために、第1週と最終授業  
に測定を行う。

水泳については、1年生で習得した泳法でより早く  
泳ぐ方法を身につけ、最終授業でタイムトライアルを  
行う。

#### 【授業方針】

トレーニング実践Ⅱ：トレーニング実践Ⅱでは、トレ  
ーニング実践Ⅰを基礎として、各種スポーツに必要な  
筋力、柔軟性を高めることに重点を置いて展開し、ト  
レーニング効果について気づかせると同時に、日常生  
活で実践できる能力と態度を育てる。

水泳：水泳では、泳力を高めることはもちろん、安全  
性についても再認識させ、1年生で習得した泳法をよ  
り美しく、より速く泳ぐことのできる技能を身につけ  
る。なお、水泳については6月下旬から7月中旬にか  
けて実施する。

#### 【達成目標】

1. 自分の体力、身体組成を確認することができる。
2. ストレッチングのやり方やトレーニングにおける  
負荷のかけ方を理解することができる。
3. 日常生活における運動の重要性を知り、食事のと  
り方や休養の取り方について理解することができ  
る。
4. 社会的態度（規則を守る・責任感・協調性・安全  
性）を身につける。

#### 【教科書等】

適宜トレーニングに関する資料を配布する。

#### 【授業スケジュール】

1. オリエンテーション（授業の目標・評価法・心得  
等）、ストレッチングのやり方、トレーニングの  
内容と負荷のかけ方、スポーツマッサージ法
2. トレーニング前測定及び負荷の設定
3. バーベル、鉄アレー、ゴムチューブを用いたサー  
キットトレーニング、トレーニング期の食事
4. バーベル、鉄アレー、ゴムチューブを用いたサー  
キットトレーニング、トレーニング原理について
5. バーベル、鉄アレー、ゴムチューブを用いたサー  
キットトレーニング、トレーニング効果について
6. バーベル、鉄アレー、ゴムチューブを用いたサー  
キットトレーニング、
7. トレーニング後測定
8. 水泳
9. 水泳
10. 水泳

#### 【関連科目】

4年スポーツ科学、5年健康科学

#### 【成績評価】

評価はトレーニング効果を確かめるため、トレー  
ニング前後に測定を行い、トレーニング期間中の生活  
のあり方と測定値の変化との関係を明らかにしたレ  
ポートと出席状況を総合して評価する。

水泳については、50mのタイムにて評価する。  
最終的にトレーニング実践を50%、水泳を50%  
として成績を算出する。

#### 【学生へのメッセージ】

授業には体調を十分に整えて参加すること。授業期  
間の体力、身体組成の変化をみるので、日常生活にお  
ける運動、栄養、休養に気を配り、規則正しい生活に  
心がけること。また、授業で得た知識や技術を今後の  
日常生活に生かせるよう心掛けること。

安全に授業を展開するために、指輪、ネックレス等  
の装身具は身につけないこと。また、指定された体育  
服を着用し授業に参加すること。

質問は時間割を確認の上入室すること。また、メー  
ルでの質問も随時受け付ける。

**【授業科目名】保健体育Ⅱ（陸上競技Ⅱ）**

Physical Education II

**【対象クラス】**2年生全学科**【科目区分】**基礎科目・必修

（教育目標との対応：G-2）

**【授業形式・単位数】**講義及び実技・2単位**【開講期間・時間数】**通期/4・100分**【担当教官】**福江勝紀（一般科非常勤講師）**【科目概要】**

陸上競技は、走る・跳ぶ・投げるなどの運動からなり、人間の生存にとって、又各種スポーツにとっても欠かせない基本的な能力である。数多くあるスポーツの中でも一番手軽でそして誰でも簡単に取り組めるジョギングは、競技あるいはその前後の調子を整えたり、疲労回復のために行われたりしています。

**【授業方針】**

1. 健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、計画的に運動する習慣を育てるとともに、健康の増進と体力の向上を図り、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を育てる。
2. 各種目の特性及び技術について理論的に学び、実技を通して走、跳、投の各種目を学ぶことによって、それぞれの個性に合った種目の選択ができるようにし、生涯体育につながるようにする。
3. 水泳では、泳力を高めることはもちろん、安全性についても再認識させ、1年生で習得した泳法をより美しく、より速く泳ぐことのできる技能を身につける。なお、水泳については6月下旬から7月中旬にかけて実施する。

**【達成目標】**

1. 陸上競技の特性である「走る」、「跳ぶ」、「投げる」の基礎的身体能力や技術を身につけさせ、個々の能力を知ることができる。
2. 陸上競技種目の審判の方法を学び審判ができる。
3. 各種目の記録向上に向けての理論と、技術、練習方法を学び、個人の練習計画にそって練習できる。
4. ウォーミングアップ、クーリングダウンの必要性を学び、安全に能率よく競技ができる。
5. 陸上競技に必要な体力トレーニングの目的・手順・方法がわかるように工夫する態度を身につける。

**【教科書等】**

特になし

**【授業スケジュール】**

## ◆トラック種目

1. 理論、W-up、C-downの目的、方法
2. スタート・中間走・フィニッシュ

3. 実技・審判の方法

4. ハードル・リレー

5. 実技・審判の方法

6. ハードル・リレー（インターバル、フォーム、着地）

7. 走り幅跳び・ハードル・3種競技

8. 水泳

9. 水泳

10. 水泳

※雨や用具、場所の関係で変更することがある。

## ◆フィールド種目

1. 理論、W-up、C-downの目的、方法
2. 走り高跳び（ルール及び審判の方法、測定の方法、助走、踏み切り、フォーム、着地）
3. 走り幅跳び（走り高跳びに同じ）
4. 三段跳び（走り高跳びに同じ）
5. 記録会（審判の方法）
6. 砲丸投げ、ハンドボール投げ、円盤投げ（握り方、持ち方、助走、フォーム、リリース）
7. 記録会

※雨や用具、場所の関係で変更することがある。

## ◆長距離走

1. 理論、W-up、C-downの目的、方法
2. トレーニングの方法（インターバル、レペテーション、サーキット）
3. クロスカントリー
4. 駅伝
5. タイムトライアル
6. 障害走、クロスカントリー
7. タイムトライアル
8. 駅伝

※雨や用具、場所の関係で変更することがある。

**【関連科目】**

4年スポーツ科学

5年健康科学

**【成績評価】**

各種目の記録及び技術、理解度を総合して評価する。また、出席状況も考慮する。

最終的には実技90%、出席状況を10%として成績を算出する。

**【学生へのメッセージ】**

今が健康の土台づくりの時、歩く、走る、跳ぶそして投げて記録へチャレンジし、体力を高め人生健康へのレール作りを始めよう。

質問については、来校日（金曜日）に受け付ける。

**【授業科目名】保健体育Ⅱ（伝承文化）**

Physical Education II

**【対象クラス】**2年生全学科**【科目区分】**基礎科目・必修

（教育目標との対応：G-2）

**【授業形式・単位数】**講義及び実技・2単位**【開講期間・時間数】**通期/4・100分**【担当教官】**坂川正信（一般科非常勤講師）**【科目概要】**

- ①日本古来より受け継がれてきた、「ちょんかけゴマ」「けん玉」「縄跳び」の実践を通して伝承文化に親しみ、理解を深める。
- ②それぞれの種目の技の向上を目指し、努力を重ねる。

**【授業方針】**

- ①伝承文化（ちょんかけゴマ、けん玉、縄跳び）を身につけることにより、先人の知恵と文化を理解し、後世に受け継がせていく。
- ②伝承文化の奥深さや面白味を体得する。
- ③「明るく、楽しく、いい汗を」をモットーに、3グループに分け、3種目をローテーションを組んで実施していく。
- ④水泳では、泳力を高めることはもちろん、安全性についても再認識させ、1年生で習得した泳法をより美しく、より速く泳ぐことのできる技能を身につける。なお、水泳については6月下旬から7月中旬にかけて実施する。

**【達成目標】**

1. 基本技を習得することができる。
2. 個人の得意技を習得することができる。
3. リズム感を体得できる。
4. 技の開発研究できる。

**【教科書等】**

適宜資料を配布する。

**【授業スケジュール】**

1. 3種目についてのオリエンテーション
2. 種目の慣れ及び上達のポイント
3. 同上
4. 高度な技術及び得意技、リズム感等体得
5. グループごとに互いに研究、技の披露
6. 実技テストのトレーニング
7. 評価（実技テスト）
8. 水泳

9. 水泳

10. 水泳

**【関連科目】**

4年スポーツ科学

5年健康科学

**【成績評価】**

1. 各グループにおいて自主的にまた積極的に取り組んだか。
  2. 技能の習得はできたか（技能の習得に努力したか）。
  3. 出席及び授業態度は良好であったか。
- 以上の観点から、実技を90%、出席状況を10%として総合的に成績を算出する。

**【学生へのメッセージ】**

基本の技能は反復練習することにより身につくことは言うまでもありません。あきらめずに何度でも挑戦してください。また、さまざまな応用技にも挑戦し、楽しみを倍加させてほしいと思います。

道具は大切に扱い、整理整頓を心掛けてください。伝承文化に楽しく親しみ、先人の知恵を学び、これからの生活の中に生かしていきましょう。

質問については、来校日（水・金曜日）に受け付けます。

【授業科目名】英語Ⅱ English II  
【対象クラス】2年生全学科  
【科目区分】基礎科目・必修  
(教育目標との対応: A-2, F-2, F-3)

【授業形式・単位数】講義・4単位  
【開講期間・時間数】通期・200分  
【担当教員】福井由美子(一般科)  
宇ノ木寛文(一般科)  
関文雄(一般科)  
(研究室) 一般棟 3F 福井 教員室  
E-mail: fukui@as.yatsushiro-nct.ac.jp  
(研究室) 一般棟 2F 宇ノ木 教員室  
E-mail: unoki@as.yatsushiro-nct.ac.jp  
(研究室) 一般棟 3F 関 教員室  
E-mail: seki@as.yatsushiro-nct.ac.jp

【科目概要】  
英語Ⅱは、英語Ⅰに引き続き、本校における英語学習の基礎固めであり、さらには卒業後に必要とされる英語力の習得に向けて、総合的にかつ発展的に英語の知識と4技能を学ぶ科目である。

【授業方針】  
授業は、基礎・基本的事項の最終的な定着を目指し、教科書を用いた講義形式で進める。講義に加えて、音読練習・ディクテーション等のトレーニングも行う。また、基礎的な語彙強化を狙った週1回の単語テストと、重要文法事項についての週末課題を課す。長期休暇には課題を与え、課題への取り組みを確認する試験を課し、自発的な学習方法・習慣の確立を目指す。また、英語Ⅰから引き続き、外国の文化・習慣に対する理解を深め、より広い視野でものこを捉えることも期待する。

【達成目標】  
1. 英文を読み、辞書を用いながら内容を理解することができる。  
2. 内容を理解した英文についての英語の質問に、簡単な英語で答えることができる。  
3. 内容を理解した英文を、適切な発音、イントネーションで音読することができる。  
4. 簡単な英語を聞いて、大意を理解し、また書き取ることができる。  
5. 将来エンジニアとして必要な英語力を養うための自学の方法・習慣を確立する。

【教科書等】  
教科書:『PRO-VISION English Course II』桐原書店  
参考書:『総合英語 Forest』桐原書店  
副教材:『総合英語 Forest Extensive English Grammar in 46 Lessons』桐原書店

『VITAL 3000 英単語・熟語』文英堂  
『PRO-VISION English Course II: Workbook-Standard』  
『Stories of Courage』Penguin Readers

【授業スケジュール】  
1~7週: ガイダンス、Lesson 1~2  
8週: 〔前期中間試験〕  
9~14週: 試験返却・解説、Lesson 3~5  
〔前期末試験〕  
15~22週: 試験返却・解説、Lesson 6~8  
23週: 〔後期中間試験〕  
24~29週: 試験返却・解説、Lesson 9~10  
〔後期学年末試験〕  
30週: 試験返却・解説、まとめ・復習  
\*教科書以外の教材については別途指示する。

【関連科目】  
英語Ⅰ・Ⅱで基礎・基本的事項を学習し、英語Ⅲ~Ⅴでは習得した基礎・基本を元に、さらに発展的な学習を行う。また、英会話Ⅰ~Ⅲにおける口語学習は実践の場として関連している。

【成績の評価方法と評価基準】  
\*達成目標1・2・4は定期試験で確認する。  
\*達成目標3は授業中の言語活動を通して確認する。  
\*達成目標5は課題確認試験、小テスト、自学ノートの提出物などを通じて確認する。  
\*最終成績は定期試験を70%+提出物や小テストの評価を30%として算出し、60点以上を合格とする。

【学生へのメッセージ】  
・授業には必ず予習をして臨みましょう。予習は、自分が分かること、分からないことを明らかにするための自分自身の準備です。積極的に取り組もう!  
・さらに、力をつけたり、足りない点を補ったりするために、授業以外の自主学習にも取り組もう。  
・質問や英語学習全般に関する相談などにはいつでも応じます。メールでも構いません。来室する際は、授業や会議、部活などのスケジュールを予め確認してから来てください。  
・高専生活の後半をより実りあるものにするために、今年1年間しっかり頑張ろう!

【授業科目名】英会話Ⅱ English Conversation II  
【対象クラス】2年生全学科  
【科目区分】基礎科目・必修  
(教育目標との対応: A-1, F-2, F-3)

【授業形式・単位数】講義・1単位  
【開講期間・時間数】後期・100分  
【担当教員】  
Gail Braybrooks(一般科 一般棟 2F)  
E-mail: gail@as.yatsushiro-nct.ac.jp

【科目概要】  
Speaking and listening practicing

【授業方針】  
Classes consist of a variety of oral-exchange exercises, fill-in exercises, completion exercises and written exercises based on authentic tasks. These are followed by exercises that personalize the practice.

【目標項目】  
The aim of this subject is:  
1. To develop the practical use of English conversational skill  
2. To direct the students' attention to essential information in the conversation and let them know they can get the gist of a conversation without knowing every word.

【教科書等】  
Textbook: 1.  
1. Gateways 2 -- Student's Book (Victoria Kimbrough and Irene Frankel, Oxford University Press)  
2. Teacher's hand-outs

【授業スケジュール】  
This class will be held as one 100-minute session per week during the second semester of the school year.  
1 "Who am I?" - whole class pair rotation; Unit 1  
2 Unit 1 Workbook print; "Charades" team competition  
3 Unit 2; "Tell who you saw" - pair work  
4 Unit 2 Workbook print; "ESP" - pair work  
5 Unit 3; "Where's the drug store?" - listening and written exercises

6 Unit 3 Workbook print; "Who do you like?" - pair work  
7 Test preparation; "Pictionary" team competition  
Midterm Exam  
8 Unit 4 (p. 22-24, p. 119/120); "Whose is it?" - whole class pair rotation  
9 Unit 4 (p. 25,26,27,30), Unit 4 Workbook print  
10 "Did you have fun this summer?" - whole class; "Dream house" - pair work  
11 Unit 7; "Mr. Bean Tees Off" video - pair work  
12 Unit 7 Workbook print; "Find someone who ..." - whole class pair rotation  
13 Unit 9; "Mr. Bean at the Laundromat" video - listening exercise  
14 Unit 9 Workbook print; Unit 10  
Final Exam  
15 Hand back tests; "Guesstures" - team competition

【関連科目】  
The other English classes

【成績評価】  
Evaluation is by two exams of 50 problems, with listening and written parts.

【学生へのメッセージ】  
You're really busy with your other classes, but please try to keep your English going. Don't close the door on a chance for an interesting life!

**【授業科目名】国語Ⅲ Japanese III**

【対象クラス】3年全学科

【科目区分】基礎科目・必修

(教育目標との対応：A-1, F-1)

【授業形式・単位数】講義・2単位

【開講期間・時間数】通年・100分

【担当教員】道園達也(一般科)

(研究室)一般棟3F 道園教員室

E-mail: mitizono@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**【科目概要】**

論理的な文章の読解力と現代の問題に関する知識の蓄積、また自己の考えを論理的に展開していく力を身につける。

社会人として日本語を的確に理解し、適切に表現する上で必要な日本語運用能力を高め、確かな力を身につける。

就職活動時に必要な企業・業種研究や自己分析の基本的な方法を知る。

**【授業方針】**

①多方面の評論文を読み、筆者の主張に到達できる文章読解力を確かなものとする。評論文で提起される現代の問題に関する知識の蓄積と、論理的に自己の考えを展開していく力の養成を目指す。

②自己表現の基本となる日本語運用能力の「文字・語句の使い方」「言葉のきまり」「敬意の表し方」「書くこと」「読むこと」「語彙力」「話すこと・聞くこと」に関する基本的な知識と能力を確かなものとする。

③企業・業種研究や自己分析の基本的な方法を身につける。

**【達成目標】**

1. 多方面の評論文を問題演習形式で読解し、筆者の主張を的確に要約できる。
2. 筆者の主張に対して、現代の問題に関する知識を踏まえ自分の考えを説明できる。
3. 日本語運用能力の「文字・語句の使い方」「言葉のきまり」「敬意の表し方」「書くこと」「読むこと」「語彙力」「話すこと・聞くこと」に関する基本的な知識と能力を身につける。
4. 企業・業種研究や自己分析の実践を通して、その基本的な方法を身につける。

**【教科書等】**

教科書：文章読解力(配付プリント)

参考書：ポイント整理常用漢字の学習(明治書院)

**【授業スケジュール】**

1. 日本語運用能力診断
2. 要約の基礎(1) 文字・語句の使い方
3. 要約の基礎(2) 言葉のきまり
4. 「国際化」(1) 敬意の表し方(1)
5. 「国際化」(2) 敬意の表し方(2)
6. 「医学」(1) 書くこと
7. 「医学」(2) 読むこと
8. 〔前期中間試験〕
9. 中間試験の返却と解説
10. 「環境」(1) 企業研究・情報の活用
11. 「環境」(2) 企業研究・情報の収集と整理
12. 「環境」(3) 企業研究・情報の分析と評価
13. 「教育」(1) 企業研究の報告(1)
14. 「教育」(2) 企業研究の報告(2)
15. 〔前期末試験〕
16. 前期末試験の返却と解説
16. 自己分析(1) 語彙力(1)
17. 自己分析(2) 語彙力(2)
18. 自己分析(3) 語彙力(3)
19. 自己分析(4) 語彙力(4)
20. 自己分析(5) 語彙力(5)
21. 「社会」(1) 語彙力(6)
22. 「社会」(2) 語彙力(7)
23. 〔後期中間試験〕
24. 「学問」(1) 志望理由書の書き方
25. 「学問」(2) 手紙の書き方
26. 「学問」(3) 尊敬表現
27. 「技術」(1) 謙譲表現
28. 「技術」(2) 敬意表現の使い分け方(1)
29. 「技術」(3) 敬意表現の使い分け方(2)
30. 〔学年末試験〕
30. 学年末試験の返却と解説

**【関連科目】**

- 1年：国語Ⅰ(必修・通年・基礎科目)  
 2年：国語Ⅱ(必修・通年・基礎科目)  
 4年：国語表現(選択・前期、後期・応用科目)  
 近代と文学(選択・前期、後期・応用科目)  
 5年：古典文学(選択・前期、後期・応用科目)  
 日本現代文学(選択・前期、後期・応用科目)

**【成績の評価方法と評価基準】**

定期試験(60%) 課題・レポート(40%)

**【学生へのメッセージ】**

皆さんの積極的な参加を期待します。  
 質問は随時受け付けます。

**【授業科目名】政治・経済Ⅱ**

Politics・EconomyⅡ

【対象クラス】3年全学科

【科目区分】基礎科目・必修

(教育目標との対応：A-1)

【授業形式・単位数】講義・1単位

【開講期間・時間数】後期・100分

【担当教官】時松雅史(一般科)

(研究室)一般棟1F 時松研究室

E-mail: tokimatu@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**【科目概要】**

日本経済の発達について、近世から現代までの流れを概観する。本科目では特に町の発達や信用制度の発達について解説を行なう。更に経済が低成長下に入った現代の視点から、日本の高度経済成長とは何であったのかということ問い直す。

**【授業方針】**

テキストや授業に即したプリントを使用しながら解説していく。更に絵図、写真、街図などもプロジェクター等を利用して説明を加えたい。一方的な解説になりがちなので出来るだけ、文章を読ませたり考えさせたりする時間を設けたいと考える。

**【達成目標】**

1. 江戸時代における城下町の形成を当時の社会経済の面から理解できる。
2. 江戸時代における大坂、江戸、地方間の流通と手形や藩札などの信用制度の発達について、商人たちの活動を知ることによって理解できる。
3. 明治維新の諸改革と資本主義の発達について、農村の土地所有構造の変化を通して理解できる。
4. 日本の戦後の高度経済成長について要因や産業の発達、そして産業構造の変化の面から学ぶ。
5. 経済成長の中で町、特に商店街がどのように変化してきたのかを実例を挙げながら捉えることができる。
6. 近年各地域で行なわれている町づくりについて、その背景や方法について学ぶ。更に自分が住んでいる地域で実際どのような活動が行なわれているのかを調べることができる。

**【教科書等】**

教科書：『政治・経済新訂版』都留重人ほか 実教出版

参考書：『日本史B』尾藤正英ほか 東京書籍  
 江戸時代から現代までのプリント資料配布

**【授業スケジュール】**

1. 市の発達
2. 農工業の発展と商人町の形成
3. 城下町と商人町
4. 江戸時代の豪商(1)
5. 江戸時代の豪商(2)
6. 明治期の諸改革と交通
7. 明治期における農村の変化
8. (中間試験)
9. 日本の戦後復興
10. 日本の高度成長
11. 低成長を迎えた日本
12. 戦後の商店街の変容
13. 地域活性化と町づくり
14. 日本の農業及び地域経済と公共事業(期末試験)
15. 試験返却及びまとめ

**【関連科目】**

政治・経済Ⅰ、経済学、東アジアの中の日本

**【成績評価】**

1～5の項目について、定期試験(2回)を基に評価する。成績は2回のテストの平均とする。

**【学生へのメッセージ】**

経済成長に伴い、街や人々の暮らしがどのように変わってきたのかを暗記するのではなく、理解してほしい。疑問点があれば出来るだけ授業中に質問してほしい。この機会に街並みの歴史や地域活性化のための町づくり、そして地域を支えている諸産業に関心を持っていただきたい。

質問は随時受け付けます。スケジュールを確認して来室して下さい。



**【授業科目名】倫理・社会**

Ethics・Social Theory

**【対象クラス】3年全学科****【科目区分】一般基礎科目・必修**

(教育目標との対応：A-1,A-2,D-2)

**【授業形式・単位数】講義・2単位****【開講期間・時間数】通期・100分****【担当教員】小林 幸人 (一般科)**

(研究室) 一般管理棟1F 小林教官室

E-mail: kobayasi@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**【科目概要】**

この科目では、人間として社会の中で生きるということがどのような意味を持つのか、という問題を考えます。様々な哲学者の考え方をすることにより、多様な物の考え方に触れ、また現代社会が抱えている問題を広い視野から捉える能力の涵養をめざします。

**【授業方針】**

前期は、様々なものの見方を身に付けるために、古代の哲学者達の考え方を紹介します。後期は、現代社会が抱える様々な問題を取り上げます。

授業は講義中心ですが、様々な考え方を通して、何よりも自ら考える態度を身に付けることを目標とします。

**【達成目標】**

1. 自然科学的態度と哲学・倫理学的態度の違いを理解することが出来る。
2. 様々な思想について、その考え方の流れを理解することが出来る。
3. 授業で説明する各項目について理解し、説明することが出来る。
4. 歴史的・文化的視点から、人間を理解する視点を身に付ける。
5. 現代社会が抱える問題を理解することが出来る。
6. 自分の考えている内容を簡潔な文章で説明することが出来る。

**【教科書等】**

教科書：教科書：「哲学・倫理学概論」松島他著 学術図書出版

参考書：

『古代ギリシアの知恵とことば』 荻野弘之 NHK 出版

『社会哲学を学ぶ人のために』 加茂直樹編 世界思想社

『日本をどう変えるのか』 正村公宏 NHK 出版

**【授業スケジュール】**

1. 哲学・倫理学とは：観察と内省
2. 神話と哲学：世界の捉え方 (世界観)
3. 哲学の誕生：世界の原理 (アルケー) への問い
4. 初期ギリシア哲学：様々な思想
5. ソフィストの時代 (1)：絶対主義と相対主義
6. ソフィストの時代 (2)：人間中心主義

7. 古代ギリシアの社会：思想と人間

8. [中間試験]

9. 中間試験の返却と解説

ソクラテス：倫理学の誕生

10. プラトン (1)：真理への問い

11. プラトン (2)：民主政治と衆愚政治

12. アリストテレス (1)：徳倫理学

13. アリストテレス (2)：社会的動物としての人間

14. 哲学・倫理学と現代社会

[前期末試験]

15. 前期学年末試験の返却と解説

16. 人間とは何か：様々な人間観

17. 人格的存在：人間の尊厳

18. 社会の合理化と人間性の危機

19. 現代の人間観：個人と社会

20. 人間形成・自己形成

21. 青年期を生きる：アイデンティティの確立

22. 文化と人間

23. [中間試験]

24. 中間試験の返却と解説

近代化と社会の大衆化

25. 情報化社会①：現代社会における情報の意義

26. 情報化社会②：知的所有権、個人情報保護、情報公開、知る権利等

27. 国際化社会：ボーダレス化と他民族共生社会

28. 家族の変容：家族の小規模化、機能の外部化

29. 現代社会の課題：男女共同参画社会、高齢化と福祉等 [学年末試験]

30. 学年末試験の返却と解説

**【関連科目】**

1年：地理・歴史 2年：地理・歴史、政治経済 3年：政治経済 4年：現代社会論Ⅰ、経済学、法学 5年：哲学、現代社会論Ⅱ等

**【成績の評価方法と評価基準】**

\* 定期試験は、目標項目1~5に対応する問題を含めて出題し、達成度に応じて評価をつける。

\* 学年末の総合成績は、4回の定期試験の平均及び夏季・冬季レポートによって評価する。レポートは、特に目標項目6について評価する。

試験... ..80%, レポート... ..20%

\* 定期試験後に成績不良者と希望者については再試験を実施することがある。

**【学生へのメッセージ】**

◇ 暗記するのではなく、説明をよく聞きながら、思想を追体験して欲しい。その上で、現代社会の問題を考えるための様々な見方を身に付けて欲しい。

◇ 講義への質問や要望は、メールでも随時受け付けるので活用して貰いたい。

◇ 講義に関する情報発信 HP アドレス (学内専用)

<http://s-pagein.st.yatsushiro-nct.ac.jp/~kobayasi/>

**【授業科目名】数学Ⅲ MathematicsⅢ****【対象クラス】3年全学科****【科目区分】基礎科目・必修**

(教育目標との対応：B-1)

**【授業形式・単位数】講義・4単位****【開講期間・時間数】通年・200分****【担当教員】**

元田康夫 (一般科)・小原康博 (一般科)・

小鉢暢夫 (一般科)

(研究室) 一般棟2F 元田教員室

E-mail: motoda@as.yatsushiro-nct.ac.jp

(研究室) 一般棟2F 小原教員室

E-mail: ohara@as.yatsushiro-nct.ac.jp

(研究室) 一般棟2F 小鉢教員室

E-mail: kohachi@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**【科目概要】**

本科目では、まず、微分については第2次導関数および高次導関数からテーラーの定理まで、積分については数学Ⅱで学んだ積分公式の復習から分数関数および三角関数の積分さらには面積・回転体の体積・曲線の長さへの応用までを取り扱い、次に、1階・2階の基本的な微分方程式と行列の積や一次変換についても取り扱う。

また、数学Ⅱで学んだ1変数の基本的な微分・積分を基礎としている。

本科目は、多変数の微分積分学および行列式と行列の応用を学ぶための基礎となる科目である。

**【授業方針】**

本講義は教科書を中心に進め、下記の目標項目に関する解説と演習を行う。また、適宜授業内容を確認するための試験を実施する。

数学Ⅱで学んだ微分・積分の基礎を踏まえ、微分方程式を含むさらに進んだ知識の修得および簡単な計算ができるようになることを目標とする。また、行列の積や一次変換についても学ぶ。

**【達成目標】**

1. 次の各項目に関する簡単な計算ができる。  
逆三角関数の微分、 $\arcsin$ の定理、 $\arcsin$ の展開、分数関数等のやや進んだ積分、定積分を用いた面積・回転体の体積・曲線の長さの計算
2. 増減・極値・凹凸を調べ、簡単な関数のグラフをかくことができる。
3. 関数の媒介変数表示や極座標表示の取り扱いができる。
4. 変数分離形の微分方程式や定数係数2階線形微分方程式を含む簡単な微分方程式を解くことができる。
5. 行列の積や1次変換に関する簡単な計算ができる。

**【教科書等】**

教科書：新編 高専の数学3 (第2版)

田代嘉宏・難波完爾編 森北出版

参考書：新編 高専の数学3問題集 (第2版)

田代嘉宏編 森北出版

**【授業スケジュール】**

1. 第2次導関数と曲線の凹凸
2. 逆関数・逆三角関数と導関数
3. 曲線の媒介変数方程式
4. 極座標と曲線
5. 平均値の定理・不定形の極限
6. 不定形の極限値
7. (中間試験) / 8. 答案返却
9. ベキ級数・高次導関数
10. テイラーの定理
11. おもな関数の不定積分
12. おもな関数の不定積分・分数関数の不定積分
13. 分数関数の不定積分・ $\sin x$ 、 $\cos x$ の分数関数の積分
14. 和の極限值としての定積分 (前期末試験)
15. 答案返却
16. 面積・体積
17. 面積・体積・曲線の長さ
18. 曲線の長さ・広義積分
19. 微分方程式と解・変数分離形
20. 同次形・線形微分方程式
21. 1階の微分方程式になおす方法
22. (中間試験) / 23. 答案返却
24. 定数係数2階線形微分方程式
25. 定数係数2階線形微分方程式
26. 行列・行列の積
27. 逆行列・連立1次方程式
28. 1次変換
29. 1次変換の積・1次変換の逆変換 (学年末試験)
30. 答案返却

**【関連科目】**

本科1年 数学Ⅰ

同2年 数学Ⅱ

同4年 多変数の微分積分学、行列式と行列の応用

**【成績の評価方法と評価基準】**

4回の定期試験の成績(80%)と、適宜実施する確認のための試験またはレポートの成績(20%)によって目標項目の達成度を評価する。

算出された最終成績が60点以上を合格とする。

**【学生へのメッセージ】**

・やさしい基本的な問題を何回も正確に解くことが数学上達の早道です。

・講義や演習に関する質問は、放課後を利用して教員室または一般談話室まで訪ねてきてください。尚、担当の者だけでなく数学科全員で対応しておりますので気軽に声をかけてください。

【授業科目名】物理II PhysicsII  
 【対象クラス】機械電気工学科 3年  
 【科目区分】基礎科目・必修  
 (教育目標との対応：B-1)  
 【授業形式・単位数】講義・2単位  
 【開講期間・時間数】通期 100分  
 【担当教員】古閑 忠夫(機械電気工学科)  
 (研究室) 専門A棟2F東側 古閑教員室  
 E-mail: koga@as.yatsushiro-nct.ac.jp

【科目概要】  
 工学の基礎となる物理を学ぶことにより、物理的概念と現象に対する物理的なアプローチの方法・分析的思考を身につけることを目標としている。

【授業方針】  
 物理IIでは物理で学ばなかった電気や磁気について学習し、演示実験などを通じ電気・磁気の現象と導き出された法則などの理解を深め、演習問題を解くことによってそれらを身につけ将来の工学技術者としての基礎学力をつける。

- 【達成目標】
1. 物体中における電気とそのふるまいや電気を持った物の相互作用を考慮することができる。
  2. 電場とは何かを把握できる。
  3. 電気を貯めるためにはどうするかを考慮することができる。
  4. 電気が流れる現象である電流について、規則や日常での使われ方を考えることができる。
  5. 磁石とは何か。それがあある空間の磁場について把握することができる。
  6. 電流と磁場の関係とそれらの間の力について考えることができる。
  7. 電流を得るための磁場の作用について考えることができる。

【教科書等】  
 教科書：新物理IB 中村英二他著 第一学習社  
 (2年次購入済み)  
 物理II 宮本重徳他著 数研出版  
 参考書：物理IB学習ノート改訂版 数研出版  
 (2年次購入済み)  
 物理II学習ノート 数研出版

- 【授業スケジュール】
1. 静電気
  2. 電場
  3. 演示実験
  4. 電位
  5. コンデンサー
  6. 演示実験 演習
  7. 電流
  9. 【中間試験】
  9. 試験問題返却と解説
  10. 電気抵抗 演習
  11. 直流回路
  12. //
  13. //
  14. 電流と仕事
  - 【前期末試験】
  15. 試験問題返却と解説
  16. 磁場
  17. 電流の作る磁場
  18. 電流が磁場から受ける力
  19. 演示実験 演習
  20. ローレンツ力
  21. 電磁誘導の法則
  22. インダクタンス
  23. 【中間試験】
  24. 試験問題返却と解説
  25. 交流 演習
  26. 共振と電気振動
  27. 電磁波
  28. 演習
  29. 電子と原子
  - 【学年末試験】
  30. 試験問題返却と解説及び1年間のまとめ

【関連科目】  
 電気・電子回路  
 電磁気学

【成績の評価方法と評価基準】  
 評価は、計4回の定期試験での平均点を60%とし、演習レポートを40%として評価する。

【学生へのメッセージ】  
 日頃の勉学に力を入れる。  
 演習問題を解くことによって電気や磁気概念を身につけるようにする。  
 日常の電氣的・磁氣的現象を考えるようにしてほしい。  
 質問・疑問があればスケジュールを確認の上、教員室に来室のこと。

【授業科目名】物理II PhysicsII  
 【対象クラス】情報電子工学科 3年  
 【科目区分】基礎科目・必修  
 (教育目標との対応：B-2)  
 【授業形式・単位数】講義・2単位  
 【開講期間・時間数】通年・100分  
 【担当教員】吉沖周三(情報電子工学科)  
 (研究室) 専門A棟3F 生物物理研究室  
 E-mail: yoshioki@as.yatsushiro-nct.ac.jp

【科目概要】  
 物理学は、現在を生き抜く知識人の基礎的素養である、とともに自然科学の基礎である。内容は多岐にわたっているが、コアの部分は極めて単純である。それ故、基礎的なことを理解しようとする熱意が必要である。

【授業方針・学習目標】  
 物理IIでは、物理Iの内容で学習できなかった部分と、物理Iで学んだ知識を基礎にして、より進んだ項目について観察や実験を取り入れながら、物理的な思考方法とそれを表現する方法を学習する。演習や課題などを適宜課すことで、一層理解を深めさせ、数式を取り扱う力をつけさせる。内容は、光と光波、力学、円運動、単振動、万有引力の法則、気体分子運動論である。

- 【達成目標】
1. 光の速度は、どのようにして測定されたかを理解できる。
  2. 電磁波は、波長の違いによって呼び名が異なることを理解できる。光は横波であることを理解できる。
  3. 光の反射、屈折について学習し、全反射はどのような測定機器に利用されているかを理解できる。
  4. 凸レンズ、凹レンズの違いの学習をし、それらがどのように使用されているかを理解できる。
  5. ヤングの干渉実験、回折格子によってできる干渉縞が、どうしてできるかを理解できる。
  6. 等速円運動について理解し、向心加速度や向心力について理解を深める。
  7. 単振動について基本的なことを学習し、いくつかの単振動の例について理解を深める。
  8. 万有引力による運動について、基本的な事柄が理解できる。
  9. 気体の法則や気体のエネルギーを分子運動論的に取り扱うことができる。

【教科書等】  
 教科書：物理I 国友正和 他 数研出版  
 物理II 国友正和 他 数研出版  
 トライアルノート物理I 数研出版  
 トライアルノート物理II 数研出版

- 【授業スケジュール】
1. 光の伝わり方
  2. 光りの屈折と全反射
  3. 光の分散
  4. レンズ
  5. 光の回折と干渉
  6. 薄膜の干渉
  7. 演習問題
  8. (中間試験)
  9. 平面運動の速度・加速度
  10. 落体の運動
  11. 運動量と力積
  12. 運動量保存則
  13. 反発係数
  14. 演習問題
  - (前期末試験)
  15. 前期末試験の返却と解説
  16. 等速円運動
  17. 等速円運動の実験
  18. 慣性力
  19. 単振動
  20. 単振動の実験
  21. 単振り子
  22. 演習問題
  23. (中間試験)
  24. 万有引力
  25. 演習問題
  26. 物質の状態
  27. ボイル・シャルルの法則
  28. 気体の内部エネルギー
  29. 演習問題
  - (学年末試験)
  30. 学年末試験の返却と解説

【関連科目】  
 2年の物理I、総合理科II、専門科目では応用物理、電気磁気学など。

【成績の評価方法と評価基準】  
 4回の定期試験の結果を80%とし、その他に提出課題などの評価を20%加える。

【学生へのメッセージ】  
 物理は積み上げ型の理解が要求される科目である。自ら進んで予習及び復習を欠かさず行なってほしい。また、教科書や問題集の中の問題を自分で解くことが重要である。必要ならば、2年でやった物理の内容をもう一度学習しなおしておくことが、より進んだ内容の理解を助ける早道である。質問は随時受け付けます。スケジュールを確認して来室して下さい。

**【授業科目名】物理II PhysicsII**

【対象クラス】生物工学科 3年

【科目区分】基礎科目・必修

(教育目標との対応：B-2)

【授業形式・単位数】講義・2単位

【開講期間・時間数】通期・100分

【担当教員】北辻安次(一般科)

(研究室) 一般棟3F 北辻教員室

E-mail: kitatuj@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**【科目概要】**

物理学は、現在を生き抜く知識人の基礎的素養であるとともに、自然科学の基礎である。内容は多岐にわたっているが、コアの部分は極めて単純である。それ故、基礎的なことを理解しようとする熱意が必要である。

**【授業方針】**

物理IIでは、物理Iの内容で学習できなかった部分と、物理Iで学んだ知識を基礎にして、より進んだ項目について観察や実験を取り入れながら、物理的な思考方法とそれを表現する方法を学習する。演習や課題などを適宜課すことで、一層理解を深めさせ、数式を取り扱う力をつけさせる。内容は、光と光波、運動量と力積、円運動、単振動、万有引力の法則、静電気と電界である。

**【達成目標】**

1. 光についての色々な現象(反射、屈折、回折、干渉など)を波動の性質を利用して理解できる。
2. レンズの公式を取り扱うことができる。
3. 運動量保存法則を適用できる。
4. 等速円運動について理解し、向心加速度や向心力について取り扱うことができる。
5. いくつかの単振動の例について簡単に取り扱うことができる。
6. 万有引力による運動について、基本的な事柄が理解できる。
7. 静電気の性質やクーロンの法則について基本的な事項を理解している。
8. 電流と電圧についてオームの法則により簡単に計算できる。
9. 簡単な電力量の計算ができる。

**【教科書等】**

教科書: 物理II 国友正和他 数研出版

問題集: トライアルノート物理II 数研出版

教科書: 物理I 国友正和 他 数研出版

問題集: トライアルノート物理I 数研出版

**【授業スケジュール】**

1. 光の伝わり方
2. 光の屈折と全反射
3. 光の分散
4. レンズ
5. 光の回折と干渉
6. 薄膜の干渉
7. 問題演習
8. 〔中間試験〕
9. 平面運動の速度・加速度
10. 落体の運動
11. 運動量と力積
12. 運動量保存法則
13. 反発係数
14. 問題演習  
〔前期末試験〕
15. 前期末試験の返却と解説
16. 等速円運動と向心力
17. 慣性力と遠心力
18. 単振動と復元力
19. 単振り子とばね振り子
20. 万有引力
21. 問題演習
22. 〔中間試験〕
23. オームの法則と電流と電圧
24. 電流のする仕事と電力量
25. 静電気とクーロンの法則
26. 静電誘導と誘電分極
27. 静電気のつくる電場
28. 電気力線
29. 問題演習  
〔後期学年末試験〕
30. 学年末試験の返却と解説

**【関連科目】**

2年の物理I、総合理科II、専門科目では応用物理、応用数学などと関連している。

**【成績の評価方法と評価基準】**

4回の定期試験の結果を80%とし、その他に提出課題や小テストなどの評価を20%加える

**【学生へのメッセージ】**

物理は積み上げ型の理解が要求される科目である。自ら進んで予習及び復習を欠かさず行なってほしい。

また、教科書や問題集の中の問題を自分で解くことが重要である。必要ならば、2年でやった物理の内容をもう一度学習しなおしておくことが、より進んだ内容の理解を助ける早道である。

質問は随時受け付けます。スケジュールを確認して来室して下さい。

**【授業科目名】地学**

Geoscience

【対象クラス】土木建築工学科 3年

【科目区分】一般基礎科目・必修

(教育目標との対応：B-1)

【授業形式・単位数】講義・2単位

【開講期間・時間数】通年・100分

【担当教員】久保田 智(土木建築工学科)

(研究室) 専門科目棟1F 久保田教員室

E-mail: kubota@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**【科目概要】**

地学は建設技術者に必要な素養を育む分野を多く含んでいます。現在の環境問題を地球的な視野から考え、また地盤保全や各種の防災対策に工学的に取り組むために役立つ知識や教養を身に付けるための基礎科目です。

**【授業方針】**

「地球の変動」、「地球の歴史」、「気象」、「太陽系と宇宙」の4部門を網羅した高校検定教科書を用いて授業を行う。講義と合わせて、ビデオ教材を要所に用いて最新の情報や知見の理解を深める。また、地学が身近なテーマに関係していることを知るために、探究活動を取り入れる。

**【達成目標】**

1. 地球と他の惑星を比較することにより、地球の特徴や内部構造を理解する。
2. 地震活動とプレートの関連付けを理解する。
3. 火成岩、堆積岩、変成岩について、それらの成因と特徴を理解する。
4. ランドサットデータや地質図の観察により日本列島の地形や地質の特徴を知り、調べ方を理解する。
5. 地球の歴史について、生物の進化と地球の環境変化との関連付けを理解する。
6. 気圏についてその構造を理解し、オゾンホールや温室効果など人間生活に深く関係した現象が生じていることを知る。
7. 各種の気象現象を理解し、季節ごとの天気図の特徴を知る。
8. 太陽の活動と、その地球への影響を理解する。
9. 宇宙に興味を持ち、そして、かけがえない地球の大切さを理解する。

**【教科書等】**

教科書: 「地学I」 検定教科書, 啓林館

参考書: 地球大進化

**【授業スケジュール】**

32. ガイダンス, 地球大進化(ビデオ)

33. 太陽系の中の地球

34. 地球の形と構造構成

35. 地球の活動

36. 地殻の形成

37. 地震災害(ビデオ)

38. 探求活動: 地震と断層の関係を調べる

39. 〔前期中間試験〕

40. 前期中間試験の解説, 探求活動の講評

41. 地球の歴史(ビデオ)

42. 地球史の読み方

43. 地層と化石

44. 探求活動: 宇宙から見た日本列島

45. 探求活動: 日本列島の地質調べ

46. 地球と生命の進化

〔前期末試験〕

47. 前期末試験の解説, 探求活動の講評

48. 大気と水

49. 大気の運動

50. 日本の天気

51. 海洋と気候

52. 気象災害(ビデオ)

53. 探求活動: 天気図を描く

54. 〔後期中間試験〕

55. 後期中間試験の解説, 探求活動の講評

56. 太陽系の旅(ビデオ)

57. 太陽と太陽系

58. 恒星の性質と進化

59. 銀河系と宇宙

60. 探求活動: 日時計, 星座早見盤を作る

〔学年末試験〕

61. 学年末試験の解説, かけがえない地球(ビデオ)

**【関連科目】**

3年: 土質力学(必修・専門基礎科目)

4年: 地盤工学(選択・専門応用科目)

5年: 地球環境工学(必修・専門基礎科目)

5年: 防災工学I, II(選択・専門応用科目)

**【成績の評価方法と評価基準】**

\* 授業目標に対する達成度を評価基準とする。

\* 評価点は定期試験の平均を70%、探究活動の成果を30%の割合で合計する。なお、定期試験毎に60点に満たない学生と希望者に対して再評価のための特別指導を行います。

**【学生へのメッセージ】**

\* 地学は建設分野の素養となりますので、興味を持って取り組んでください。

\* 授業や会議等が無い時間帯はオフィスアワーです。在室時はいつでも訪ねてください。

【授業科目名】 保健体育Ⅲ（テニス）  
Physical Education III

【対象クラス】 3年全学科

【科目区分】 基礎科目・必修  
（教育目標との対応：G-2）

【授業形式・単位数】 講義及び実技・2単位

【開講期間・時間数】 通期/4・100分

【担当教官】 宅島 章（一般科）

（研究室）一般棟1F 宅島教員室

E-mail: takusima@as.yatsushiro-nct.ac.jp

#### 【科目概要】

テニスは、他の球技に比べ年齢に応じた練習や試合ができるスポーツ寿命の比較的長い競技であるので、本授業での経験を生かし生涯スポーツとして取り入れることができるように、各技術を取得して欲しい。

#### 【授業方針・学習目標】

○本テニスの授業は、前半、ペアによるグラウンドストロークを重点的に行い、後半は他のペアとダブルスのゲームができるように展開したい。

#### 【達成目標】

○技術においては、ラケットによるボールコントロールができる。また、飛来するボールに対する予測能力、を身に付けることができる。さらに、ペアでの練習もゲーム展開を想定した技術を磨くことができる。

○社会的態度（規則を守る・責任感・協調性・安全性）を育成することができる。

#### 【教科書等】

適宜、必要に応じて紹介するが、自らもインターネット等を活用し、その競技のルールや歴史、練習方法を学習すること。

#### 【授業スケジュール】

1. ガイダンスと競技規則・基本技
2. グラウンドストローク・壁打ち
3. サービス、応用プレー
4. 基本技・応用プレー
5. 基本技・応用プレー
6. ルールとゲームの進め方等のペーパー・テスト
7. ゲーム・評価
8. ゲーム・評価

#### 【関連科目】

4年 スポーツ科学

5年 健康科学

#### 【成績評価】

評価は、出席状況 50%、筆記試験及びレポート 20%  
実技試験 30%とする。

#### 【学生へのメッセージ】

- 身体活動には身体接触や転倒が生じる。安全な指定の体育服・靴を着用すること。また、危険性の伴う指輪、ネックレス、ピアス等の装身具は身につけないこと。授業の前日は睡眠を充分確保しておくこと。
- 始業時間の厳守すること。
- 質問等においては、授業は勿論、他の時間帯でも受けるので、積極的に参加して欲しい。

【授業科目名】 保健体育Ⅲ（ハンドボール）  
Physical Education III

【対象クラス】 3年生全学科

【科目区分】 基礎科目・必修  
（教育目標との対応：G-2）

【授業形式・単位数】 講義及び実技・2単位

【開講期間・時間数】 通期/4・100分

【担当教官】 四宮一郎（一般科）

（研究室）一般棟1F 四宮教員室

E-mail: sinomiya@as.yatsushiro-nct.ac.jp

#### 【科目概要】

ハンドボール競技は、運動の三要素である走・跳・投がバランスよく配合されたスポーツである。ゲームにおいても、攻守の切り替えが早く、非常にスピーディーな展開が行われ、スタミナも要求される。豊富な運動量とともに、攻撃や防御の作戦にチーム内での工夫が必要であり、青年期の体力、運動能力向上に適したスポーツの一つであると言える。

#### 【授業方針】

ハンドボールの基礎となる、フットワークやパス、シュートについては一斉に行い、その後ハンドボールの個人的技術及び集団的技術を身につけ、ハンドボールの特性を生かしたゲームを楽しめるようにするためにグループ別学習を行う。また、ハンドボールのルールを学び、審判はもちろんゲームの管理・運営ができる態度と能力を養うことを目標とする。

#### 【達成目標】

1. ハンドボール競技の特性を理解し、ゲームを楽しむために必要な基本的攻撃技術・防御技術を身につけることができる。
2. ゲームに対してはもちろん、練習においても創意工夫ができるようになる。
3. ハンドボールのルールを理解し、お互いに審判ができるようになる。
4. 社会的態度（規則を守る・責任感・協調性・安全性）を育成する。

#### 【教科書等】

特になし

ルール、ゲームの進め方等についての資料を適宜配布する。

#### 【授業スケジュール】

1. オリエンテーション：授業の心得、ハンドボールの歴史及び特性、ルールの学習について  
基本技術：フットワーク、パス、ドリブル、シュート等
2. 基本技術：パスゲーム、1対1及び2対1
3. 基本技術：グルーピング、2対1、3対2の攻防  
審判法について 簡易ゲーム
4. 基本技術：2対2、3対3の攻防、審判法  
簡易ゲーム
5. 班別対抗リーグ戦
6. 班別対抗リーグ戦
7. 班別対抗リーグ戦、実技評価
8. 実技評価

#### 【関連科目】

4年スポーツ科学、5年健康科学

#### 【成績評価】

パス、キャッチ、シュート等の個人的攻撃技術・防御技術及びルールの理解度を総合して評価する。なお、実技は90%、ルールの理解度は10%として算出する。

#### 【学生へのメッセージ】

ハンドボールは、まだメジャーなスポーツとはいえないが、熊本県は「ハンドボール王国」と言われ、小学校から実業団チームまですべての種別が存在し、各種大会も盛んに行われている。最近では、1997年に世界ハンドボール選手権が、1999年には熊本国体、そして2000年にはインターハイが熊本県内各地で開催され、各会場へ足を運んだ学生もいることであろう。学生諸君には、本授業でハンドボールのおもしろさを知ってもらい、今後おおいに関心を持ってハンドボールに親しんでもらいたい。

なお、授業には体調を十分に整えて参加すること。安全に授業を展開するために、指輪、ネックレス等の装身具は身につけないこと。また、指定された体育服を着用すること。

質問は、時間割を確認の上入室すること。また、メールでの質問も随時受け付ける。

**【授業科目名】保健体育III (ニュースポーツ)**

Physical Education III

**【対象クラス】**3年生全学科**【科目区分】**基礎科目・必修

(教育目標との対応:G-2)

**【授業形式・単位数】**講義及び実技・2単位**【開講期間・時間数】**通期/4・100分**【担当教官】**笹本勝義 (一般科非常勤講師)**【科目概要】**

最近のスポーツは勝つためのスポーツから楽しむためのスポーツに、また生きがいの為のスポーツへと大きな変革を迎えようとしている。このニュースポーツは、ソフトボールをティーボールに、バレーボールをソフトバレーに、また投てきとしてフリスビーを実施し、各スポーツの技術を長時間かけてマスターすることなく、誰でもいつでも、どこでも手軽に出来るスポーツとして楽しむことができるよう必要な技術、ルールを学ぶ。

**【授業方針】**

1. ニュースポーツのゲームに必要な技能を身につけゲームを楽しみ、その楽しさが意欲や興味、関心などを増し、健康増進や仲間づくりへと発展する態度を養う。
2. 必要なルールを学び、試合の管理・運営・審判ができる能力と、ゲームを楽しむ心の豊かさを養う。

**【達成目標】**

1. 技能の向上と各種大会の計画立案と運営ができる (生涯スポーツにつながるよう)。
2. 審判法を習得することができる。
3. 社会的態度を身につける (規則を守る・責任感・協調性・安全性)。

**【教科書等】**

適宜資料を配布する。

**【授業スケジュール】**

1. ティーボール:オリエンテーション(目標、心得)、ルールと基本練習
2. ティーボール:基本練習と試合
3. ティーボール:試合(リーグ戦) 評価
4. フリスビー:ルールの説明、基本練習、競技会
5. フリスビー:競技会(距離投げ、的当て他)評価
6. ビーチバレー:ルール(ビーチ・ソフトバレー)の説明と競技、基本練習
7. ソフトバレー:試合(班別対抗…リーグ戦、トーナメント戦)
8. ソフトバレー:試合、テスト(実技、理論)

**【関連科目】**

- 4年スポーツ科学  
5年健康科学

**【成績評価】**

1. 基本技能とゲーム結果の総合評価。(80%)
2. 授業への参加態度。(10%)
3. 健康な生活への取り組みと実践的態様の評価。(10%)

**【学生へのメッセージ】**

目標が何かを認識し実行することが授業です。そこで「考え」「気づき」そして「実行」できる体育の授業にしよう。

質問については、来校日(水曜日)に受け付ける。

**【授業科目名】保健体育III (バスケットボール)**

Physical Education III

**【対象クラス】**3年生全学科**【科目区分】**基礎科目・必修

(教育目標との対応:G-2)

**【授業形式・単位数】**講義及び実技・2単位**【開講期間・時間数】**通期/4・100分**【担当教官】**坂川正信 (一般科非常勤講師)**【科目概要】**

1891年(明治24年)アメリカ、マサチューセッツ州スプリングフィールドYMCAのネイ・スミス氏により考案されてから113年、改良に改良が重ねられ、ようやく世界のメジャースポーツの一つとして認められてきている。スピード、スタミナ、敏捷性、柔軟性、巧緻性など他のスポーツのあらゆる基本を要するのがこのバスケットボールである。

学校体育においても特に重視され、小学校から正課科目として取り上げられているほどである。

**【授業方針】**

パス、ドリブル、シューティングはもちろん、特に基本となるフットワークができなければ危険でもあるし、先のゲームに進めないで、それについては一斉授業で行い、次にグループ学習へと展開していき、みんなで楽しくゲームができるようにするのが学習目標である。

**【達成目標】**

1. 技能の向上と各種大会の計画立案と運営ができる (生涯スポーツにつながるよう)。
2. 審判法を習得することができる。
3. 社会的態度を身につける (規則を守る、責任感、協調性及び安全性の育成等)。

**【教科書等】**

適宜資料を配布する。

**【授業スケジュール】**

1. バスケットボールの歴史及び特性、基本的なルールの学習と審判法について。
2. 一斉授業:フットワーク及び基礎体力の育成、パス、ドリブル、シューティング
3. 同 上
4. グルーピング(技能、身長などを考慮し班を編成する。)キャプテンを中心に学習計画を立て、拡販ごとに活動する。
5. 同 上 班別対抗簡易ゲーム
6. 班別対抗リーグ戦 各種実技テスト
7. 班別対抗リーグ戦 各種実技テスト
8. 班別対抗リーグ戦

**【関連科目】**

- 4年スポーツ科学  
5年健康科学

**【成績評価】**

1. 各グループにおいて自主的にまた積極的に取り組んだか。(10%)
2. 技能の習得に努力したか。(80%)
3. 出席及び授業態度は良好であったか。(10%)

**【学生へのメッセージ】**

小学校、中学校で一度は経験しているようだが、いわゆる遊びでやった程度で、バスケットボールの歴史や競技の特性については全く理解できていないので知識として理解し、最近やっとメジャースポーツになり、NBAや日本リーグなどもTVで放映されているので、今後おおいに関心を持ってバスケットボールに親しみ、生涯スポーツとして生かしてもらいたい。

質問については、来校時(水、金曜日)に受け付ける。

**【授業科目名】英語Ⅲ (aコース)**

English III

**【対象クラス】**3年生全学科**【科目区分】**基礎科目・必修

(教育目標との対応: F-2, F-3, A-2)

**【授業形式・単位数】**講義・4単位**【開講期間・時間数】**通期・100分**【担当教員】**関文雄(一般科)

(研究室) 一般棟 3F 関教員室

E-mail: seki@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**【科目概要】**

学生の英語学習の動機が多様化から英語Ⅲでは学習目的別クラス編成で英語の授業を行う。

aコースでは、中学校から高専2年生までに修得してきた英語の基礎・基本的学習事項の全般的な復習と強化を行い、4年次以降の学習につなげることを意図している。

**【授業方針】**

このクラスでは、2年次までに修得し切れなかった基礎・基本的事項を確実に身につけることを目標に、比較的平易な文章による講読演習、基礎的な構文演習、及びコミュニケーション能力伸長のためのリスニング訓練を行う。また、長期休暇中には課題を課し、自学の習慣を身につけることを奨励する。

**【達成目標】**

(具体的な目標項目)

1. 比較的平易な英語による文章をできるだけ自然なスピードで声に出して読める。
2. 比較的平易な様々なトピックの英文を辞書を用いて理解する。スキミングやスキニングなどの読解の方法を習得すると共に、英語の文章自体にも習熟する。
3. 英語構文に関するテキストを用い、英語の構文に関する理解を深める。また、構文の知識を、簡単な話題であれば、簡単な英語で表現することに用いることができる。
4. リスニング教材を用いた訓練により、ごく簡単な内容であれば、概要を聞き取ることができる。

**【教科書等】**

教科書:

『Hyper Listening -Introductory-』(桐原書店)

『基礎を固める英語構文ノート90』(数研出版)

(1~22週) 『Tell me a Story!』(南雲堂)

(23週以降) 『Gateway to Reading』(数研出版)

参考書:

『SEED 総合英語』(和田稔他 文英堂)

**【授業スケジュール】**

1~7週 1. Marie Antoinette of Versailles

2. Tragedy in the Swiss Alps

3. The Hidden Gold of the Incas

中間試験

8~14週 4. Titus and the Lion

5. The Legend of Atlantis

6. The Curse of Tutankhamen

7. The Moon Saved a Man's Life

前期末試験

15週 前期のまとめ

16~22週 8. Cards Saved a King's Life

9. The Pirates Treasure

10. The New Earthquake Prediction

中間試験

23~29週 『Gateway to Reading』より抜粋

学年末試験

30週 後期のまとめ

\* 『Hyper Listening』及び『構文ノート』については進度に応じて取り扱うため授業中別途指示する。

**【関連科目】**

本科科目では、英語Ⅰ、英語Ⅱ、及び各学年での英会話で学習した事項がベースとなっている。

また、英語Ⅳ、英語Ⅴ、専門英語へとつながり、卒業研究における文献講読とも関連している。

**【成績の評価方法と評価基準】**

- \* 2、3及び4については、定期試験で確認する。
- \* 3、4については、毎回の活動(提出物)でも評価する。
- \* 1については、活動は行うが、評価の対象とはしない。
- \* 最終成績の算出方法は、4回の定期試験を平均(80%)と授業中及び随時課す課題の提出物(20%)とし、60点以上を合格とする。

**【学生へのメッセージ】**

・講義への質問や要望は、面会及びメールを問わず随時受け付けるので活用されたい。来室の場合は、授業や会議等の基本スケジュールを通知しておくので、あらかじめ確認すること。

・4年次からさらに発展的・応用的な学習を進めることができるように、このクラスで自力をつけたい。よって、学生諸君には少しでも多く英語に触れることを要求する。「英語に触れる」とは、英語を読み、書き、聞き、話すことである。初歩的な内容であっても、英語の「量」を追求することは、「質」の向上にもつながるはずである。学生諸君には、日々の自発的・積極的な活動を期待する。

**【授業科目名】英語Ⅲ (bコース)**

English III

**【対象クラス】**3年生全学科**【科目区分】**基礎科目・必修

(教育目標との対応: A-2, F-2, F-3)

**【授業形式・単位数】**講義・4単位**【開講期間・時間数】**通期・200分**【担当教員】**長嶺 寿宣(一般科)

小山 賢吉(非常勤)

(研究室) 一般棟 3F 長嶺教員室

E-mail: nagamine@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**【科目概要】**

学生の英語学習の動機が多様化から英語Ⅲでは学習目的別クラス編成で英語の授業を行う。

bコースでは、2年次までに修得してきた英語の基礎知識、及び基本的な4技能(speaking, listening, reading, writing)の強化と定着を図り、効率よく4年次以降の学習につなげることを意図している。

**【授業方針】**

授業は、教科書を用いた講義形式で進めていく。講義に加えて、英語の基礎知識と基本的な4技能の強化を図るため、音読練習・ディクテーション、既習語彙・構文の口頭練習等のトレーニングを行う。また、随時、基本的な文法事項・語彙の小テストを実施し、英検準2級受検を視野に入れた問題演習も行う。長期休暇には課題を与え、課題への取り組みを確認する試験を課す。自発的な学習方法・習慣の確立を目指した指導も行う。

**【達成目標】**

1. 日常的に使用されるレベルの英文を速読し、大意を把握することができる。
2. 日常的に使用されるレベルの英文を精読し、内容を正確に理解することができる。
3. 内容を把握し、理解した英文についての英語の質問に、英語で的確に答えることができる。
4. 内容を理解した英文を、正確な発音、イントネーションで音読することができる。
5. 日常的に使用されるレベルの英語を聞いて、内容を的確に理解し、また書き取ることができる。

**【教科書等】**

教科書: 『Basic Faster Reading: 速読の基礎演習』

Casey Malarcher・森田彰・原田慎一

共著(成美堂)

副教材: 『本試験型英検準2級試験問題集』

滑川義一 監修(成美堂)

『HyperListening: 10-minute English

Listening Training (Elementary)』

石井正仁・萩原一郎 共著(桐原書店)

参考書: 『SEED 総合英語』 和田稔 編著(文英堂)

**【授業スケジュール】**

第1週: ガイダンス

Lesson 1

第2週~8週: Lesson 2~5

[前期中間試験]

第9週~14週: 試験返却・解説

Lesson 6~10

[前期末試験]

第15週~23週: 試験返却・解説

Lesson 11~15

[後期中間試験]

第24週~29週: 試験返却・解説

Lesson 16~20

[学年末試験]

第30週: 試験返却・解説

講義総括

\*教科書以外の教材については別途指示する。

**【関連科目】**

本科目は、英語Ⅰ、Ⅱ、及び英会話での学習事項がベースになる。延長科目としての英語Ⅳ、Ⅴや専門英語、そして卒業研究時の文献講読にも関連する科目である。

**【成績の評価と評価基準】**

- \*目標項目1, 2, 3, 5は定期試験と小テストで確認する。
- \*目標項目4は授業中の言語活動を10段階評価することによって確認する。
- \*最終成績は定期試験を65%, 課題と小テスト、及び言語活動の評価を35%として算出し60点以上を合格とする。

**【学生へのメッセージ】**

・国際社会では、英語で読み書きができるだけでは通用しません。授業での音を介した言語活動に積極的に取り組み、運用能力の基盤を作ってください。

・講義への質問や要望はメールでも随時受け付けるので活用すること。来室の場合は、授業や会議のスケジュールを通知するので、確認すること。

・英語が苦手? 勉強の仕方が分からない?大丈夫です! いつからでもやり直せるのが語学学習です。学習法についても、ぜひ相談してください。

**【授業科目名】英語Ⅲ（cコース）**

English III

**【対象クラス】**3年全学科**【科目区分】**基礎科目・必修

（教育目標との対応：A-2, F-2, F-3）

**【授業形式・単位数】**講義・4単位**【開講期間・時間数】**通期・100分**【担当教員】**前山桂子（非常勤）**【科目概要】**

学生の英語学習の動機が多様化から英語Ⅲでは学習目的別クラス編成で英語の授業を行う。

cコースでは、英語Ⅰ・Ⅱで学習した基礎的・基本的事項を習得していることを前提に、発展的な知識や技能を学び、英語による「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の四技能のさらなる伸長を目指す。4年次以降の学習につなげることを意図し、TOEIC形式の問題演習も行う。

**【授業方針】**

一般的な事柄や時事問題について書かれた文章により構成されたテキストを用いて、読解力向上を目的とした速読と精読、自分の意思を伝達するコミュニケーション能力伸長のための英作文練習、リスニング訓練、及びスピーキング練習を毎回行う。

また、専用教材を用いて、毎時TOEIC形式の問題演習に取り組み、英語資格試験に対する実践力を高め、英語学習の伸長の目安にする。加えて、長期休暇中には課題を課し、自学の習慣を身につけることを奨励する。

**【達成目標】**

1. 一般的に使用されるレベルの英語を速読し、大意を把握することができる。
2. 一般的に使用されるレベルの英語を精読し、内容を正確に理解することができる。
3. 既習の構文を用いて、英語で自分の意思を伝達することができる。
4. 日常会話で使われる程度の英語を聞き、その内容を的確に理解し、また書き取ることができる。
5. TOEICの問題形式に習熟し、解法のヒントを習熟できる

**【教科書等】**

教科書：『Daily English Writing』 池田書店  
『速読&精読トレーナー：標準編』 東京書籍  
副教材：『Hyper Listening Plus』 桐原書店  
『TOEIC テストワードマスターアプローチ』 成美堂

参考書：『SEED 総合英語』 文英堂

『データベース 3000 基本英単語・熟語』

**【授業スケジュール】**

第1～7週

ガイダンス、1～3章

第8週〔前期中間試験〕

第9～14週

試験返却・解説、4～7章

〔前期末試験〕

第15週～22週

試験返却・解説、8～11章

第23週〔後期中間試験〕

第24週～29週

試験返却・解説、12～15章

〔後期学年末試験〕

第30週

試験返却・解説、まとめ・復習

\* 『速読&amp;精読トレーナー』の章を示す。

\* 他の教材は進度に応じて取り扱うため授業中に別途指示する。

**【関連科目】**

本科目は、英語Ⅰ、英語Ⅱ、及び各学年での英会話で学習した事項がベースとなっている。

また、4年次における同様の目的別コース分け学習や5年次における英語Ⅴや専門英語とも関連しており、高年次での発展的学習の基礎となるほか、卒業研究における文献講読とも関連している。

**【成績の評価方法と評価基準】**

- \* 1から5の目標項目について、定期試験で確認する
- \* 特に3、4、5については、毎時の活動（問題演習及び小テスト）によっても確認する
- \* 最終成績の算出方法は、4回の定期試験の平均点（70%）+提出物や課題の取り組みに対する評価（30%）とする
- \* 上記の式で算出した最終成績が60点以上で合格とする

**【学生へのメッセージ】**

- ・外国語を身につけるには地道にコツコツやる以外、王道はないと思います。確実な学習法を身につけるために、是非、前向きな授業参加を望みます。
- ・尚、TOEICについては4年時以降の学習を視野に入れながら、入門程度を学習する予定です。このコース選んだからには、どうぞ積極的にチャレンジしてみてください。
- ・学習に関する疑問・質問どんなことでも、いつでもどうぞ。大歓迎です。来校時を利用して声をかけて下さい。

**【授業科目名】英語Ⅲ（dコース）**

English III

**【対象クラス】**3年全学科**【科目区分】**基礎科目・必修

（教育目標との対応：A-2, F-2, F-3）

**【授業形式・単位数】**講義・4単位**【開講期間・時間数】**通期・100分**【担当教員】**福井由美子（一般科）

（研究室）一般棟 3F 福井教員室

E-mail: fukui@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**【科目概要】**

学生の英語学習の動機が多様化から英語Ⅲでは学習目的別クラス編成で英語の授業を行う。

cコースでは、英語Ⅰ・Ⅱで学習した基礎的・基本的事項を習得していることを前提に、発展的な知識や技能を学び、英語による「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の四技能のさらなる伸長を目指す。4年次以降の学習につなげることを意図し、英検形式の問題演習も行う。

**【授業方針】**

一般的な事柄や時事問題について書かれた文章により構成されたテキストを用いて、読解力向上を目的とした速読と精読、自分の意思を伝達するコミュニケーション能力伸長のための英作文練習、リスニング訓練、及びスピーキング練習を毎回行う。

また、専用教材を用いて、毎時英検2級形式の問題演習に取り組み、英語資格試験に対する実践力を高め、英語学習の伸長の目安にする。加えて、長期休暇中には課題を課し、自学の習慣を身につけることを奨励する。

**【達成目標】**

1. 一般的に使用されるレベルの英語を速読し、大意を把握することができる。
2. 一般的に使用されるレベルの英語を精読し、内容を正確に理解することができる。
3. 既習の構文を用いて、英語で自分の意思を伝達することができる。
4. 日常会話で使われる程度の英語を聞き、その内容を的確に理解し、また書き取ることができる。
5. 実用英語技能検定試験2級の問題形式に習熟し、解法のヒントを習熟できる

**【教科書等】**

教科書：『Daily English Writing』 池田書店  
『速読&精読トレーナー：標準編』 東京書籍  
副教材：『Hyper Listening Plus』 桐原書店  
『英検プラス単語熟語』 旺文社

参考書：『SEED 総合英語』 文英堂

『データベース 3000 基本英単語・熟語』

**【授業スケジュール】**

第1～7週

ガイダンス、1～3章

第8週〔前期中間試験〕

第9～14週

試験返却・解説、4～7章

〔前期末試験〕

第15週～22週

試験返却・解説、8～11章

第23週〔後期中間試験〕

第24週～29週

試験返却・解説、12～15章

〔後期学年末試験〕

第30週

試験返却・解説、まとめ・復習

\* 『速読&amp;精読トレーナー』の章を示す。

\* 他の教材は進度に応じて取り扱うため授業中に別途指示する。

**【関連科目】**

本科目は、英語Ⅰ、英語Ⅱ、及び各学年での英会話で学習した事項がベースとなっている。

また、4年次における同様の目的別コース分け学習や5年次における英語Ⅴや専門英語とも関連しており、高年次での発展的学習の基礎となるほか、卒業研究における文献講読とも関連している。

**【成績の評価方法と評価基準】**

- \* 1から5の目標項目について、定期試験で確認する
- \* 特に3、4、5については、毎時の活動（問題演習及び小テスト）によっても確認する
- \* 最終成績の算出方法は、4回の定期試験の平均点（70%）+提出物や課題の取り組みに対する評価（30%）とする
- \* 上記の式で算出した最終成績が60点以上で合格とする

**【学生へのメッセージ】**

- ・講義への質問や要望は、メールでも随時受け付けます。来室の場合は、授業や会議、部活等の基本スケジュールを通知しておくので、あらかじめ確認しておいて下さい。
- ・1・2年で学んだことを、進学や卒業後に生かすための橋渡しとなる学習を行う大切な1年間です。目標を持ち、そのために何をすべきか考え、積極的に学習に取り組んで下さい。

【授業科目名】英会話Ⅲ English Conversation Ⅲ

【対象クラス】3年生全学科

【科目区分】基礎科目・必修

(教育目標との対応: A-1, F-2, F-3)

【授業形式・単位数】講義・1単位

【開講期間・時間数】前期・100分

【担当教官】

Gail Braybrooks (一般科 一般棟 2F)

E-mail: gail@as.yatsushiro-nct.ac.jp

【科目概要】

Speaking and listening practicing

【授業方針・学習目標】

Two or four-person "reality-centered" speaking and listening lessons, games, videos/DVDs, and music.

(具体的な目標項目)

1. To become comfortable with many conversational devices in common use.
2. To expand vocabulary somewhat.
3. To increase ability to speak and understand common grammar structures.
4. To gain a feel for the flow of English conversation.

【教科書等】

Textbook: 1.

1. Teacher's hand-outs

【授業スケジュール】

This class will be held as one 100-minute session per week during the first semester of the school year.

- 1 Hand out folders and introduce class; "What did you do during spring break?" - whole class; "Numerology" activities and whole class pair rotation
- 2 Bryan Adams songs; "Write a postcard to Bryan"; "Giving orders" - pair work, outside on the grass
- 3 "Puzzlemania" - pair work; "Gambling games" - pair work
- 4 "4WD road race" - pair work; "Making requests" - pair work
- 5 "Have to / Be allowed to" - exercise and pair work; "What do you think about...?" - pair work; "This is the real thing: American youth slang" - pair work

6 "A and B puzzle": Same as / Opposite of - pair work; "You did what?!" - pair work; Science and math quiz cards - pair work

7 "Do you get it?" - pair work; "Ask each other these questions" - pair work

Midterm Exam

8 Hand back tests; "Love survey" - pair work; "What's the connection?" - pair work

9 Love survey results; David Beckham DVD and listening exercise

10 KNOCK card game; KNOCK "Higher than / Lower than" exercise; "Find this person" - whole class pair rotation

11 "Mr. Bean at the Department Store" video and written exercise; "What's it used for?" - pair work

12 "R / L pronunciation: E-mail messages" - pair work; "Who is Pete Green really? Mystery" - pair work

13 "Fashion words" exercise; "What's your style?" - pair work

14 "Bomb" - pair work; "Your SELF" activities and listening exercise

Semester Exam

15 Hand back tests; "This time, YOU ask Gail questions" - whole class

【関連科目】

The other English classes

【成績評価】

Two exams of 50 problems, with listening and written parts plus extra credit for doing class work diligently

【学生へのメッセージ】

Don't give up on English! You really will want to use it someday!

【授業科目名】多変数の微分積分学

Calculus in Several Variables

【対象クラス】4年生全学科

【科目区分】基礎科目・必修

(教育目標との対応: B-1)

(JABEE基準との対応: c)

【授業形式・単位数】講義・1単位

【開講期間・時間数】前期・100分

【担当教員】

元田康夫 (一般科)・小原康博 (一般科)

五十川読 (一般科)・濱田さやか (一般科)

(研究室) 一般棟 2F 元田教員室

E-mail: motoda@as.yatsushiro-nct.ac.jp

(研究室) 一般棟 2F 小原教員室

E-mail: ohara@as.yatsushiro-nct.ac.jp

(研究室) 一般棟 2F 五十川教員室

E-mail: isagawa@as.yatsushiro-nct.ac.jp

(研究室) 一般棟 2F 濱田教員室

E-mail: hamada@as.yatsushiro-nct.ac.jp

【科目概要】

本科目は、2変数の微分法(偏導関数、極値問題、陰関数の定理)と積分法(累次積分、立体の体積、極座標変換)について取り扱うものである。

また、数学I、そして数学IIと数学IIIにおける1変数の微分積分を基礎とした科目である。

本科目は、より高度な微分積分、解析学などを学ぶための入門であり、他の分野に応用できる素地となるところが多い。

【授業方針】

本講義では教科書を中心に進め、下記の目標項目に関する解説と演習を行う。また適宜、授業内容を確認するための試験を実施する。

2変数の微分法と積分法における基本的な知識の修得と簡単な計算ができるようになることを目標とする。

【達成目標】

1. 2変数関数の簡単な極限值を求めることができる。
2. 2変数関数の偏導関数と第2次偏導関数を求めることができる。
3. 合成関数の偏導関数を求めることができる。
4. 偏導関数と第2次偏導関数を用いて、2変数関数の極値を求めることができる(極値判定問題)。
5. 陰関数の定理を用いて、曲線上の点における接線と法線の方程式を求めることができる。
6. 条件付きの2変数関数の極値を求めることができる(条件付き極値問題)。
7. 重積分を累次積分に直して計算することができる。
8. 重積分の順序変更ができる。

9. 重積分を用いて、立体の体積を求めることができる。

10. 直交座標を極座標に変換して、重積分を求めることができる。

【教科書等】

教科書: 新編 高専の数学3 (第2版)

田代嘉宏・難波完爾編 森北出版

参考書: 基礎 微分積分学=教養課程24 講義=

小林巖・宇内泰変 朝倉書店

【授業スケジュール】

1. 2変数関数
2. 偏導関数
3. 合成関数の偏導関数
4. 2変数関数の平均値の定理
5. 2変数関数の極大・極小
6. 陰関数定理
7. [中間試験]
8. 答案返却
9. 条件付き極大・極小
10. 重積分
11. 重積分
12. 重積分
13. 極座標による重積分
14. 極座標による重積分 [前期末試験]
15. 答案返却

【関連科目】

本科1年 数学I

本科2年 数学II (数列、微分法、積分法)

本科3年 数学III (微分法、積分法)

【成績の評価方法と評価基準】

2回の定期試験と授業時に行う数回の確認のための試験の成績によって、目標項目の達成度を評価する。

最終成績は、2回の定期試験の成績(80%)と授業時に行う数回の確認のための試験の成績(20%)

によって算出する。

算出された最終成績が60点以上で合格とする。

【学生へのメッセージ】

- ・やさしい基本的な問題を何回も正確に解くことが数学上達の早道です。
- ・講義や演習に関する質問は、放課後を利用して教員室または一般談話室まで訪ねてきてください。尚、担当の者だけでなく数学科全員で対応しておりますので気軽に声をかけてください。



【授業科目名】行列式と行列の応用  
Matrices and Determinants

【対象クラス】4年全学科

【科目区分】基礎科目・必修

(教育目標との対応: B-1)

(JABEE 基準との対応: c)

【授業形式・単位数】講義・1単位

【開講期間・時間数】後期・100分

【担当教員】

元田康夫(一般科)・五十川読(一般科)

濱田さやか(一般科)

(研究室) 一般棟 2F 元田教員室

E-mail: motoda@as.yatsushiro-nct.ac.jp

(研究室) 一般棟 2F 五十川教員室

E-mail: isogawa@as.yatsushiro-nct.ac.jp

(研究室) 一般棟 2F 濱田教員室

E-mail: hamada@as.yatsushiro-nct.ac.jp

【科目概要】

本科目は、行列式の計算、逆行列の求め方、連立1次方程式の解法、および行列の対角化について取り扱うものである。

数学IIにおける平面および空間のベクトル、数学IIIにおける行列と1次変換から継続するものであり、さらには専攻科の線形代数学への入門的な位置づけとなっている。

行列の理論は微分積分と並んで、理工系の数学の基礎として重要であり、コンピュータの利用にともない数値計算、線形計画などに応用されている。

【授業方針】

本講義では教科書を中心に進め、下記目標項目に関する解説と演習を行う。また適宜、授業内容を確認するための試験を実施する。

行列と行列式における基本的な知識の修得と簡単な計算ができるようになることを目標とする。

【達成目標】

1. 2次および3次の行列式の計算ができる。
2. 行列式の性質を利用して、文字を含んだ3次の行列式の因数分解ができる。
3. 行列式の展開を利用して、4次の行列式の計算ができる。
4. 余因子を用いて、3次正方行列の逆行列を求めることができる。
5. クラメル公式を用いて、係数行列が正則である3元3立1次方程式の解を求めることができる。
6. 掃き出し法を用いて、3元3立1次方程式を解くことができる。
7. 掃き出し法を用いて、3次正方行列の逆行列を求めることができる。

8. 3次正方行列の固有値を、固有方程式から求めることができる。

9. 3次正方行列の固有値に属する固有ベクトルを求めることができる。

10. 簡単な3次正方行列の固有値と固有ベクトルの作る行列を求めて、対角行列に変換することができる。

【教科書等】

教科書: 新編 高専の数学2(第2版)

田代嘉宏・難波完爾編 森北出版

参考書: わかりやすい線形代数

秋山献之他 学術図書出版

【授業スケジュール】

1. 行列式の定義
2. 行列式の性質
3. 行列式の性質
4. 行列式の展開と積
5. 逆行列と連立1次方程式
6. 逆行列と連立1次方程式
7. [中間試験]
8. 答案返却
9. 掃き出し法
10. 掃き出し法
11. 連立1次方程式/固有値と対角化
12. 固有値と対角化
13. 固有値と対角化
14. 対称行列と直交行列  
[前期末試験]
15. 答案返却

【関連科目】

本科2年 数学II(平面および空間のベクトル)

本科3年 数学III(行列と1次変換)

専攻科1年 線形代数学

【成績の評価方法と評価基準】

2回の定期試験と授業時に行う数回の確認のための試験の成績によって、目標項目の達成度を評価する。

最終成績は、2回の定期試験の成績(80%)と授業時に行う数回の確認のための試験の成績(20%)によって算出する。

算出された最終成績が60点以上で合格とする。

【学生へのメッセージ】

- ・やさしい基本的な問題を何回も正確に解くことが数学上達の早道です。
- ・講義や演習に関する質問は、放課後を利用して教員室または一般談話室まで訪ねてきてください。尚、担当の者だけでなく数学科全員で対応しておりますので気軽に声をかけてください。

【授業科目名】英語IV(aコース)  
English IV

【対象クラス】4年全学科

【科目区分】基礎科目・必修

(教育目標との対応: F-2, F-3, A-2)

(JABEE 基準との対応: f, b, a)

【授業形式・単位数】講義・2単位

【開講期間・時間数】通期・100分

【担当教員】長嶺 寿宣(一般科)

(研究室) 一般棟 3F 長嶺教員室

E-mail: nagamine@as.yatsushiro-nct.ac.jp

【科目概要】

英語IVでは、異文化を理解するための手段としての英語力を高めることを目的として、学生の英語に対する興味・関心と卒業後の進路等に応じて4コースが開講されている。

aコースでは、基礎・基本の体系的な復習を通して、エンジニアに要求される英語の基礎知識と基本的な4技能(speaking, listening, reading, writing)の強化を図る。5年次或いは卒業後の活動のための実践的な力を身につけるステップとなる科目である。

【授業方針】

授業は、教科書を用いた講義形式で進めていく。講義に加えて、3年次までに修得してきた英語の知識、及び4技能を実践的なコミュニケーション能力へと発展させていくため、音読練習を中心に語彙・構文・口語表現等のトレーニングを行う。また、随時、基本的な文法事項・語彙の小テストを実施し、TOEIC受験を視野に入れた問題演習も行う。長期休暇には課題を与え、課題への取り組みを確認する試験を課す。自発的な学習方法・習慣の確立を目指した指導も行う。

【達成目標】

1. 比較的平易な英文を速読し、大意を把握することができる。
2. 比較的平易な英文を精読し、内容を正確に理解することができる。
3. 内容を把握し、理解した英文についての英語の質問に、英語で的確に答えることができる。
4. 内容を理解した英文を、正確な発音、イントネーションで音読することができる。
5. 比較的平易な英語を聞いて、内容を的確に理解し、また書き取ることができる。

【教科書等】

教科書:

『英語長文速読&精読トレーナー:基礎編』

静哲人・高山芳樹 編著(東京書籍)

副教材:

『Starting out on the TOEIC Test Listening』 David

A. Trevil・久保陽(成美堂)

『Let's get started!』 金谷憲 監修(アルク)

参考書:

『大学生のための英文法』 豊永彰(南雲堂)

【授業スケジュール】

第1週: ガイダンス

第2週~8週: Lesson 1~3

[前期中間試験]

第9週~14週: 試験返却・解説

Lesson 4~7

[前期末試験]

第15週~23週: 試験返却・解説

Lesson 8~11

[後期中間試験]

第24週~29週: 試験返却・解説

Lesson 12~14

[学年末試験]

第30週: 試験返却・解説

講義総括

\*教科書以外の教材については別途指示する。

【関連科目】

本科目は英語I, II, III, 及び英会話での学習事項がベースになる。延長科目としての英語Vや専門英語、そして課題研究時の文献講読にも関連する科目である。

【成績の評価と評価基準】

- \* 目標項目1, 2, 3, 5は定期試験と小テストで確認する。
- \* 目標項目4は授業中の言語活動を10段階評価することによって確認する。
- \* 最終成績は定期試験を65%, 課題と小テスト、及び言語活動の評価を35%として算出し60点以上を合格とする。

【学生へのメッセージ】

- ・国際社会では、英語で読み書きができるだけでは通用しません。授業での音を介した言語活動に積極的に取り組み、運用能力の基盤を作ってください。
- ・講義への質問や要望はメールでも随時受け付けるので活用すること。来室の場合は、授業や会議のスケジュールを通知するので、確認すること。
- ・英語が苦手? 勉強の仕方が分からない?大丈夫です!いつからでもやり直せるのが語学学習です。学習法についても、ぜひ相談してください。

**【授業科目名】英語Ⅳ（bコース）**

English IV

**【対象クラス】**4年生全学科**【科目区分】**基礎科目・必修

（教育目標との対応：F-2, F-3, A-2）

（JABEE基準との対応：f, b, a）

**【授業形式・単位数】**講義・2単位**【開講期間・時間数】**通期・100分**【担当教員】**宇ノ木 寛文（一般科）

（研究室）一般棟 2F 宇ノ木教員室

E-mail: unoki@as.yatsushiro-nct.ac.jp

関 文雄（一般科）

（研究室）一般棟 3F 関教員室

E-mail: seki@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**【科目概要】**

英語Ⅳでは、異文化を理解するための手段としての英語力を高めることを目的として、学生の英語に対する興味・関心と卒業後の進路等に応じて4コースが開講されている。

bコースは、エンジニアに要求される英語の基礎・基本的能力のさらなる伸長を意図している。3年次までに開講された全ての英語系科目を通じて習得した総合的英語力に基づき、5年次或いは卒業後の活動のための実践的な力を身につけるステップとなる科目である。

**【授業方針】**

客観的な文章により構成されたテキストを用いて、文章読解力向上のための講読演習、及びコミュニケーション能力伸長のためのリスニング訓練を随時行う。また、専用教材を使い、TOEIC試験の導入及び試験形式や解法への習熟を図る。加えて、長期休暇中には課題を課し、自学の習慣を身につけることを奨励する。

**【達成目標】**

1. 日常的に使用されるレベルのあまり難解ではない文章を速読し、大意を把握することができる。
2. 日常的に使用されるレベルのあまり難解ではない文章を精読し、内容を正確に理解できる。
3. 辞書などを用いて、日常的に使用されるレベルの英語で自分の意思を表現できる。
4. 随時行う訓練を通じて聴解力を増強し、日常的に使われるレベルの英語を聞き、その概略が把握できる。また英文を書き取ることができる。
5. 毎回の問題演習により、TOEICの問題形式に慣れ、さらに解法の手がかりをつかむ。

**【教科書等】**

教科書：『Leading Companies in the 21st Century』

(Alan Cogen 他 松柏社)

『Score Goals in TOEIC Test 400』

(David Bramley 他 松柏社)

**『TOEIC Test Listening』**

(片野田浩子 他 南雲堂)

参考書：『デュアルスコープ総合英語』

(小寺茂明 数研出版)

**【授業スケジュール】**

第1週：ガイダンス

第2週～8週：

Lesson 1～3 及び前期中間試験

第9週～14週：

試験返却・解説, Lesson 4～6

[前期末試験]

第15週～23週：

試験返却・解説, Lesson 7～9

及び後期中間試験

第24週～29週：

試験返却・解説, Lesson 10～12

[学年末試験]

第30週：試験返却・解説, 講義総括

\*上記は『Leading Companies in the 21st Century』の予定である。他の教材については別途指示する。

**【関連科目】**

本科科目では、英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲ各コース、及び各学年での英会話で学習した事項がベースとなっている。

また、5年次の英語Ⅴや専門英語へとつながり、課題研究における文献講読とも関連している。

**【成績の評価方法と評価基準】**

- \* 1,2,3,4については、定期試験で確認する。
- \* 3については、随時課す提出課題でも評価する。
- \* 4については随時の活動の提出物でも確認する。
- \* 5については、随時この形式の小テストを行うとともに、定期試験の一部にこの形式の問題を出題し、確認する。
- \* 最終成績の算出方法は、4回の定期試験を平均(80%)と授業中及び随時課す課題の提出物と小テスト結果を(20%)とし、60点以上を合格とする。

**【学生へのメッセージ】**

- ・講義への質問や要望は、面会及びメールを問わず随時受け付けるので活用されたい。来室の場合は、授業や会議等の基本スケジュールを通知しておくので、あらかじめ確認すること。
- ・これまで学んだ事項を5年次或いは卒業後の活動につなげるためには、週1回の授業だけでは不足である。エンジニアに必要な英語力が伸ばせるよう、授業以外での日々の努力を期待する。

**【授業科目名】英語Ⅳ（cコース）**

English IV

**【対象クラス】**4年生全学科**【科目区分】**基礎科目・必修

（教育目標との対応：F-2, F-3, A-2）

（JABEE基準との対応：f, b, a）

**【授業形式・単位数】**講義・2単位**【開講期間・時間数】**通期・100分**【担当教員】**福井由美子（一般科）

（研究室）一般棟 3F 福井教員室

E-mail: fukui@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**【科目概要】**

英語Ⅳでは、異文化を理解するための手段としての英語力を高めることを目的として、学生の英語に対する興味・関心と卒業後の進路等に応じて4コースが開講されている。

cコースでは、卒業後の学習・研究に資する比較的高度な総合的英語力の養成を意図している。3年次までに開講された全ての英語系科目を通じて習得した総合的英語力に基づき、5年次或いは卒業後の活動のための実践的な力を身につけるステップとなる科目である。

**【授業方針】**

客観的な文章により構成されたテキストを用いて、専門的かつ高度な英語による文書の読解力向上を目的とした講読演習と、コミュニケーション能力伸長のためのリスニング訓練、及びスピーキング練習を毎回行う。

また、専用教材を用いて、毎時TOEIC形式の問題に取り組み、英語資格試験に対する実践力を高めることを目指す。さらに、定期的にTOEIC試験形式の演習問題を解き、英語学習の伸長の目安にする。加えて、長期休暇中には課題を課し、自学の習慣を身につけることを奨励する。

**【達成目標】**

1. 比較的高度な科学技術に関する英文を速読し、大意を把握することができる
2. 比較的高度な科学技術に関する英文を精読し、内容を正確に理解することができる
3. 的確な表現で自分の意思を英語で表現することができる
4. 日常会話で使われる程度の英語を聞き、その内容を的確に理解し、また書き取ることができる。
5. TOEIC試験特有の問題形式に習熟し、解法のヒントを習熟できる

**【教科書等】**

教科書：『What's Ahead』 南雲堂

副教材：『Navigator for the TOEIC Test』 南雲堂

参考書：『デュアルスコープ総合英語』 数研出版

**【授業スケジュール】**

1週 ガイダンス・TOEIC演習問題

2～6週 第1～5章

7週 前期中間のまとめ

8週 [中間試験]

9週 試験の返却と解説・TOEIC演習問題

10～13週 第6～10章

14週 前期末のまとめ

[前期末試験]

15週 試験の返却と解説・TOEIC演習問題

16～20週 第11～15章

21週 後期中間のまとめ

22週 [後期中間試験]

23週 試験の返却と解説・TOEIC演習問題

24～28週 第16～20章

29. 学年末のまとめ

[後期学年末試験]

30. 試験の返却と解説、及び講義のまとめ

\*上記は『What's Ahead』の章を示したものであり、他教材については、授業中に別途指示する。

**【関連科目】**

本科科目では、英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲ各コース、及び各学年での英会話で学習した事項がベースとなっている。

また、5年次の英語Ⅴや専門英語へとつながり、課題研究における文献講読とも関連している。

**【成績の評価方法と評価基準】**

- \* 1から5の目標項目について、定期試験で確認する
- \* 特に4については、毎時の活動（問題演習及び小テスト）によっても確認する
- \* 特に5については、年に4回、TOEIC形式の問題演習を行い、授業での習熟度合いをTOEICの問題形式によっても確認する。
- \* 最終成績の算出方法は、4回の定期試験の平均点(60%) + TOEIC形式の問題演習の平均(20%) + 提出物や課題の取り組みに対する評価(20%)とし、上記の式で算出した最終成績が60点以上で合格とする

**【学生へのメッセージ】**

- ・講義への質問や要望は、メールでも随時受け付けますので活用して下さい。来室の場合は、授業や会議、部活等の基本スケジュールを通知しておくので、あらかじめ確認しておいて下さい。
- ・低年次に学んだことを5年次、さらには卒業後の活動につなげるためには、週1回の授業だけでは足りません。エンジニアに必要な英語力が伸ばせるよう授業以外での日々の努力を期待しています。

【授業科目名】英語Ⅳ (dコース)

English IV

【対象クラス】4年生全学科

【科目区分】基礎科目・必修

(教育目標との対応: F-2, F-3, A-2)

(JABEE基準との対応: f, b, a)

【授業形式・単位数】講義・2単位

【開講期間・時間数】通期・100分

【担当教員】

Gail Braybrooks (一般科 一般棟 2F)

E-mail: gail@as.yatsushiro-nct.ac.jp

前山 桂子 (一般科 非常勤講師)

【科目概要】

English IV consists of 4 courses to meet students' various interests. This course is designed mainly to improve students speaking and listening ability.

【授業方針】

Students will have a well-rounded course of conversation practice, using pair work, small group activities, music, pronunciation challenges, and so on, to improve their speaking and listening abilities. Students will give presentations to the class two times during the year. In addition, the textbook will be used for about one-half of the time each session to promote speaking and listening skills with a view toward TOEIC preparation, including actual TOEIC listening test samples. As well, four intensive sessions to address preparation for all aspects of TOEIC tests will be held throughout the year.

【達成目標】

- Raise ability to understand what is heard to the level of low intermediate
- Improve spontaneous speaking skills to the level of low intermediate.
- Introduce the format of the TOEIC test so interested students can study on their own
- Giving presentations clearly and confidently

【教科書等】

教科書: 『Say It Aloud』 (Shoko Miura 他 三修)  
Teachers hand-outs

【授業スケジュール】

- Third-year spring break homework test; 4D course introduction and class policy; survey of students' goals in English
- Hand back homework tests for correction;

discussion topic: using computers; TOEIC course introduction

- Discussion topic: childhood games and activities; "Self" concept activities; text Unit One
- Discussion topic: dating in Japan; Sing Avril LaVigne; "Some very useful words" pairwork; TOEIC Unit Two
- "I'm going to Hawaii..." game; pronunciation challenge 'SI/SHEE'; intensive TOEIC reading lesson
- "Keep talking" game; using fillers in conversation; midterm test preparation
- First midterm test
- Hand back tests; Pronunciation challenge 'R/L'; Sing "Love Letter"; Pronunciation listening quiz; TOEIC Unit Three
- "Are humans smart?" alien conversation; TOEIC Unit Four
- "Murder at Three Oaks" pair work mystery; TOEIC Unit Five
- Discussion topic: summer plans; interview partner and plan report based on it; TOEIC Unit Five
- Discussion topic: what you did during summer vacation; pronunciation challenge: 'HOO/WOO'; prepare for "Alibi" game for next week; intensive TOEIC reading lesson
- Play "Alibi"; hand in interview reports; TOEIC Unit Six
- Hand back interview reports for correction; semester test review

First semester test

- Hand back tests; Present corrected interview reports to the class
- Pronunciation challenge 'R/L' again; "Keep talking for two minutes" game; articles use rules; "Janni and Dave" articles practice; TOEIC Unit Seven
- "Eminem" articles practice (A-class version and B-class version); Sing Usher's "My Confessions Two"; hip hop dictionary; TOEIC Unit Eight
- Reported speech: "My friend told me..." lesson; A-class and B-class help each other do their own version of the "Eminem" lesson; assign "A conversation I had" report; marking articles rule use and underlining "say" and "tell" verbs; whole-class intensive TOEIC reading lesson
- "Johnny Depp" listening for articles lesson; fill-in-the-blank with 'a/an' or /the' "Ghost Story";

TOEIC Unit Nine

- Hand in reports; discussion topic: movies you love; Pronunciation challenge: vowels; "The year 2020" articles/generalizations lesson; TOEIC Unit Ten
- Hand back reports for correction; sing John Lesson Christmas song; midterm test review
- Second midterm test
- Hand back tests; present reports to the class
- "The future is now" pair work on bioengineering topics; TOEIC Unit Eleven
- "What do you want to do tonight?" video: making and commenting on suggestions; assign report: "Planning something with a friend"; TOEIC Unit Twelve
- "She's real eye candy": American slang; pronunciation challenge: vowels again; TOEIC Unit Thirteen
- "Gotta go": how to start/how to end conversations; "Keep talking for three minutes" game; TOEIC Unit Fourteen
- "You've got to be kidding!": agreeing and disagreeing; hand in report; TOEIC Unit Fourteen
- Practice interview test; intensive TOEIC reading lesson
- Final exam
- Hand back tests and reports; music and pronunciation lesson; practice TOEIC test

【関連科目】

The other English classes and Japanese writing class

【成績の評価方法と評価基準】

The four main exams of the school year will alternate between written exams and listening exams (80%), with the final exam having an interview component (20%).

【学生へのメッセージ】

Students are encouraged to study other lessons in their TOEIC text on their own. The teachers will be available to help with that and any other extra endeavors relating to this class. The best time to talk with the teachers is in the afternoon on the day of the class, between 13:00 and 18:00. Finally, the teachers hope students will come to this class with a real openness to the enjoyment of communicating in English; that is all you need to bring with you.

**【授業科目名】近代と文学**

Modern Ages and Literature

**【対象クラス】**4年全学科**【科目区分】**応用科目・選択

(教育目標との対応：A-1)

(JABEE 基準との対応：a, b)

**【授業形式・単位数】**講義・1単位**【開講期間・時間数】**前期, 後期・100分**【担当教員】**道園達也 (一般科)

(研究室) 一般棟3F 道園教員室

E-mail: mitizono@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**【科目概要】**

近代の表現形式として展開してきた小説は、この世界や人間の多様性を表現する試みである。小説に関わる多様性は①作者、②作品、③読者の3点に見ることができる。①作者は多様な経験と思考の持ち主として独自の視点で小説を書いている、したがって②作品には多様な題材が独自の視点で取り上げられる、そして③読者はそれぞれの視点で作品を読む。

本講義は小説に関わる多様性を捉えることを目的とする。

**【授業方針】**

本講義はテキストを用いて、中島敦「文字禍」、梶井基次郎「檸檬」、夏目漱石「草枕」、谷崎潤一郎「春琴抄」の4作品を取り上げ、①作者の略歴、②作品の内容、③読者の読みの3点に着目して、小説に関わる多様性を捉えることを目的として行う。②に関して理解を促すための資料を配付する。③に関しては授業時に紹介文や絵コンテの作成し、その相互評価を行う。

**【達成目標】**

1. 小説に関わる多様性を捉えることができる。
2. 中島敦、梶井基次郎、夏目漱石、谷崎潤一郎の略歴を説明できる。
3. 中島敦「文字禍」、梶井基次郎「檸檬」、夏目漱石「草枕」、谷崎潤一郎「春琴抄」の各作品の内容の文学的特質を指摘できる。
4. 中島敦「文字禍」、梶井基次郎「檸檬」、夏目漱石「草枕」、谷崎潤一郎「春琴抄」について、紹介文や絵コンテを作成し、自分の読みを表現することができる。
5. 紹介文や絵コンテを相互評価し、その評価理由を説明することを通して、読みの多様性を捉えることができる。

**【教科書等】**

教科書：「日本の近代小説」(改訂版) 熊本近代文学研究会編 協和書房

参考書：「日本の小説101」安藤宏編 新書館

**【授業スケジュール】****1. 授業概要**

1. 中島敦「文字禍」(1) 初読の感想
2. 中島敦「文字禍」(2) 内容理解
3. 中島敦「文字禍」(3) 紹介文の作成
4. 中島敦「文字禍」(4) 紹介文の相互評価
5. 梶井基次郎「檸檬」(1) 内容理解
6. 梶井基次郎「檸檬」(2) 紹介文の作成
7. 梶井基次郎「檸檬」(3) 紹介文の相互評価
8. [中間試験]
9. 中間試験の返却と解説  
夏目漱石「草枕」(1) 内容理解
10. 夏目漱石「草枕」(2) 絵コンテの作成
11. 夏目漱石「草枕」(3) 絵コンテの相互評価
12. 谷崎潤一郎「春琴抄」(1) 内容理解
13. 谷崎潤一郎「春琴抄」(2) 絵コンテの作成
14. 谷崎潤一郎「春琴抄」(3) 絵コンテの相互評価  
[前期末試験]
15. 期末試験の返却と解説

**【関連科目】**

- 1年：国語Ⅰ (必修・通年・基礎科目)
- 2年：国語Ⅱ (必修・通年・基礎科目)
- 3年：国語Ⅲ (必修・通年・基礎科目)
- 4年：国語表現 (選択・前期、後期・応用科目)
- 5年：古典文学 (選択・前期、後期・応用科目)  
日本現代文学 (選択・前期、後期・応用科目)

**【成績の評価方法と評価基準】**

評価は以下の観点で行う。

1. 中間・期末の定期試験 (60%)  
【達成目標】1, 2, 3, 5に対応
2. 課題 (30%) ※授業時に実施  
【達成目標】4, 5に対応
3. レポート (10%)  
【達成目標】4に対応

**【学生へのメッセージ】**

まず小説の本文を丁寧に読むことを心がけてください。丁寧に読むというのは、分からない言葉は調べて、その内容を自分で説明できるようになるまで繰り返し読むということです。

授業時に行う課題には、しっかりと取り組んでください。またレポートはちゃんと評価しますので、期限を守って確実に提出するようにしてください。

試験は授業時を中心に普段から継続的に取り組んで受けてください。

質問は随時受け付けます。スケジュールを確認して来室して下さい。

**【授業科目名】国語表現**

Expression in Japanese

**【対象クラス】**4年全学科**【科目区分】**基礎応用科目・選択

(教育目標との対応：A1・F1)

(JABEE 基準との対応：a, b・f)

**【授業形式・単位数】**講義・1単位**【開講期間・時間数】**前期, 後期・100分**【担当教員】**村田秀明 (一般科)

(研究室) 一般棟 3F 村田教員室

E-mail: murata@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**【科目概要】**

情報化時代であると共にコミュニケーションの時代である現代において自分の考えを、話し言葉でも書き言葉でも「正しく」「わかりやすく」「感じよく」伝え合う表現法について、基本的な知識・能力を高め確かな力を育てる。

**【授業方針】**

まず、自己表現の基本となる日本語運用能力の7分野「文字・語句の使い方」「言葉のきまり」「敬意の表し方」「話すこと」「聞くこと」「書くこと」「読むこと」の基本的な知識と能力を確かなものとする。

言葉への関心を持たせ、表現への抵抗をなくし表現の基礎をおさえ、情報社会において必要な文章作成の基本技法(「伝え合う」ための基本技法)を身につけ、自分の考えを的確に説得力をもって述べる方法を学ぶ。

**【達成目標】**

1. 表現の基本(「表記」「明快な表現」「敬語表現」「文章の書き方の基本」「文章を書く手順」)を理解し身につける。
2. 段落やトピックセンテンスの働きを把握した上で、文章を的確に要約し、データを正確に読みとることができる。
3. 伝え合う(説明・報告・紹介・伝達する)ための形式や方法を理解し身につける。
4. 説得力のある意見の文章化の土台となる表現力を身につける。

**【教科書等】**

教科書：配布プリント

参考書：『国語表現ハンドブック』(明治書院)

『国語表現活動マニュアル』(明治書院)

**【授業スケジュール】**

1. 日本語運用能力診断
2. 表現の基礎「悪文を」書かないために(1)
3. 表現の基礎「悪文を」書かないために(2)
4. 敬語表現
5. 文章の書き方の基本(1)
6. 文章の書き方の基本(2)
7. 文章を書く手順
8. [中間試験]
9. 要約の方法
10. データを読みとる
11. 説明
12. 報告・紹介
13. 伝達
14. 意見  
[前期末試験]

**【関連科目】**

- 「国語Ⅰ」(1年必修)
- 「国語Ⅱ」(2年必修)
- 「国語Ⅲ」(3年必修)
- 「近代と文学」(4年選択)
- 「日本現代文学」(5年選択)
- 「古典文学」(5年選択)

**【成績の評価方法と評価基準】**

- \*1から4の目標項目については、定期試験で確認する。
- \*2から4の目標項目については、課題レポートで確認する。
- \*成績の算出方法は、2回の定期試験の平均点(80%) + レポート点(20%)とする。
- \*上記の方法で算出した成績が60点以上で合格とする。

**【学生へのメッセージ】**

まず、自己表現の基本となる日本語運用能力の自己の能力を確かめること。そして、情報社会において必要な文章作成の基本技法(「伝え合う」ための基本技法)を身につけ、自分の考えを的確に説得力をもって述べる方法を身につけることができるように、受け身にならず、自らすすんで積極的にアプローチし、自分の日本語表現能力を補強を行って欲しい。

質問は随時受け付けます。スケジュールを確認して来室して下さい。

【授業科目名】法学 Jurisprudence

【対象クラス】4年全学科

【科目区分】応用科目・選択

(教育目標との対応：A-1, D-2)

(JABEE 基準との対応：a, b, d2-d)

【授業形式・単位数】講義・1単位

【開講期間・時間数】前期、後期・100分

【担当教員】小林 幸人 (一般科)

(研究室) 一般棟 1F 小林教員室

E-mail: kobayasi@as.yatsushiro-nct.ac.jp

#### 【科目概要】

現代は法秩序によって成り立っている社会です。本講義では、基本的な法知識を身につけるために、特に民法を中心に学びます。

民法は市民社会における全ての関係を権利と義務という概念で捉える法の世界です。それは契約関係、所有関係、侵害関係から構成されますが、ここでは契約関係からどのような権利・義務が発生するか、ある人が義務を怠った場合に権利者にはどのような救済があるのか、物に対する権利とはどのようなものか、権利が侵害された場合にはどのような救済があるのか、などについて概観します。

#### 【授業方針】

実際に『六法全書』の条文を読みながら、契約法、所有権法、不法行為法について、基礎理論、基本原理に焦点をあてた講義を行ないます。また重要な判例をベースに作成した設例を取り上げることで、法的思考力が涵養できるように工夫をしています。

#### 【達成目標】

1. 売買契約により成立する人と人との関係＝債権、人と物との関係＝物権について、基礎知識、基本原則が理解できる。
2. 債務不履行による損害賠償について、基本ルールが理解できる。
3. 不法行為と損害賠償について、基本ルールが理解できる。
4. 契約責任と不法行為責任について、法的構成の相違について理解できる。

#### 【教科書等】

教科書：池田真朗他『法の世界へ(第3版)』(有斐閣、2004年)、『ディリー六法 2004』(三省堂、2004年)

参考書：内田 貴『民法I(総論・物権総論)』、同『民法II(債権各論)』、同『民法III(債権総論・担保物権)』(東京大学出版会、1994-97年)

#### 【授業スケジュール】

1. 法とは何か。近代社会と民法
2. (売買)契約とは何か
3. 契約による不動産の物権変動
4. 不動産登記制度
5. 不動産物権変動における対抗要件主義
6. 契約による動産物権変動の対抗要件
7. 公信の原則
8. [中間試験]
9. 中間試験の返却と解説  
債務不履行とは何か
10. 債務不履行による損害賠償
11. 不法行為とは何か
12. 一般不法行為の要件
13. 不法行為と損害賠償
14. 使用者責任、製造物責任  
[前期末試験]
15. 期末試験の返却と解説

#### 【関連科目】

本科1,2年「政治・経済」

専攻科1年「技術倫理」、専攻科2年「生産と法」

#### 【成績の評価方法と評価基準】

成績評価は2回の試験で行います。それぞれの試験について60点以上を合格とし、最終成績は2回の試験の平均点とします。

また、合格に満たない場合、再試験を行います。

#### 【学生へのメッセージ】

基本的な法知識を身につけた上で、具体的な事例に関する法的な解釈を行う必要がありますので、積極的に考えるということを心がけてください。

質問・要望等については随時受け付けます。スケジュールを確認して来室してください。また、授業の際に配布する質問用紙を積極的に利用してください。メールでの質問等についても受け付けます。

授業に関する情報発信を下記アドレスで行いますので、参考にしてください。

<http://s-pagein.st.yatsushiro-nct.ac.jp/~kobayasi/>

【授業科目名】経済学 Economics

【対象クラス】4年全学科

【科目区分】応用科目・選択

(教育目標との対応：A-1)

(JABEE 基準との対応：a, b)

【授業形式・単位数】講義・1単位

【開講期間・時間数】前期・後期・100分

【担当教官】時松雅史(一般科)

(研究室) 一般棟 1F 時松研究室

E-mail: tokimatu@as.yatsushiro-nct.ac.jp

#### 【科目概要】

21世紀に入り世界はますます資本主義(市場経済)の経済システムが基本になりつつある。本講義では資本主義経済(市場経済)に現れる商品、貨幣、資本などの基本的な用語を理解することを目標とする。更に株式市場や先物市場の仕組みを学び、金利計算などにより経済感覚を養う。

#### 【授業方針】

授業中に配布するプリントを元に講義の内容について出来るだけわかりやすく、具体的に解説する。更に理解を深めるためにビデオなどの視聴覚教材も使用する。そして学生が質問や意見を述べやすいように質問や意見の時間を設定する。

#### 【達成目標】

1. 経済学とは何かを学ぶとともに、マルクスやケインズなど様々な経済学説について、大枠を掴むことができる。
2. 日常使っている経済用語としての商品、貨幣、資本について、もう一度経済学としての専門用語として理解し、説明できる。
3. 資本主義における基本的な諸法則、例えば資本の増加について価値法則の理論から理解できる。
4. 株式市場を体験させるために机上で株式の取引を行ない、この銘柄でなく全体の株価の動向を掴むことができる。
5. 単純なローン計算などの金利計算ができる。

#### 【教科書等】

教科書：特に指定なし。貨幣、株式、金利に関するプリントを配布する。

参考書：『経済原論』日高晋 有斐閣

#### 【授業スケジュール】

1. 経済学とは何か。
2. 経済学の学説と歴史
3. 流通論・商品
4. 流通論・貨幣の発生について
5. 貨幣の機能について(1)
6. 貨幣の機能について(2)
7. 流通論・資本
8. [中間試験]
9. 流通論・資本
10. 株式市場と現代経済(1)
11. 株式市場と現代経済(2)
12. 先物取引のしくみと役割(1)
13. 先物取引のしくみと役割(2)
14. ローン計算について及び単利計算と複利計算  
(前期末試験・学年末試験)
15. 試験返却及びまとめ

#### 【関連科目】

政治・経済I、政治・経済II

#### 【成績評価】

1～5の項目について、定期試験(2回)を基に評価する。成績は2回のテストの平均とする。

#### 【学生へのメッセージ】

授業は解説をよく聞いて、ノートをしっかりまとめていくこと。そして疑問点があれば出来るだけその場で質問をしてほしい。本講義は理論だけではなく将来の生活にも役に立つ話も盛り込んでいるので積極的な授業参加を期待している。

尚、講義への質問、要望はメールでも随時受け付けるので活用してほしい。

**【授業科目名】現代社会論Ⅰ**

Social Theory Ⅰ

**【対象クラス】**4年全学科**【科目区分】**応用科目・選択

(教育目標との対応：A-1, A-2, D-1, G-1)

(JABEE 基準との対応：a,b,g)

**【授業形式・単位数】**講義・2単位**【開講期間・時間数】**通期・100分**【担当教員】**小林 幸人 (一般科)

(研究室) 一般棟 1F 小林教員室

E-mail: kobayasi@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**【科目概要】**

科学技術は、社会の課題を解決するために発展し、同時に様々な新たな課題を私たちに突きつけます。この科目では、現代社会がどのような問題を抱えているのかを概観し、また同時にこれからの科学技術者として社会とどのように関わっていくのかについて考察することを目的としています。現代日本の課題、世界と日本との関わり、そして科学技術と社会との関わりなどが主なテーマです。様々な問題を広い視野から考えていきたいと思っています。

**【授業方針】**

いくつかのテーマに従って、基本的には講義形式で授業を行います。ただし、問題を自ら考えるための訓練として、グループ討論なども予定しています。

**【達成目標】**

1. 各テーマで取り上げる問題について、論点を理解する。
2. 自分の問題関心に基づいて、情報を収集・整理する事が出来る。
3. 学習成果について口頭または文章で論理的に説明することが出来る。
4. 自分の問題関心に沿ってテーマを設定し、広い視野から問題を理解し、自分の考えを述べる事が出来る。

**【教科書等】**

教科書：特に指定しません

参考書：「技術者入門」松島他著 学術図書出版社

「社会哲学を学ぶ人のために」

加茂直樹編 世界思想社

「応用倫理学のすすめⅠ・Ⅱ・Ⅲ」

加藤尚武 丸善ライブラリー

その他、適宜授業中に紹介します。

**【授業スケジュール】**

1. 家族の変化とこれからの日本
2. 少子化の現状と問題

3. 高齢化の現状と問題
4. 未婚化・晩婚化と現代の家族
5. 日本の福祉と世界の福祉
6. 男女共同参画社会とは？：世界の現状
7. 高齢者の社会参加：福祉先進国の試み
8. 〔中間試験〕
9. 試験の返却と解説
10. 情報化の現状と展望：ユビキタス・ネットワーク
11. 電子政府・電子自治体
12. プライバシーと個人情報保護
13. 情報化と世界のボーダレス化
14. 情報化社会の諸問題  
〔前期末試験〕
15. 試験の返却と解説
16. 公共事業の諸問題(1)：公共事業と環境破壊
17. 公共事業の諸問題(2)：公共事業と政・財・官
18. 公共事業と市民運動
19. 公と私：公共性の創出と技術者の役割
20. 国際化社会と日本：ボーダレス社会
21. 世界の中の日本：多民族・多文化社会
22. 〔中間試験〕
23. 科学技術と現代社会：テクノロジー依存社会
24. 科学技術のもたらした問題
25. リスクとは？
26. 科学技術とリスク
27. リスク・マネジメントと科学技術者の役割
28. 科学技術と公共性
29. 総括：現代社会を考える  
〔後期学年末試験〕
30. 試験の返却と解説

**【関連科目】**

本科1・2年地理・歴史、政治経済、3年倫理・社会、5年哲学、現代社会論Ⅱ、東アジアの中の日本  
専攻科1年技術倫理、2年生産と法

**【成績の評価方法と評価基準】**

成績は4回の試験で評価します。最終的には、4回の試験の平均60点以上を合格とし、成績不振者に対しては、再試験を行います。

**【学生へのメッセージ】**

私たちが生活する現代社会を問題にしていますので、自ら積極的に考える態度を期待します。

質問・要望等については随時対応します。スケジュールを確認して来室してください。また、授業の際に配布する質問用紙を積極的に利用してください。メールでの質問も受け付けますので、活用してください。授業に関する情報を以下のアドレスで発信します。

<http://s-pagein.st.yatsushiro-nct.ac.jp/~kobayasi/>

**【授業科目名】スポーツ科学（ゴルフコース）**

Sports Science

**【対象クラス】**4年生全学科**【科目区分】**応用科目・選択

(教育目標との対応：G-2)

(JABEE 基準との対応：e, g, h)

**【授業形式・単位数】**講義及び実技・2単位**【開講期間・時間数】**通期・100分**【担当教員】**宅島 章 (一般科)

(研究室) 一般棟 1F 宅島教員室

E-mail: takusima@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**【科目概要】**

ゴルフ競技を科学するという観点から授業を展開する。そのため、市販ビデオ教材及びビデオカメラによりアドレスからフィニッシュまでのスイングを撮影し、自己フォームを運動力学及び方法学的見地よりチェックし、体力・体型に応じた正しいゴルフ理論を習得する。

**【授業方針】**

安全に各技術を分析し、運動力学やスポーツ心理学、運動方法学からゴルフを科学することができるようにする。

また、実戦コースにてプレーできるようゴルフのルールやエチケットについて理解させる。

時間厳守・道具や施設の維持管理を励行することを強く望む。

**【達成目標】**

1. 打球のミートが確実にできる。
2. 打球方向性を高めることができる。
3. クラブの選択が用途によって適確に判断できる。
4. 各種技術の向上と研究に取り組むことができる。
5. 競技規則が理解できる。
6. マナー・エチケットを実践できる。

**【教科書等】**

教科書・参考書：必要に応じ紹介をする。まは、資料を配布する。

**【授業スケジュール】**

1. 年間授業計画と授業展開について説明及び約束
2. 用具の用途、エチケット・マナーについて
3. 3週から6週は、サンドウエッジかピッチングウエッジを用いてグリップ・スタンス・アドレス・重心移動・スイング軌道等を学習する。  
なお、雨天時は屋内にて規則等の講義やビデオ教材によるフォームの研究を行う。
7. 実技評価
8. 〔中間試験〕
9. 9週から13週は、ミドルアイアンを用いて打球の方向性と距離感を重視する打法の確立をめざす授業展開を行う。
14. 〔前期末試験〕
15. 実技試験
16. 16週から20週は、ウッドを用いて、距離を稼ぐ打法を学習する。
21. 21週から29週までは、これまでに学習したアイアン、ミドルアイアン、ウッド等についてコースを想定した課題をグループ学習する。  
〔学年末試験：実技及び理論の試験〕
30. まとめ

**【関連科目】**

健康科学

**【成績の評価方法と評価基準】**

年4回の定期試験(50%)実技試験(50%)とし、この2つを総合して評価する。  
ただし、規定以上の出席を確保した者を対象とする。

**【学生へのメッセージ】**

ゴルフは、紳士・淑女の伝統スポーツである。よって、服装・身なりをはじめ社会に通じるエチケットやマナーが重要視される。体育の授業ではあるが、ゴルフ競技を実践教育の場と理解し、授業に参加して欲しい。また、質問及び技術指導等については、授業中は勿論、他の時間帯でも受け付けるので、積極的に参加して欲しい。

【授業科目名】スポーツ科学（野外活動コース）

Sport Science

【対象クラス】4年生全学科

【科目区分】応用科目・選択

（教育目標との対応：G-2）

（JABEE 基準との対応：e, g, h）

【授業形式・単位数】講義及び実技・2単位

【開講期間・時間数】通期・100分

【担当教官】四宮一郎（一般科）

（研究室）一般棟 1F 四宮教員室

E-mail: sinomiya@as.yatsushiro-nct.ac.jp

【科目概要】

自然の中でさまざまな活動を行うことを野外活動と呼んでいる。自然の中で活動を行うためには、知識と技術が必要である。本授業では野外活動の基礎知識に加え、ニュースポーツ種目や科学的講義を取り入れ、本校独自の野外活動として展開する。

【授業方針】

1. 野外活動を体験することにより、自然の大切さを知り、自然環境保護の必要性を認識する。
2. 規律や規則の大切さを知り、個人と集団との関りについて再認識し、良好な人間関係を育てる。
3. 余暇の必要性和価値について理解し、生涯スポーツとして実践していくことのできる能力と態度を育てる。
4. 100分の内、前半に講義を行い後半に実技を行う。

【達成目標】

1. 野外活動におけるルールやマナーを身につけることができる。
2. 野外活動における基礎知識を身につけることができる。
3. 野外活動の技能の向上と各種野外活動の計画立案と運営ができる（生涯スポーツにつながるように）。
4. 社会的態度（規則を守る・責任感・協調性・安全性）を育成することができる。

【教科書等】

参考書：「野外活動 その考え方と実際」

日本野外教育研究会 杏林書院

「野外活動テキスト」

日本野外教育研究会 杏林書院

その他、適宜資料を配布する。

【授業スケジュール】

1. 野外活動についてのオリエンテーション他
2. 野外活動の定義、用語
3. 野外活動の分類
4. 野外活動の意義と必要性
5. 野外活動と野外教育
6. 野外活動と健康
7. 野外活動のマネジメント
8. 〔中間試験〕
9. 前期中間試験の返却と解説

10. 野外活動の計画と運営

11. 野外活動の安全対策

12. 野外教育における環境配慮

13. 山陸型野外活動（キャンプ）

14. ロープワークの必要性と基本原則

〔前期末試験〕

15. 前期末試験の返却と解説

16. 読図とコンパスワーク

17. 山陸型野外活動（登山）

18. 冬季野外活動

19. 水辺型野外活動

20. 空域型野外活動

21. 野外ゲームII

22. 〔後期中間試験〕

23. 後期中間試験の返却と解説

24. 野外活動に必要な体力とは

25. からだが動き続けるメカニズム

26. 長時間の運動と短時間のきつい運動の違い

27. 疲労の科学

28. グリコーゲンと脂肪の関係、水分不足の怖さ

29. 歩きの必要性、歩き方を科学する

〔後期学年末試験〕

30. 後期学年末試験の返却と解説

〔実技〕

1～4. ベタンのルール及びゲーム

5～7. 野外ゲームI（出会い・自己解放のゲーム）

8. 前期中間試験

9. 野外炊事実施上の留意点、飯盒炊さんの仕方

10～11. 野外活動（キャンプ）の計画、救急法

12～13. テント設営と撤収法

14～15. ロープワーク技術

16～17. 地図の見方及びコンパスワーク

18～20. ネイチャークラフト

20～21. フライングディスクを用いたゲーム

22. 後期中間試験

23～25. フライングディスクを用いたゲームII

26～27. 縄跳び（長縄、短縄、ダブルダッチ）

28～30. ウォーキング実践

【関連科目】

5年 健康科学

【成績の評価方法と評価基準】

\*4回の定期試験及びレポートを総合して評価する。

\*定期試験の平均点〔90%〕+レポート〔10%〕

【学生へのメッセージ】

自然の中で活動する喜びを感じ、自然の大切さと自然保護の必要性について学んでほしい。また、本授業ではニュースポーツも取り入れているので、生涯スポーツとして今後も楽しんでもらいたい。さらに、本授業を通して仲間との良好な人間関係を築いてほしい。質問は随時受け付けます。スケジュールを確認して来室して下さい。

【授業科目名】スポーツ科学

（ラケットゲームコース）

Sports Science

【対象クラス】4年生全学科

【科目区分】応用科目・選択

（教育目標との対応：G-2）

（JABEE 基準との対応：e, g, h）

【授業形式・単位数】講義及び実技・2単位

【開講期間・時間数】通期・100分

【担当教官】笹本勝義（一般科非常勤講師）

【科目概要】

1. ネットをはさんでボール（シャトルコック）を打ち合い、勝敗を争うスポーツである。
2. さまざまな動きが組み合わされている全身運動なので、総合的な体力や運動能力を養うことができる。
3. ダブルスはパートナーと協力する楽しさがある。
4. 年齢、性別、体格などに応じ、老若男女が楽しめるので、生涯スポーツとして最適である。

【授業方針】

1. 競技力を構成するものとして、「技術」「体力」「精神力」があり、これがこの競技の競技力を向上させる要素といえる。そこで技能の最大のねらいは、シャトル（ボール）を打つ動作を習得し、攻め方、守り方等複雑な戦法を科学的、総合的に技能の向上をはかり、それらをダブルスやシングルのゲームでプレーできるようにすることである。
2. ゲームに参加する態度、意欲、関心、そして個人はもちろん集団として健康や安全への態度を養う。
3. 必要なルールを学び、試合の管理・運営・審判ができる能力とゲームを楽しむ心の豊かさを養う。

【達成目標】

1. 技能の向上と各種大会の計画立案と運営ができる能力を養う。（生涯スポーツにつながるよう）
2. 審判法を理解し、実践できる。
3. 社会的態度を身につける。（規則を守る、責任感、協調性、安全性等）

【教科書等】

適宜資料を配布する。

【授業スケジュール】

1. テニスのオリエンテーション及び基本練習
2. ストローク、ボレー、フットワークの基本練習
3. ボール慣れ、ストローク、サービス
4. バックハンドストローク、ロブバック、ボレー
5. スマッシュ、複合練習、簡易ゲーム
6. 試合について講義、簡易ゲーム、技能の評価
7. 試合（団体戦）ダブルス・シングルス

8. 試合（団体戦）ダブルス・シングルス

9. 競技会 個人戦シングルス

10. 競技会 個人戦ダブルス

11. 予備の試合（雨天）、技能の評価、アンケート

12. 予備の試合（雨天）

13. バドミントンのガイダンス、慣れの練習

14. 基礎技術の説明とフライトの練習

15. フライトの練習とサービスとフットワークの基本

16. 前回までの復習

17. 班編成、班別ノック式練習、試合のビデオ見学

18. 総合練習と簡易ゲーム（半面）、技能の評価

19. 講義（バドミントンの科学的練習とは）他

20. シングルの試合（団体戦）

21. 個人戦（シングルス） ランク別（ABC）

22. 個人戦（シングルス） ランク別（ABC）

23. ダブルスの基本（フットワーク、サービス）

24. 班別練習、試合と審判法、スキルテスト

25. ダブルスの総合練習、ダブルスの簡易ゲーム

26. 班分け 団体戦（ダブルス） 技能の評価

27. 個人戦（ダブルス）

28. 競技会 団体戦（ダブルス2・シングルス3）

29. 競技会 団体戦（ダブルス2・シングルス3）

30. 総合的競技会の運営と実施方法 アンケート

下記の項目を各週の実技と併行して講義を実施する。

1. 心拍数からみた競技の特性
2. バドミントン競技の動きと筋肉
3. スタミナ向上には（ATと最大酸素摂取量）
4. 競技の身体移動とスピード
5. 試合で勝つ要因、負ける要因
6. トレーニングの一般原則
7. ラケットの使い方（内転・外転）
8. 食事からのアプローチ

【関連科目】

5年健康科学

【成績評価】

4回の定期試験及び技術の習熟度を総合して評価する。なお、定期試験と実技試験の割合はそれぞれ50%とし、総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

目標が何かを認識し実行することが授業です。そこで「考え」「気づき」そして「実行」できる体育の授業にしよう。

質問については、来校している際に随時受け付けるので、その機会を活用されたい。

**【授業科目名】日本現代文学**

Modern literature

**【対象クラス】**5年全学科**【科目区分】**応用科目・選択(教育目標との対応:A-1)  
(JABEE 基準との対応:a, b)**【授業形式・単位数】**講義・1単位**【開講期間・時間数】**前期,後期・100分**【担当教員】**道園達也(一般科)

(研究室) 一般棟3F 道園教員室

E-mail: mitizono@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**【科目概要】**

私たちの身近には様々な出来事が起こる。その受け止め方は人によって違っている。ある出来事が〈私〉には軽いことであっても〈あなた〉には重いことであったり、その逆の場合もある。その判断は普段意識することは少ないが、軽重以外にも様々な基準で生じている。

そういう出来事に対する判断の多様性を、主に文学者の小説や評論を通して捉えることを本講義の目的とする。

**【授業方針】**

本講義は①芥川龍之介「藪の中」における事件の捉え方の問題、②上海事変に対する文学者の観点、③帝銀事件に対する文学者の観点、④光クラブ事件を題材とする三島由紀夫『青の時代』の観点、及び『青の時代』に対する価値判断、以上4点に関して、その多様な在り方を捉えることを目的として、小説や評論等の本文・事件の概要等を資料配付して行う。また授業時には理解・考察を促すための、小説や評論等に関する課題を出す。

**【達成目標】**

1. 主に文学者の小説や評論を通して、出来事に対する判断の多様性を捉えることができる。
2. 芥川龍之介「藪の中」における事件の捉え方の文学的特質を指摘できる。
3. 上海事変、帝銀事件、光クラブ事件の大まかな概要を説明できる。
4. 上海事変、帝銀事件、光クラブ事件に対する各文学者の観点的文学的特質を指摘し、その多様性を捉えることができる。
5. 文学作品に対する価値判断の多様性を捉えることができる。

**【教科書等】**

教科書: 配付資料

参考書: 「日本の小説101」安藤宏編 新書館

その他授業時に紹介

**【授業スケジュール】**

1. 講義概要の解説  
事件の真相(1) 芥川龍之介「藪の中」①
2. 事件の真相(2) 芥川龍之介「藪の中」②
3. 事件の真相(3) 黒澤明『羅生門』
4. 上海事変(1) 事件の概要
5. 上海事変(2) 従軍作家たちの報告①
6. 上海事変(3) 従軍作家たちの報告②
7. 上海事変(4) 夏衍『自伝』
8. 〔中間試験〕
9. 中間試験の返却と解説  
帝銀事件(1) 事件の概要
10. 帝銀事件(2) 坂口安吾「帝銀事件を論ず」
11. 帝銀事件(3) 武田泰淳「無感覚なボタン」
12. 光クラブ事件(1) 事件の概要
13. 光クラブ事件(2) 三島由紀夫『青の時代』
14. 事件と文学 三島由紀夫『青の時代』の評価  
〔期末試験〕
15. 期末試験の返却と解説

**【関連科目】**

- 1年: 国語I(必修・通年・基礎科目)  
2年: 国語II(必修・通年・基礎科目)  
3年: 国語III(必修・通年・基礎科目)  
4年: 近代と文学(選択・前期,後期・応用科目)  
国語表現(選択・前期,後期・応用科目)  
5年: 古典文学(選択・前期,後期・応用科目)

**【成績の評価方法と評価基準】**

評価は以下の観点で行う。

1. 中間・期末の定期試験(60%)  
【達成目標】1~5に対応
2. 課題(30%)※授業時に実施  
【達成目標】2, 4, 5に対応
3. レポート(10%)  
【達成目標】2に対応

**【学生へのメッセージ】**

小説や評論の本文を丁寧に読むことを心がけてください。丁寧に読むというのは、分からない言葉は調べて、その粗筋や要旨を自分で説明できるようになるまで繰り返し読むということです。

課題やレポートはしっかりと評価します。期限を守って確実に提出するようにしてください。試験は授業時を中心に普段から継続的に取り組んで受けてください。

質問は随時受け付けます。スケジュールを確認して来室して下さい。

**【授業科目名】古典文学**

Classical Literature

**【対象クラス】**5年全学科**【科目区分】**応用科目・選択(教育目標との対応:A-1)  
(JABEE 基準との対応:a, b)**【授業形式・単位数】**講義・1単位**【開講期間・時間数】**前期,後期・100分**【担当教員】**村田秀明(一般科)

(研究室) 一般棟3F 村田教員室

E-mail: murata@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**【科目概要】**

中国の古典は、日本人の生活や考え方の中に生き続けている。特に人生や社会、自然に対して述べられている思想や感情が人間の本質に触れ、読む人の心に感動を与える。

中国古典の中から引用された言葉、教訓、寓話、故事の典故となった文章を、テーマ別に分類して、有名無名の人物のさまざまな生き方を、的確に読みとり、今後の生活や人生について考える。

**【授業方針】**

漢文原文への抵抗感をやわらげ、漢文がもっと身近なものとなるように、漢文、訓読文、語注、現代語訳をプリントした教材を使用する。また、故事成語と関連することがらを取り上げ、知識を広げる。さらに、関連する現代社会における事例も取り上げ、地球的視野に立った自分の生き方について考える手がかりとなるような授業にしたい。

**【達成目標】**

1. 音読、朗読を通して漢文の調子などを味わう。
2. 故事成語について、その成立背景を正確に理解する。
3. 故事成語についての正確な意義を理解する。
4. 故事成語の典故に関連した日本の小説などを取り上げて、その受容について理解する。

**【教科書等】**

教科書: 故事成語に関する典故の漢文、訓読文、語注、現代語訳をプリントした教材

参考書: 適宜、紹介する。

**【授業スケジュール】**

1. 「熟練の技」石に立つ矢  
画竜点睛
2. 「熟練の技」百発百中  
虱を射抜く
3. 小説「名人伝」人形劇「不射の射」

4. 「心の裏表」吮疽の仁

三人虎を成す

5. 「人間の絆」孟母三遷

孟母断機

6. 「人間の絆」覆水盆に返らず

糟糠の妻

7. 「人間の絆」管鮑の交わり

8. 〔中間試験〕

9. 「政治の心」苛政は虎よりも猛し

三年泣かず飛ばず

10. 「政治の心」貞観の治

天知る地知る

11. 「さまざまな生き方」蘇武と李陵①

12. 「さまざまな生き方」蘇武と李陵②

13. 小説「李陵」

14. 「さまざまな生き方」潔く身を引く

尾を塗中にひく

15. 「説得の法」不死の薬

狡兎死して良狗烹らる

〔前期末試験〕

**【関連科目】**

- 「国語I」(1年必修)  
「国語II」(2年必修)  
「国語III」(3年必修)  
「近代と文学」(4年選択)  
「国語表現」(4年選択)  
「日本現代文学」(5年選択)

**【成績の評価方法と評価基準】**

- \* 1から3の目標項目については定期試験で確認する。  
\* 目標項目の4については、レポートで確認する。  
\* 成績の算出方法は、2回の定期試験の平均点(80%) + レポート点(20%)とする。  
\* 上記の方法で算出した成績が60点以上で合格とする。

**【学生へのメッセージ】**

普段の生活においてはあまりであうことのない漢文に触れることも多いと思うが、めげずに頑張ってもらいたい。

講義で取り上げる中国古典の中から引用された言葉、教訓、寓話、故事を通して、有名無名の人物のさまざまな生き方を、的確に読みとり、今後の生活や人生について考える手がかりとして欲しい。

質問は随時受け付けます。スケジュールを確認して来室して下さい。



【授業科目名】哲学 Philosophy

【対象クラス】5年全学科

【科目区分】応用科目・選択

(教育目標との対応：A-1, D-1)

(JABEE 基準との対応：a,b)

【授業形式・単位数】講義・1単位

【開講期間・時間数】前期・後期・100分

【担当教員】小林 幸人(一般科)

(研究室)一般棟1F 小林教官室

E-mail: kobayasi@as.yatsushiro-nct.ac.jp

【科目概要】

本講義では、現代社会における様々な問題を哲学的に考察することを通じて、幅広い視野で実際の問題を捉える訓練をおこなうことを目標とします。

【授業方針】

今年度は主に「認識と世界」「科学・技術と人間」「現代の倫理」というテーマを取り扱います。前期、後期ではテーマは異なりますが、哲学的な思考を体験することを主たる目的としています。

授業は講義中心におこないますが、それぞれのテーマについて、様々な哲学者の考え方を紹介しながら、最終的にはみなさん自身にその問題について考えてもらい、レポートを提出してもらいます。

【達成目標】

1. 哲学的な態度と自然科学的な態度との違いを理解することができる。
2. 各テーマについて、何が問題となっているのかを理解し、説明できる。
3. 各テーマの論点を整理し、指摘することができる。
4. 自分の考えを論理的に説明できる。
5. 自分の問題関心に沿ってテーマを設定し、それについて論理的に論述することが出来る。

【教科書等】

教科書：「技術者倫理」松島 他 学術図書出版社

参考書：「現代哲学の招待」城塚登他 有斐閣選書

「科学哲学」小林道夫 産業図書

【授業スケジュール】

31. ガイダンス 問題提起：認識と世界の存在
2. 近代的世界観：デカルトとベーコンの思想
3. 主観-客観と認識論上の問題
4. 自然科学の方法：実証主義
5. 科学的相対主義：理論負荷性のテーゼとパラダイム論
6. 哲学的認識論(1)：カントの認識論
7. 哲学的認識論(2)：フッサールの認識論
8. 〔中間試験〕
9. 中間試験の返却と解説
10. 近代科学の精神
11. 科学技術がもたらす諸問題
12. テクノロジーとヒューマニズム：ハイデガーの技

術論

13. 科学技術者の責任

14. 科学・技術と社会

〔前期末試験〕

15. 前期末試験の返却と解説

16. 問題提起：価値問題と事実問題～科学と哲学～

17. 道徳哲学の系譜

18. 義務論と功利主義：道徳哲学の理論

19. 倫理とは何か？

20. 価値相対主義

21. 個人と他者、および社会

22. 倫理規範の妥当性

23. 〔後期中間試験〕

24. 試験の返却と解説

25. 科学技術と現代社会：現代社会の倫理問題

26. 応用倫理学(1)：環境倫理

27. 応用倫理学(2)：生命倫理

28. 応用倫理学(3)：情報倫理

29. 応用倫理学(4)：技術者倫理と企業倫理

〔学年末試験〕

30. 学年末試験の返却と解説

【関連科目】

本科3年「倫理・社会」、本科4年「現代社会論Ⅰ」

専攻科1年「技術倫理」、専攻科2年「生産と法」

【成績の評価方法と評価基準】

2回の試験とレポートによって評価します。試験とレポートの割合は以下のとおり。

試験…80%、レポート…20%

試験では、授業で説明した内容についての理解を評価し、レポートでは各テーマについてそれぞれ考察した内容を説得的に論述できているかという点を評価します。

成績不振者に対しては、再試験を行います。また、レポートについても再提出を指示することがあります。

【学生へのメッセージ】

授業の内容を単に覚えるだけでなく、自ら考えるということが必要です。様々な哲学者たちの考え方を覚えるのではなく、何を問題としているのかという点をまず理解するよう心がけてください。

質問・要望等についてはいつでも対応します。スケジュールを確認して来室してください。また、授業の際に質問用紙を配布しますので、積極的に利用してください。メールでの質問にも対応します。

以下のアドレスで、授業に関する情報を発信しています。

<http://s-pagein.st.yatsushiro-nct.ac.jp/~kobayasi/>

【授業科目名】現代社会論Ⅱ

Social Theory Ⅱ

【対象クラス】5年全学科

【科目区分】応用科目・選択

(教育目標との対応：A-1, G-1)

(JABEE 基準との対応：a, b, g)

【授業形式・単位数】講義・1単位

【開講期間・時間数】前期・後期・100分

【担当教員】佐藤伸二(一般科)

(研究室)一般棟1F 佐藤研究室

E-mail: sato@as.yatsushiro-nct.ac.jp

【科目概要】

第2次世界大戦後の日本社会の変化をたどりながら、家族に関する諸問題について考える。

【授業方針】

参考書や新聞記事の関連部分を読み、体験を語り、学生と議論しながら授業を進める。

【達成目標】

1. 戦後、日本の政治・経済の動きの概観を理解できる。
2. 日本社会で重要な役割を果たしてきた「家(いえ)制度」の基本的な性格を理解し、その崩壊過程を理解できる。
3. 日本の住居の変化を家族のあり方との関連で理解できる。
4. 日本の婚姻制度の歴史と結婚観の変化を理解できる。
5. 日本の名字・家名の性格を中国や朝鮮半島と比較しながら理解できる。
6. 夫婦別姓・男女共同参画社会など家族をめぐる問題について考えることができる。

【教科書等】

教科書：講義内容に即したプリントを配布する。

参考書：『図説家族問題の現在』湯沢雍彦 NHK ブックス

『日本住宅の歴史』平井聖 NHK ブックス

『日本人はどう変わったのか 一戦後から現代へ』祖父江孝男 NHK ブックス

『未婚化の社会学』大橋照枝 NHK ブックス

ス

【授業スケジュール】

1. はじめに
2. 戦後政治の概観Ⅰ(戦後復興と55年体制の成立)
3. 戦後政治の概観Ⅱ(冷戦終結と日本社会の動揺)
4. 戦後経済の概観(高度成長とバブル経済)
5. 家族と旧民法の「家」制度とその解体

6. 核家族化の流れ

7. 日本住宅の歴史(家族のあり方との関連で)

8. (中間試験)

9. 女性の地位と性役割分業観の変化

10. 男女共同参画社会基本法をめぐって

11. 婚姻制度の歴史と結婚観の変化

12. 少子化をめぐって

13. 日本の名字・家名と中国・朝鮮の姓

14. 創氏改名政策及び夫婦別性をめぐって

(前期末試験、学年末試験)

15. 試験返却及びまとめ

【関連科目】

本科3年 倫理・社会

本科4年 現代社会論Ⅰ

【成績評価】

定期試験(2回)とレポートにより評価する。

〔試験：80%、レポート：20%〕

【学生へのメッセージ】

自分の身のまわりのことに興味をもち、楽しみながらいろいろと考えること。

授業への質問や要望は基本的に授業の前後の休憩時間を利用してほしいところですが、メールでも随時受け付けます。

**【授業科目名】東アジアの中の日本**

East Asian studies

**【対象クラス】**5年全学科**【科目区分】**一般応用科目・選択

(教育目標との対応: A-1, A-2, G-1)

(JABEE 基準との対応: a, b, g)

**【授業形式・単位数】**講義・2単位**【開講期間・時間数】**通期・100分**【担当教官】**今西利之(熊本大学留学生センター)

E-mail: imanishi@gpo.kumamoto-u.ac.jp

佐藤伸二、時松雅史(一般科)

(研究室)一般棟1F 佐藤、時松研究室

E-mail: sato@as.yatsushiro-nct.ac.jp

E-mail: tokimatu@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**【科目概要】**

この授業では、日本語教育などでよく取り上げられるさまざまな問題に例をあげながら、日本語を客観的に見つめ直すための基本的な考え方について解説する。日本本土では各地に仏教寺院が見られ、年中行事や葬送儀礼などにも仏教が深くかかわっている。一方、沖縄にはこのような仏教文化の浸透は見られない。このような違いが生じた理由を東アジアの歴史の流れで考えたい。最後に中国をはじめとする東アジアの経済を日本経済のかかわりについて解説する。

**【授業方針】**

具体的な言語事実をもとに、日本語学・言語学で用いられる基本的な概念や考え方について解説することを通じて、自らの日本語の使用を意識化し、日本語を客観的に分析する視点を養う。

インドに起った仏教が東アジア的に変化し、日本に伝来し、定着した過程を理解させ、日本的な文化とは何かを考えさせる。さらに戦後のアジアの発展についてOHPを用いて概説をおこなう。

**【達成目標】**

1. 日本とアジア諸国の関わりについて理解できる。
2. 日本語を日本語学・言語学的な観点から分析できる。
3. 日本語を分析するための基本的概念を理解できる。
4. 日本語学習者から見た日本語がどのようなものであるかを考えることができる。
5. 仏教が日本本土の文化と深くかかわっていることを、仏教美術・年中行事などによって理解できる。
6. 沖縄の文化が、日本本土のそれと、やや異なっている理由を理解できる。
7. 戦後、アジア経済がどのように発展してきたのか、資料や統計を用いて説明できる。

**【教科書等】【教科書等】**

教科書: 講義内容に即したプリント(日本語、仏教、アジア経済)を配布する。

参考書: 『新しい日本語学入門』庵功雄 スリーエーネットワーク

『日本語教育指導参考書 22 日本語教育のため

の文法用語』国立国語研究所

『世界の宗教』村上重良 岩波ジュニア新書

『仏像に想う』梅原猛・岡部伊都子 講談社

『沖縄の歴史』宮城栄昌 NHK ブックス

『メイド・イン・チャイナ』黒田篤郎 東洋経済新報社

**【授業スケジュール】**

1. 日本語学とは
2. 音声
3. 音韻
4. 学校文法、活用
5. 言葉のゆれ、言語変化
6. 助詞、格
7. 「は」と「が」
8. (中間試験)
9. ヴォイス
10. 動詞の自他
11. アスペクト
12. テンス
13. 命題・モダリティ
14. 方言 (前期末試験)
15. 試験返却及びまとめ
16. 仏教の発展と仏像の成立
17. 東アジアに定着した仏教
18. 日本への仏教の伝来と定着
19. 仏教と神々の信仰との融合
20. 禅宗文化と日本庭園
21. 日本人に親しまれた仏像
22. 仏教が浸透しなかった沖縄
23. (中間試験)
24. 欧米による植民地支配
25. 中国の対外開放政策と日本企業(1)
26. 中国の対外開放政策と日本企業(2)
27. 韓国の発展
28. 「日本の台所」としての東南アジア
29. アジア経済の発展と日本 (学年末試験)
30. 試験返却及びまとめ

**【関連科目】**

地理・歴史 I・II、不知火の自然と文化

**【成績評価】**

定期試験(4回)とレポートにより評価する。

〔試験: 90%、レポート: 10%〕

**【学生へのメッセージ】**

普段から、日本語のさまざまな言語事実疑問をもち、日本文化に目を向け、自分の言葉で説明できるようにしてください。

授業への質問や要望は基本的に授業の前後の休憩時間を利用してほしいところですが、メールでも随時受け付けます。

**【授業科目名】健康科学(ゴルフ・コース)**

Health Science

**【対象クラス】**5年生全学科**【科目区分】**応用科目・選択

(教育目標との対応: B-1, G-1)

(JABEE 基準との対応: c, e, g, h)

**【授業形式・単位数】**講義及び実技・2単位**【開講期間・時間数】**通期・100分**【担当教員】**宅島 章(一般科)

(研究室)一般棟1F 宅島教員室

E-mail: takusima@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**【科目概要】**

健康科学は、生涯にわたる健康づくりという観点から授業を展開する。食育・休養・体力づくりの3本柱を重点的に取り上げながら、これらの社会現状等の情報も伝え、健康の自己管理や家族及び職場を含めた社会における安全で健康な生活を実践する態度や知識を学ぶ。

授業は、毎回、前半に第1体育館にて理論の講義を行う。後半は、選択コースに分かれ実技を行う。

**【授業方針】**

理論については、学生時代は勿論、その後の健康づくり(運動・休養・栄養)について学習し、実践活動ができるように講義を行う。

実技については、安全に各技術を分析し、運動力学やスポーツ心理学、運動方法学からゴルフを科学することができるようにする。

また、実戦コースにてプレーできるようゴルフのルールやエチケットについて理解させる。

時間厳守・道具や施設の維持管理を励行することを強く望む。

**【達成目標】**

1. 打球のミートが確実にできる。
2. 打球方向性を高めることができる。
3. クラブの選択が用途によって適確に判断できる。
4. 各種技術の向上と研究に取り組むことができる。
5. 競技規則が理解できる。
6. マナー・エチケットを実践できる。
7. コースに出て、他の競技者とプレーすることができる。

**【教科書等】**

教科書・参考書: 毎回、資料を配布する。また、必要に応じて紹介する。

**【授業スケジュール】**

1. 健康科学の授業方針と評価について
2. スポーツ選手の食事のあり方とトレーニング
  - ①筋肉・骨づくりのための食事
3. ②スタミナづくりのための食事
4. ③太りを防止する食事
5. ④試合期の食事(試合前日、当日)
6. ⑤運動と飲み水
7. 体組成及び体力の自己測定
8. [中間試験]
9. 試験の解答
10. 運動不足の実態とその弊害
11. 青年期の健康
12. 働き盛りと老齢期の健康
13. 運動の効果
14. 健康の基盤としての体力及び運動処方 [前期末試験]
15. 試験の解答

**【関連科目】**

本科4年スポーツ科学

**【成績の評価方法と評価基準】**

定期試験を2回の他、実技テストを行う。2回の定期試験を70%、実技テストを30%の割合で、総合的に成績を算出する。

**【学生へのメッセージ】**

- 安全に実技ができる指定された運動着と運動靴を装着すること。
- 常に安全第一で、技術の修得に励むこと。
- 授業で得た知識や技術は、日常生活で実践励行すること。
- 質問及び技術指導等については、授業中は勿論、他の時間帯でも受け付ける。

【授業科目名】健康科学（レクリエーションコース）

Health Science

【対象クラス】5年生全学科

【科目区分】応用科目・選択

（教育目標との対応：B-1, G-2）

（JABEE 基準との対応：c, e, g, h）

【授業形式・単位数】講義及び実技・2単位

【開講期間・時間数】通期・100分

【担当教官】四宮一郎（一般科）

（研究室）一般棟 1F 四宮教員室

E-mail: sinomiya@as.yatsushiro-nct.ac.jp

【科目概要】

生涯にわたり健康な生活を送るためには、運動は欠かせないものである。生活習慣病が社会問題となっている今日、運動を日常生活の一部として行っている人も少なくない。そこで本コースでは生涯スポーツの見地から、年齢に応じたプレーが可能なバドミントンと短い滑走時間でも運動量が確保できるローラースケートを取り入れ、授業を展開していく。

【授業方針】

授業は、100分の内前半を第1体育館にて講義を行い、後半に選択コース別に分かれて実技を行う。

【トレーニング論】：体力や競技力を向上させるためには、トレーニングが欠かせないものであることは言うまでもない。トレーニングにおいては体力と技術の関連をよく理解して、目指す体力や技術が最も効率的に高められる方法を用いてトレーニングしていくことが望まれる。そこで本講義では、運動処方手順や各種トレーニング方法及びトレーニング効果について理解を深め、実践できる能力と態度を育てたい。

【バドミントン】：今までに習得したバドミンントンの技術をさらに高め、攻撃や守りの複雑な戦法を身につけ、シングルス、ダブルスのゲームで応用できるようにする。また、審判法についても学び、お互いに審判ができ、スコアの記入ができるようにする。

【ローラースケート】：基本的な滑走技術を習得し、基本滑走を組み合わせた滑走プログラムを作り、スケートを楽しめることができるようにする。

【達成目標】

1. 身体づくりを理解し、骨格と筋肉の関係を理解することができる。
2. 運動の必要性を理解し、生涯にわたり運動を行うことができる。
3. 各種トレーニング方法を理解し、自分に合ったトレーニングプログラムを作成することができる。
4. 技能の向上と各種大会の計画立案と運営ができる。（生涯スポーツにつながるよう）。
5. 審判法の習得しゲームを楽しむことができる。
6. 社会的態度（規則を守る・責任感・協調性・安全性）を育成する。

【教科書等】

参考書：「運動処方入門」 堀居 昭 共栄出版

「現代人のエクササイズとからだ」

健康科学木曜研究会編 ナカニシヤ出版

その他適宜資料等配布する。

【授業スケジュール】

[トレーニング論]

1. 体のづくり（骨格系、筋肉系）
2. 運動の必要性
3. 運動処方及び運動のやりかた
4. 体力の構造とトレーニングの原理
5. コンディショニングとしてのワークアウト
6. ワークアウトの構成、ワークアウトの実際
7. 筋収縮の様式、筋力とトレーニング、トレーニング負荷の設定
8. (中間試験)
9. 中間試験の返却と解説
10. アイソメトリック・トレーニング
11. 筋力トレーニング
12. 筋パワートレーニング
13. 筋持久力トレーニング
14. ランニング系及びサーキットトレーニング  
(後期学年末試験)
15. 後期学年末試験の返却と解説

[バドミントン、ローラースケート]

1. レクリエーションコースについてのガイダンス他
2. バドミンントンの基本ショット、フットワーク
- 3~7. 基本ショット、ダブルスゲームの進め方  
審判法、スコア記入法
- 8~12. ダブルスゲーム（グループ別リーグ戦）
- 13~15. シングルスゲームの進め方、ゲーム
16. ローラースケートに関するガイダンス他
- 17~24. 基本滑走技術  
(前進、バック、ターン、クロッシング)
- 25~27. 数人で滑走プログラムの作成及び練習
- 28~30. 滑走プログラムの発表会

【関連科目】

4年スポーツ科学

【成績の評価と評価基準】

\*2回の定期試験及びレポートを総合して行う。

\*定期試験の平均点〔90%〕+レポート〔10%〕

【学生へのメッセージ】

始業時間を厳守すること。また、本授業で学んだ知識を今後の日常生活にいかし、生涯にわたり健康な生活を送ることができるよう努力して欲しい。

質問は随時受け付けます。スケジュールを確認して来室して下さい。

【授業科目名】英語V English V

【対象クラス】5年生全学科

【科目区分】基礎科目・選択

（教育目標との対応：F-2, F-3, A-2）

（JABEE 基準との対応：f, b, a）

【授業形式・単位数】講義・2単位

【開講期間・時間数】通期・100分

【担当教官】長嶺 寿宣（一般科）

（研究室）一般棟 3F 長嶺教員室

E-mail: nagamine@as.yatsushiro-nct.ac.jp

【科目概要】

英語Vでは、英語I, II, 及びIIIで修得した言語知識・言語能力を、科学技術分野での研究や就職後の仕事へ活かし、異文化理解に役立てていくための科目である。主に、進学希望者を対象とし、より専門的で高度な英語の知識と運用能力の修得をサポートする。

【授業方針】

授業は、教科書を用いた講義形式を進めていく。講義に加えて、4技能(speaking, listening, reading, writing)を実践的な運用能力へ発展させるために、音読練習、ディクテーション、既習語彙・構文の口頭練習等のトレーニングを行う。更に、英字新聞等の科学的な記事に関する英作文課題や英語での口頭発表を課す。随時、文法事項・語彙の小テストを実施し、TOEIC受験を視野に入れた問題演習も行う。長期休暇には課題を与え、課題への取り組みを確認する試験を課す。自発的な学習方法・習慣の確立を目指した指導も行う。

【達成目標】

1. 科学技術についての英文を読み、内容を正確に理解することができる。
2. 内容を理解した英文についての英語の質問に、英語で的確に答えることができる。
3. 内容を理解した英文を、正確な発音、イントネーションで音読することができる。
4. 科学技術についての英語を聞き、正確に内容を理解し、また書き取ることができる。
5. 与えられた英語表現を用いて、科学技術についての自分の意見を英語で表現できる。

【教科書等】

教科書：

『Judy先生の耳から学ぶ科学英語』

野口ジュディー（講談社）

副教材：

『The TOEIC Test Target 500 score and Beyond』

森田勝之（金成堂）

『Duo セレクト：厳選英単語・熟語 1600』

鈴木陽一（アイシーピー）

参考書：

『大学生のための英文法』 豊永彰（南雲堂）

【授業スケジュール】

- 第1週： ガイダンス
- 第2週～8週： Lesson 1~7  
[前期中間試験]  
試験返却・解説
- 第9週～14週： Lesson 8~12  
[前期末試験]  
試験返却・解説
- 第15週～23週： Lesson 13~15  
[後期中間試験]  
試験返却・解説
- 第24週～29週： Lesson 16~20  
[学年末試験]  
試験返却・解説
- 第30週： 講義総括

\*教科書以外の教材については別途指示する。

【関連科目】

1~4年次までの英会話を含む英語科目、技術英語、専門英語。専攻科における英語講読とスピーチコミュニケーション。

【成績の評価と評価基準】

\*目標項目1, 2, 4は定期試験と小テストで確認する。

\*目標項目3は授業中の言語活動を10段階評価することによって確認する。

\*目標項目5は英作文課題と言語活動で確認する。

\*最終成績は定期試験を70%, 課題と小テストを20%, 言語活動の評価を10%として算出し60%以上を合格とする。

【学生へのメッセージ】

・国際社会では、英語で読み書きができるだけでは通用しません。授業での音を介した言語活動に積極的に取り組み、運用能力の基盤を作ってください。  
・講義への質問や要望はメールでも随時受け付けるので活用すること。来室の場合は、授業や会議のスケジュールを通知するので、確認すること。  
・英語が苦手？勉強の仕方が分からない？大丈夫です！いつからでもやり直せるのが語学学習です。学習法についても、ぜひ相談してください。

**【授業科目名】基礎定着セミナー 1**

Seminar A1

**【対象クラス】**1年全学科(4クラス開講)**【科目区分】**特別選択科目・選択

(教育目標との対応:E-2)

**【授業形式・単位数】**演習・1単位**【開講期間・時間数】**前期・100分**【担当教官】**

元田康夫(一般科)・吉田幸一(非常勤)・

野入隆(非常勤)・宮坂義治(非常勤)

(研究室)一般棟2F 元田教員室

E-mail:motoda@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**【科目概要】**

本科目は、数学Iでの学習事項の定着に必要な能力を補い強化することを主題とし、学生一人一人が自学自習し、学習の習慣が身につくよう支援を行う。

**【授業方針】**

基礎(1クラス)と標準(2クラス)および発展(1クラス)の4クラスにおいて全1年生を対象に実施する。数学Iの前期の学習内容を授業進度と並行させ、復習による確認を通じて基礎の定着を行う。

実施にあたっては、対象学年を優先する。

**【達成目標】**

1. 数学Iの基礎となる事項の理解を深めるという本セミナーの趣旨を理解し、自分から積極的に本セミナーに参加し、これを自己研鑽に利用する。
2. 与えられた教材を利用して、自分で問題を考え、自分で解決するまでの姿勢を身につける。
3. 演習の繰り返しにより帰納的に理解が深められることもあることを知り、普段からの積み重ねの大切さを学び、学習習慣の確立に役立てる。

**【教科書等】**

教科書:新編 高専の数学1(第2版)

田代嘉宏・難波完爾編 森北出版

参考書:新編 高専の数学1問題集(第2版)

田代嘉宏編 森北出版

**【授業スケジュール】**

受講生の習熟度に応じて、必要な場合には中学既習の事項も取り入れながら、基礎的事項の定着をはかる形式で15週の演習を行う予定である。

(数学I授業スケジュールも参照のこと)。

**【関連科目】**

本科1年 数学I

**【成績の評価と評価基準】**

目標項目1, 2, 3とも、各週の演習における取り組み状況を評価した教員によるポートフォリオにより、優良可で評価する。

**【学生へのメッセージ】**

- ・一般科基礎セミナーは、「自学自習」をメインテーマとして実施されるので、学生諸君は積極的にこのセミナーを利用してほしい。
- ・講義や演習に関する質問は、放課後を利用して教員室まで訪ねてきてください。尚、担当の者だけでなく数学科全員で対応しておりますので気軽に声をかけてください。

**【授業科目名】基礎定着セミナー 2**

Seminar A2

**【対象クラス】**1年全学科(4クラス開講)**【科目区分】**特別選択科目・選択

(教育目標との対応:E-2)

**【授業形式・単位数】**演習・1単位**【開講期間・時間数】**後期・100分**【担当教官】**

濱田さやか(一般科)・吉田幸一(非常勤)

野入隆(非常勤)・宮坂義治(非常勤)

(研究室)一般棟2F 濱田教員室

E-mail:hamada@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**【科目概要】**

本科目は、数学Iでの学習事項の定着に必要な能力を補い強化することを主題とし、学生一人一人が自学自習し、学習の習慣が身につくよう支援を行う。

**【授業方針】**

基礎(1クラス)と標準(2クラス)および発展(1クラス)の4クラスにおいて全1年生を対象に実施する。数学Iの後期の学習内容を授業進度と並行させ、復習による確認を通じて基礎の定着を行う。

実施にあたっては、対象学年を優先する。

**【達成目標】**

1. 数学Iの基礎となる事項の理解を深めるという本セミナーの趣旨を理解し、自分から積極的に本セミナーに参加し、これを自己研鑽に利用する。
2. 与えられた教材を利用して、自分で問題を考え、自分で解決するまでの姿勢を身につける。
3. 演習の繰り返しにより帰納的に理解が深められることもあることを知り、普段からの積み重ねの大切さを学び、学習習慣の確立に役立てる。

**【教科書等】**

教科書:新編 高専の数学1(第2版)

田代嘉宏・難波完爾編 森北出版

参考書:新編 高専の数学1問題集(第2版)

田代嘉宏編 森北出版

**【授業スケジュール】**

受講生の習熟度に応じて、必要な場合には中学既習の事項も取り入れながら、基礎的事項の定着をはかる形式で15週の演習を行う予定である。

(数学I授業スケジュールも参照のこと)。

**【関連科目】**

本科1年 数学I

**【成績の評価と評価基準】**

目標項目1, 2, 3とも、各週の演習における取り組み状況を評価した教員によるポートフォリオにより、優良可で評価する。

**【学生へのメッセージ】**

- ・一般科基礎セミナーは、「自学自習」をメインテーマとして実施されるので、学生諸君は積極的にこのセミナーを利用してほしい。
- ・講義や演習に関する質問は、放課後を利用して教員室まで訪ねてきてください。尚、担当の者だけでなく数学科全員で対応しておりますので気軽に声をかけてください。

**【授業科目名】基礎定着セミナー 3**

Seminar A3

**【対象クラス】**1～2年全学科(1クラス開講)**【科目区分】**特別選択科目・選択

(教育目標との対応：E-2)

**【授業形式・単位数】**演習・1単位**【開講期間・時間数】**後期・100分**【担当教員】**長嶺 寿宣(一般科)

(研究室) 一般棟3F 長嶺教員室

E-mail: nagamine@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**【科目概要】**

本科目は、主に英語Ⅰでの学習事項定着の基礎となる能力を補い強化することを主題とし、学生一人一人が自学自習し、学習の習慣が身につくよう支援を行う。

**【授業方針】**

本演習は、基礎的事項の定着を図るために、問題集を用いた演習に加えて、音読練習・ディクテーション等のトレーニングを行う。従って、授業への積極的な参加が求められる。また、自発的な学習方法・習慣の確立を目指した指導も行う。

実施にあたっては、学年にかかわらず受講できるが、受講希望者が多数の場合は、対象学年を優先的に受講者を決定する。

**【達成目標】**

1. 英語Ⅰの基礎となる事項の理解を深めるという本セミナーの趣旨を理解し、自分から積極的に本セミナーに参加し、これを自己研鑽に利用する。
2. 与えられた教材を利用して、自分で問題を考え、自分で解決するまでの姿勢を身につける。
3. 演習の繰り返しにより帰納的に理解が深められることもあることを知り、普段からの積み重ねの大切さを学び、学習習慣の確立に役立てる。

**【教科書等】**

教科書、副教材共に教員より配布するハンドアウトを用いる。

**【授業スケジュール】**

受講生の習熟度に応じて、必要な場合には中学既習の事項も取り入れながら、基礎的事項の定着をはかる形式で15週の演習を行う予定である。

**【関連科目】**

このセミナーは英語Ⅰから始まる本校の全英語科目の基礎となる科目である。

**【成績の評価と評価基準】**

目標項目1, 2, 3とも、各週の演習における取り組み状況を評価した教員によるポートフォリオにより、優良可で評価する。

**【学生へのメッセージ】**

一般科基礎セミナーは、「自学自習」をメインテーマとして実施されるので、学生諸君は積極的にこのセミナーを利用してほしい。

**【授業科目名】基礎定着セミナー 4**

Seminar A4

**【対象クラス】**1～2年全学科(1クラス開講)**【科目区分】**特別選択科目・選択

(教育目標との対応：E-2)

**【授業形式・単位数】**演習・1単位**【開講期間・時間数】**前期・100分**【担当教員】**濱田 さやか(一般科)

(研究室) 一般棟2F 濱田教員室

E-mail: hamada@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**【科目概要】**

技術者の基本ツールであるパソコンに慣れるための入門編として、タイピングソフトによる実習を行う。また、ワープロや表計算などのアプリケーションの基本的な操作について演習を行う。なお、場所は専門棟4Fの情報処理センターで実施する。

**【授業方針】**

実施にあたっては、学年にかかわらず受講できるが、受講希望者が多数の場合は、対象学年を優先的に受講者を決定する。

**【達成目標】**

1. タイピングソフトを用いて、自分自身で練習することができる。また、自分の上達速度にあわせて、タイピングソフトを有効活用できる。
2. ワープロソフトや表計算ソフトについての基本的な使用法を理解し、簡単な文書を作成することができる。また、ネットワーク上のエチケットを遵守して、ネットワークを利用できる。

**【教科書等】**

タイピングについては専用ソフトを用いる。また、ワープロソフトや表計算については、演習プリントを配布する。

**【授業スケジュール】**

10週：タイピング演習

5週：ワープロソフト及び表計算演習

**【関連科目】**

特になし

**【成績の評価と評価基準】**

セミナーへの出席状況や取り組み状況及び課題によって優良可で評価する

**【学生へのメッセージ】**

本セミナーは、パソコン初学者に対して開講するものです。従って、自分に必要かどうかをしっかりと考え、受講してください。

また、基本的な情報ツールとしてのパソコンは、教えられるだけでは身に付かず、自ら覚えるものであるという点をしっかりと認識して、積極的に演習を行うことを心がけてください。

【授業科目名】応用力養成セミナー1  
Seminar B1

【対象クラス】2～4年全学科(1クラス開講)

【科目区分】特別選択科目・選択  
(教育目標との対応：E-2)

【授業形式・単位数】演習・1単位

【開講期間・時間数】前期・100分

【担当教員】宇ノ木 寛文(一般科)

(研究室) 一般棟2F 宇ノ木教員室

E-mail: unoki@as.yatsushiro-nct.ac.jp

【科目概要】

このセミナーは、英語I・IIで既習の事項が定着していることを前提に、応用的な英語運用力を伸長することを主題とし、学生一人一人が自学自習し、応用的学習の習慣や方法が身につくよう支援を行うことを目的に開講されている。

【授業方針】

本演習では、応用的英語運用力の定着を図るために、問題集を用いた演習に加えて、音読練習・ディクテーション等のトレーニングを行う。また、演習では、英語検定試験2級の問題集なども用い、資格試験に関する学習方法・習慣の確立を目指した指導も行う。実施にあたっては、学年にかかわらず受講できるが、受講希望者が多数の場合は、対象学年を優先的に受講者を決定する。

【達成目標】

1. 応用的英語運用力を伸長するという本セミナーの趣旨を理解し、自分から積極的に本セミナーに参加し、これを自己研鑽に利用する。
2. 与えられた教材を利用して、自分で問題を考え、自分で解決するまでの姿勢を身につける。
3. 演習の繰り返しにより帰納的に理解が深められることもあることを知り、普段からの積み重ねの大切さを学び、学習習慣の確立に役立てる。
4. 英語検定などの資格試験の形式に習熟し、学習方法などを身につける。

【教科書等】

教科書、副教材共に教員より配布するハンドアウトを用いる。

【授業スケジュール】

英語I・IIに関する受講生の習熟度に応じて、必要な場合には英語I・IIの既習の事項も取り入れながら、問題演習を通じて応用的運用力の伸長をはかる形式で15週の演習を行う予定である。

【関連科目】

このセミナーは英語I・IIで習得する事項の定着を前提とした科目である。

【成績の評価と評価基準】

目標項目1, 2, 3, 4とも、各週の演習における取り組み状況の評価した教員によるポートフォリオにより、優良可で評価する。

【学生へのメッセージ】

一般科応用力養成セミナーは、「自学自習に基づく応用力の養成」をメインテーマとして実施されるので、学生諸君は積極的にこのセミナーを利用してほしい。

【授業科目名】応用力養成セミナー2  
Seminar B2

【対象クラス】2～4年全学科(1クラス開講)

【科目区分】特別選択科目・選択  
(教育目標との対応：E-2)

【授業形式・単位数】演習・1単位

【開講期間・時間数】後期・100分

【担当教員】元田康夫(一般科)

(研究室) 一般棟2F 元田教員室

E-mail: motoda@as.yatsushiro-nct.ac.jp

【科目概要】

このセミナーは、数学I・IIで既習の事項が定着していることを前提に、応用的な数学力を伸長することを主題とし、学生一人一人が自学自習し、応用的学習の習慣や方法が身につくよう支援を行うことを目的に開講されている。

【授業方針】

主に数学I、数学IIの学習内容に関する問題のほか、「実用数学技能検定」の2級程度の問題を解くことを行う。またいろいろな種類の問題を通じて、多くの公式や今までに習得した知識を上手に使いこなすことを目指す。

【達成目標】

1. 応用的数学力を伸長するという本セミナーの趣旨を理解し、自分から積極的に本セミナーに参加し、これを自己研鑽に利用する。
2. 与えられた教材を利用して、自分で問題を考え、自分で解決するまでの姿勢を身につける。
3. 演習の繰り返しにより帰納的に理解が深められることもあることを知り、普段からの積み重ねの大切さを学び、学習習慣の確立に役立てる。
4. 数学検定などの資格試験の形式に習熟し、学習方法などを身につける。

【教科書等】

教科書：新編 高専の数学1、2(第2版)

田代嘉宏・難波完爾編 森北出版

参考書：新編 高専の数学1、2問題集(第2版)

田代嘉宏編 森北出版

【授業スケジュール】

数学I・IIに関する受講生の習熟度に応じて、必要な場合には英語I・IIの既習の事項も取り入れながら、過去に出題された問題を研究するなど数学検定2級受験の準備も視野に入れ、応用的運用力の伸長をはかる形式で15週の演習を行う予定である。

【関連科目】

本科1年 数学I

本科2年 数学II

【成績の評価と評価基準】

目標項目1, 2, 3, 4とも、各週の演習における取り組み状況の評価した教員によるポートフォリオにより、優良可で評価する。

【学生へのメッセージ】

・一般科応用力養成セミナーは、「自学自習に基づく応用力の養成」をメインテーマとして実施されるので、学生諸君は積極的にこのセミナーを利用してほしい。

・講義や演習に関する質問は、放課後を利用して教員室まで訪ねてきてください。尚、担当の者だけでなく数学科全員で対応しておりますので気軽に声をかけてください。

**【授業科目名】進路支援セミナー 1**

Seminar C1

**【対象クラス】** 4～5年全学科（1クラス開講）**【科目区分】** 特別選択科目・選択  
（教育目標との対応：E-2）**【授業形式・単位数】** 演習・1単位**【開講期間・時間数】** 前期・100分**【担当教官】** 小鉢暢夫（一般科）

（研究室）一般棟2F 小鉢教員室

E-mail: kohachi@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**【科目概要】**

このセミナーは、本校で学習してきた数学の基礎的事項を卒業後の進路で生かすために、より実践的な数学力を伸長すること、また公務員試験や入社試験などにおける数学関連科目への準備を主題とし、学生一人一人が自学自習し、応用的学習の習慣や方法が身につくよう支援を行うことを目的に開講されている。

**【授業方針】**

本演習では、応用的数学力の定着を図るために、1クラス開講して担当者の指示のもとで演習を実施する。演習では、**数学公務員試験**の問題集なども用い、試験に関する**学習方法・習慣の確立**を目指した指導も行う。実施にあたっては、学年にかかわらず受講できるが、受講希望者が多数の場合は、対象学年を優先的に受講者を決定する。

**【達成目標】**

1. 実践的数学力を伸長するという本セミナーの趣旨を理解し、自分から積極的に本セミナーに参加し、これを自己研鑽に利用する。
2. 与えられた教材を利用して、自分で問題を考え、自分で解決するまでの姿勢を身につける。
3. 演習の繰り返しにより帰納的に理解が深められることもあることを知り、普段からの積み重ねの大切さを学び、学習習慣の確立に役立てる。
4. 公務員試験などの形式に習熟し、学習方法などを身につける。

**【教科書等】**

教科書：新編 高専の数学1、2（第2版）

田代嘉宏・難波完爾編 森北出版

参考書：新編 高専の数学1、2問題集（第2版）

田代嘉宏編 森北出版

**【授業スケジュール】**

本校で学習した数学に関する受講生の習熟度に応じて、必要な場合には数学I・IIの既習の事項も取り入れながら、過去に出題された問題を研究するなど公務員試験数学関連科目受験の準備も視野に入れ、実践的運用力の伸長をはかる形式で15週の演習を行う予定である。

**【関連科目】**

本科1年 数学I

本科2年 数学II

**【成績の評価と評価基準】**

目標項目1、2、3、4とも、各週の演習における取り組み状況を評価した教員によるポートフォリオにより評価する。

**【学生へのメッセージ】**

- ・一般科進路支援セミナーは、「自学自習に基づく実践的な知識の運用力の養成」をメインテーマとして実施されるので、学生諸君は積極的にこのセミナーを利用してほしい。
- ・講義や演習に関する質問は、放課後を利用して教員室まで訪ねてきてください。尚、担当の者だけでなく数学科全員で対応しておりますので気軽に声をかけてください。

**【授業科目名】進路支援セミナー 2**

Seminar C2

**【対象クラス】** 4～5年全学科（1クラス開講）**【科目区分】** 特別選択科目・選択  
（教育目標との対応：E-2）**【授業形式・単位数】** 演習・1単位**【開講期間・時間数】** 後期・100分**【担当教員】** 宇ノ木 寛文（一般科）

（研究室）一般棟2F 宇ノ木教員室

E-mail: unoki@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**【科目概要】**

このセミナーは、本校で学習してきた英語の基礎的事項を卒業後の進路で生かすために、より実践的な英語運用力を伸長することを主題とし、学生一人一人が自学自習し、応用的学習の習慣や方法が身につくよう支援を行うことを目的に開講されている。

**【授業方針】**

本演習では、実践的英語運用力の定着を図るために、**問題集を用いた演習**に加えて、**音読練習・ディクテーション等のトレーニング**を行う。また、演習では、**TOEICの問題集**なども用い、資格試験に関する**学習方法・習慣の確立**を目指した指導も行う。実施にあたっては、学年にかかわらず受講できるが、受講希望者が多数の場合は、対象学年を優先的に受講者を決定する。

**【達成目標】**

1. 実践的英語運用力を伸長するという本セミナーの趣旨を理解し、自分から積極的に本セミナーに参加し、これを自己研鑽に利用する。
2. 与えられた教材を利用して、自分で問題を考え、自分で解決するまでの姿勢を身につける。
3. 演習の繰り返しにより帰納的に理解が深められることもあることを知り、普段からの積み重ねの大切さを学び、学習習慣の確立に役立てる。
4. TOEICなどの資格試験の形式に習熟し、学習方法などを身につける。

**【教科書等】**

教科書、副教材共に教員より配布するハンドアウトを用いる。

**【授業スケジュール】**

本校で学習した英語に関する受講生の習熟度に応じて、必要な場合には既習の事項も取り入れながら、問題演習を通じて実践的運用力の伸長をはかる形式で15週の演習を行う予定である。

**【関連科目】**

このセミナーは本校で学習したあらゆる英語科目で習得する事項の定着を前提とした科目である。

**【成績の評価と評価基準】**

目標項目1、2、3、4とも、各週の演習における取り組み状況を評価した教員によるポートフォリオにより評価する。

**【学生へのメッセージ】**

一般科進路支援セミナーは、「自学自習に基づく実践的な知識の運用力の養成」をメインテーマとして実施されるので、学生諸君は積極的にこのセミナーを利用してほしい。

**【授業科目名】進路支援セミナー3  
Seminar C3**

**【対象クラス】** 4～5年全学科（2クラス開講）

**【科目区分】** 特別選択科目・選択  
（教育目標との対応：E-2）

**【授業形式・単位数】** 演習・1単位

**【開講期間・時間数】** 後期・100分

**【担当教員】**

**道園 達也**（一般科）  
（研究室） 一般棟3F 道園教員室  
E-mail: mitizono@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**村田 秀明**（一般科）  
（研究室） 一般棟3F 村田教員室  
E-mail: murata@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**佐藤 伸二**（一般科）  
（研究室） 一般棟1F 佐藤教員室  
E-mail: satou@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**時松 雅史**（一般科）  
（研究室） 一般棟1F 時松教員室  
E-mail: tokimatu@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**小林 幸人**（一般科）  
（研究室） 一般棟1F 小林教員室  
E-mail: kobayasi@as.yatsushiro-nct.ac.jp

**【科目概要】**

このセミナーは、進学や就職の際に重要となる文章力の向上を目指して開講される。文章力は、技術者にとって必要なコミュニケーション能力の一つである。文章を用いたコミュニケーションは、様々な社会的な問題や課題に関する分析能力や自ら考察した事柄を分かりやすくまとめる能力を必要とする。このセミナーでは、小論文演習を通じて、それらの能力向上を目指す。

**【授業方針】**

いくつかのテーマを設定し、文章作成指導の後、受講者自身による情報収集・文章作成等の演習を行う。また、それぞれの受講者の担当教員による反復的な個別指導を行うことによって、文章力の向上を図る。

なお、セミナーの実施形態の都合上、受講者数に制限を設けることがある。

**【達成目標】**

1. 必要な情報を検索する方法を理解し、それらを収集・整理することができる。
2. 様々な課題について、問題点を理解し、それらを整理して文章にまとめることができる。
3. 自分の考えを分かりやすく人に伝えることができる。

**【教科書等】**

特に指定しない。

**【授業スケジュール】**

ガイダンスの後、担当教員と受講者との間でスケジュールを決定する。

**【関連科目】**

本科4年生「国語表現」他、国語系および社会系科目と関連する。

**【成績の評価と評価基準】**

左記学習・教育目標について、提出課題を用いて評価する他、課題の提出状況や個別指導での面談状況を考慮し、優良可で成績を評価する。

**【学生へのメッセージ】**

一般科進路支援セミナーは、「自学自習に基づく実践的な知識の運用力の養成」をメインテーマとして実施されるので、学生諸君は積極的にこのセミナーを利用してもらいたい。